操作手順書

▶プリンタドライバ

ご使用になる前に

本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

本製品を使用したことによって生じた損害賠償などに関しては、当社では一切その責任を負いかねますので、ご了承ください。

本アプリケーションソフトは、プリンタや複合機（以降、プリントシステムといいます）の機種によって、設定できる内容が異なります。

本書では、Windows XP、Internet Explorer 6.0環境での操作例を中心に説明しています。

商標について

PRESCRIBE、およびプリスクライブは、京セラ株式会社の登録商標です。KPDL、およびKIR（Kyocera Image Refinement）は、京セラ株式会社の商標です。
Microsoft、Windows、およびWindows NTは、Microsoft Corporationの登録商標です。
Apple、AppleTalk、Mac、Macintosh、Mac OS、およびTrueTypeは、Apple Computer, Inc.の登録商標です。
Adobe、Acrobat、およびPostScriptは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。
Novell、およびNetWareは、Novell, Inc.の登録商標です。
HP、およびPCLは、Hewlett-Packard Companyの登録商標です。
Intel、Pentium、およびCeleronは、Intel Corporationの登録商標です。
その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

プリンタドライバ対応機種

プリンタ	Prioa LP1800	Prioa LP6800	Prioa LP9500DN
	Prioa LP1820	Prioa LP6820N	Prioa Color LP8026N
	Prioa LP2000D	Prioa LP6950DN	

ご使用になるプリントシステムにより、本手順書の説明画面表示が異なる場合があります。

目　次

1　プリンタドライバのインストール

プリンタドライバは、文書をプリンタに出力し、プリンタとコンピュータとの通信を管理するためのアプリケーションソフトです。プリンタドライバは、プリンタに付属の Product Library CD-ROM からインストールします。インストールしたプリンタドライバから、プリンタの各種設定を行えます。

動作環境

プリンタドライバは次の OS 環境で動作します。インストールする前に確認してください。

- Microsoft Windows 2000 Professional
- Microsoft Windows XP Home Edition/Professional Edition
- Microsoft Windows Vista
- Microsoft Windows Server 2003

それぞれの OS が推奨するハードウェア環境で動作します。

CD-ROM からのインストール

CD-ROM からは、次の手順でプリンタドライバをインストールします。

参考：Windows XP、Windows Vista および Windows 2000 にインストールする場合は、管理者権限でログオンする必要があります。

USB ケーブル、パラレルケーブル、またはネットワークケーブルで PC とプリンタを接続します。PC とプリンタの接続の詳細は、プリンタの使用説明書を参照してください。

1 接続後、PC とプリンタの電源を入れます。

新しいハードウェアの検索ウィザードが表示された場合は、**キャンセル**ボタンをクリックします。

2 付属の CD-ROM を、PC の光学ドライブにセットします。
Windows Vista の場合、**ユーザアカウント制御**画面が表示されますので、**許可**をクリックします。

インストールプログラムが起動すると、**メインメニュー**が表示されます。

参考：Product Library ソフトウェアインストールウィザードが自動で起動しない場合は、Windows のエクスプローラで CD-ROM の内容を表示させ、Setup.exe をダブルクリックしてください。

3 **使用許諾を表示**をクリックして、使用許諾契約をお読みください。

4 **同意する**をクリックします。

5 **ソフトウェアのインストール**をクリックします。

6 **ソフトウェアインストールウィザード**が起動します。**次へ**ボタンをクリックします。

このあとの手順は、Windows の種類と接続方法によって異なります。
該当する手順へ進んでください。

- Windows XP/Vista での高速インストール（ネットワークまたは USB 接続の場合）
- Windows Vista でのカスタムインストール
- Windows XP でのカスタムインストール（USB 接続の場合）
- Windows XP でのカスタムインストール（LPT 接続の場合）
- Windows XP でのカスタムインストール（ネットワーク接続の場合）

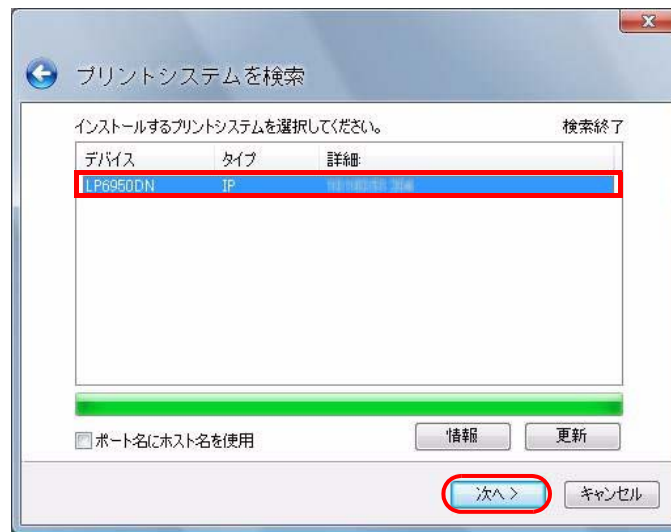
高速インストール

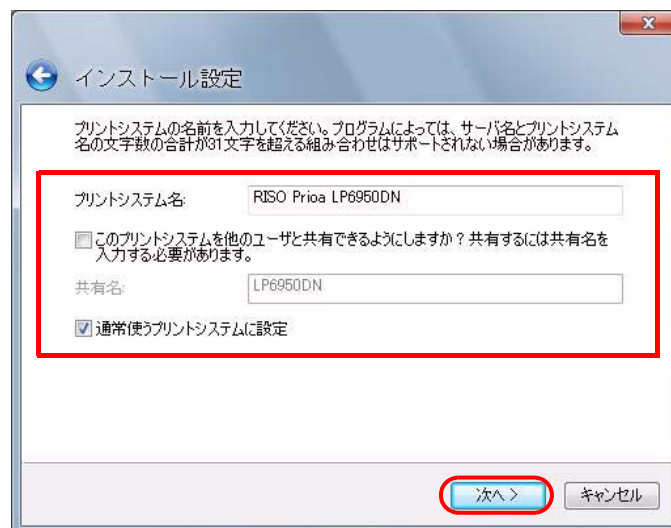
高速モードは、USB またはネットワーク接続の場合のみ選択できます。プリンタがネットワークまたは USB で接続され電源が入っていれば、インストーラがプリンタを検出します。標準的な接続方法の場合は、**高速モード**を選択します。**カスタムモード**では、インストールするソフトパッケージを選択し、ポートを指定することができます。**カスタムモード**を行う場合は、**カスタムインストール**を参照してください。

Windows XP/Vista での高速インストール（ネットワークまたは USB 接続の場合）

Windows XP と Windows Vista では、インストールダイアログボックスに表示される内容は多少異なりますが、インストール手順は同じです。

1 **インストール方法の選択**画面で、**高速**モードを選択し、**次へ**ボタンをクリックします。
プリントシステムを検索画面が表示され、インストーラがプリンタの検出を行います。プリントシステムが検出されない場合は、プリントシステムが USB またはネットワークで接続され、電源が入っていることを確認し、**プリントシステムを検索**画面に戻ってください。

2 インストールするプリントシステムを選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

参考：新しいハードウェアの検索ウィザードが表示された場合は、キャンセルボタンをクリックしてください。ハードウェアのインストール警告ダイアログが表示された場合は、続行ボタンをクリックしてください。

3 **インストール設定**画面ではプリントシステムの名前をカスタマイズできます。これは、**プリンタと FAX** ウィンドウおよび各アプリケーションのプリンタの一覧に表示される名前です。プリントシステム名を共有するか、または既定のプリンタとして設定するかを指定し、**次へ**ボタンをクリックします。

4 設定内容を確認する画面が表示されます。設定を確認し、**インストール**ボタンをクリックします。

参考：Windows セキュリティ画面が表示された場合、このドライバソフトウェアをインストールしますをクリックしてください。

5 **プリンタが正しくインストールされました**画面が表示されます。**終了**ボタンをクリックして**プリンタインストールウィザード**を終了し、CD-ROM のメインメニューに戻ります。

終了ボタンを押した後、デバイス設定のダイアログが表示された場合は、プリントシステムに装着されているオプションなどの設定を行うことができます。デバイス設定は、インストール終了後でも設定できます。詳しくはデバイス設定を参照してください。

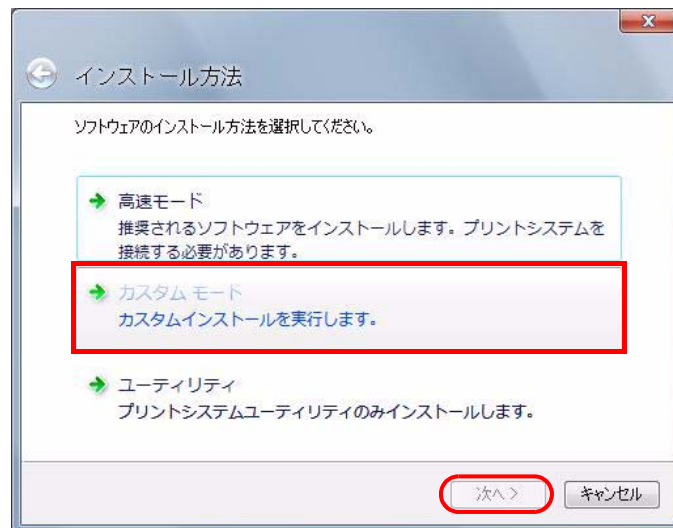
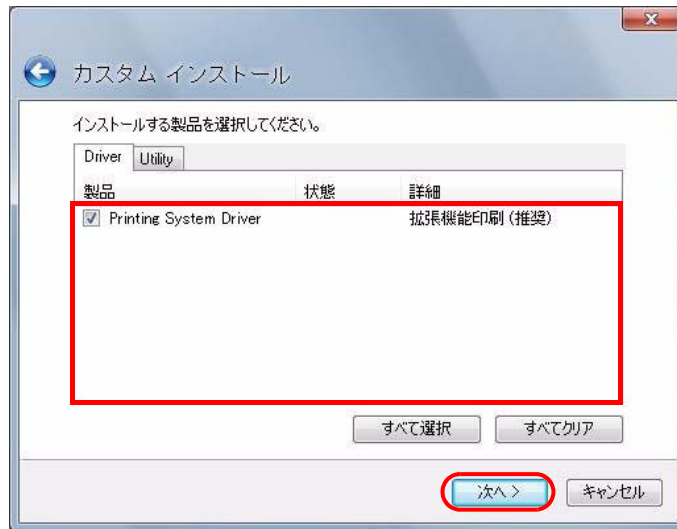
これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

カスタムインストール

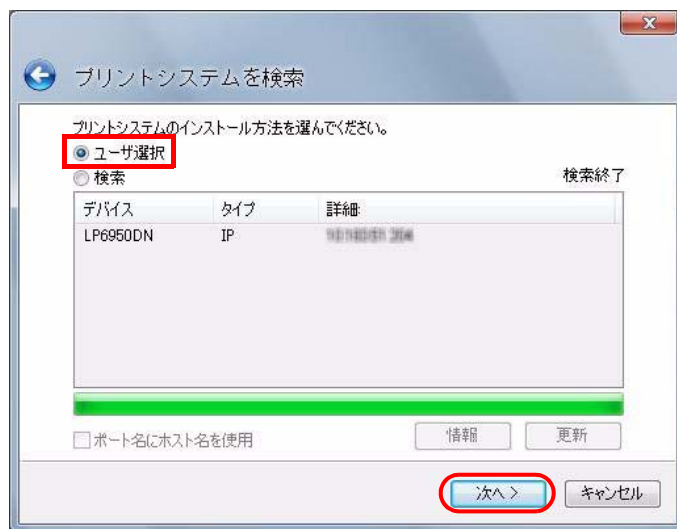
カスタムインストールの方法について説明します。

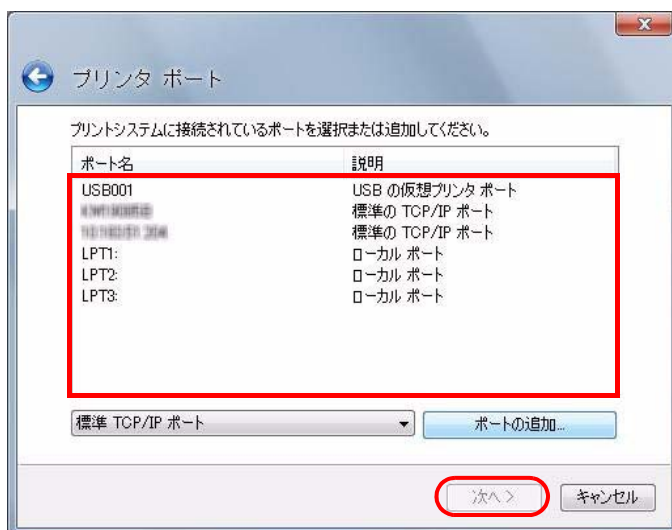
カスタムインストールでは、プリンタポートを指定したり、インストールするソフトウェアを選択できます。例えば、インストールされたフォントを上書きしたくない場合は、**カスタムモード**を選択し、**カスタムインストール**画面の**フォント**のチェックを外します。

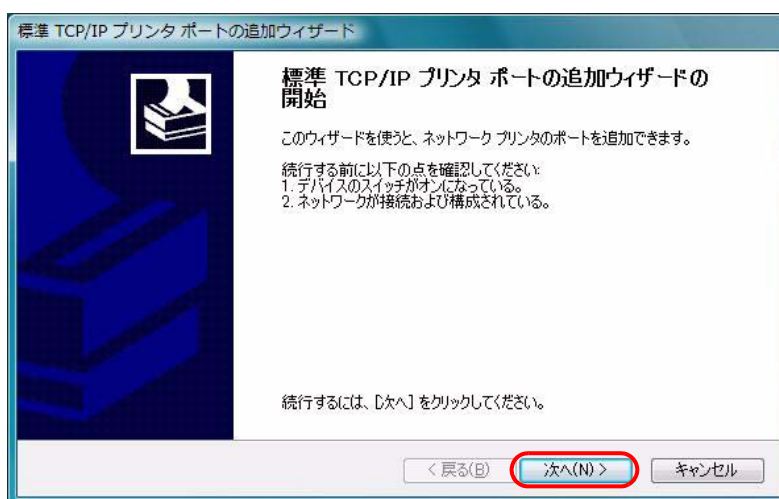
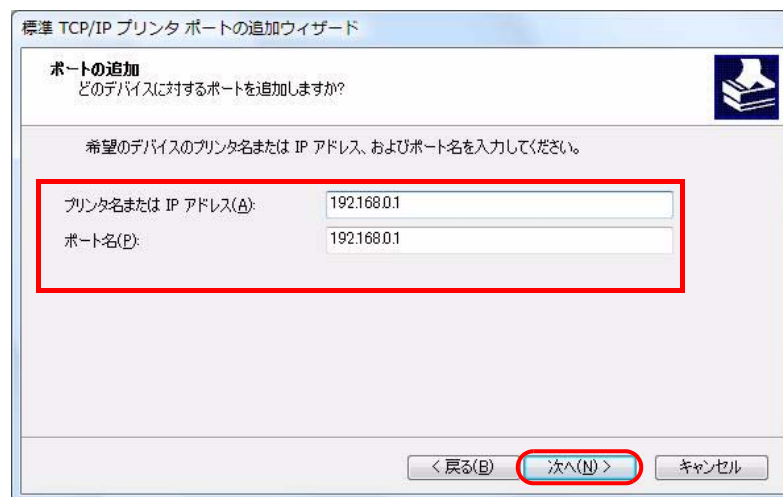
Windows Vista でのカスタムインストール

1 **カスタムモード**を選択し**次へ**ボタンをクリックします。

2 Printing System Driver が選択されていることを確認し、**次へ**ボタンをクリックします。

3 **プリントシステムを検索**画面が表示されます。

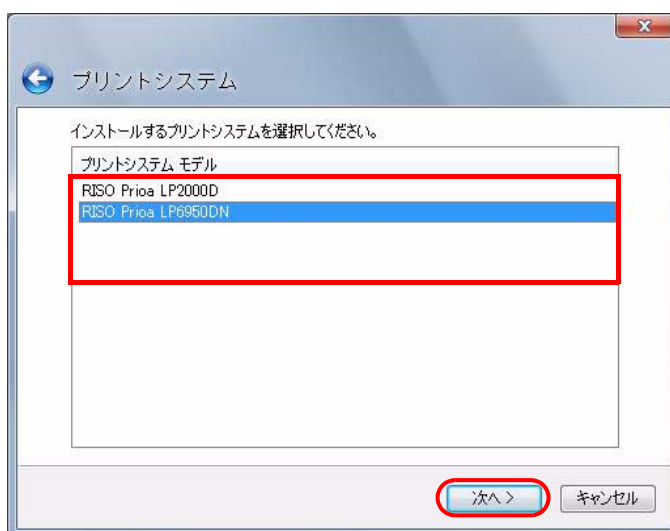
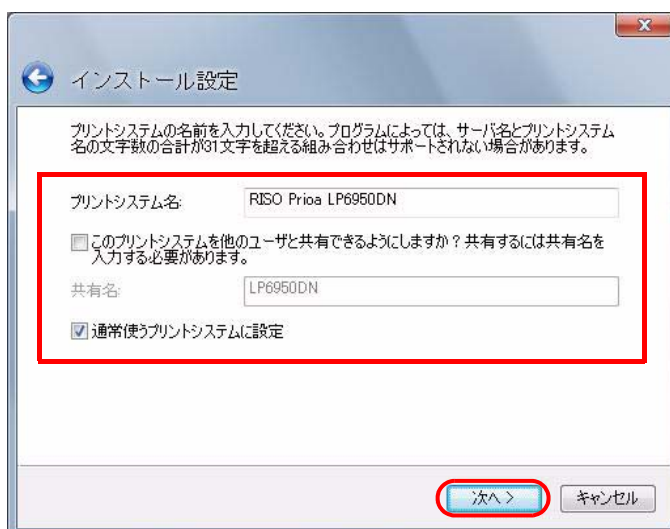
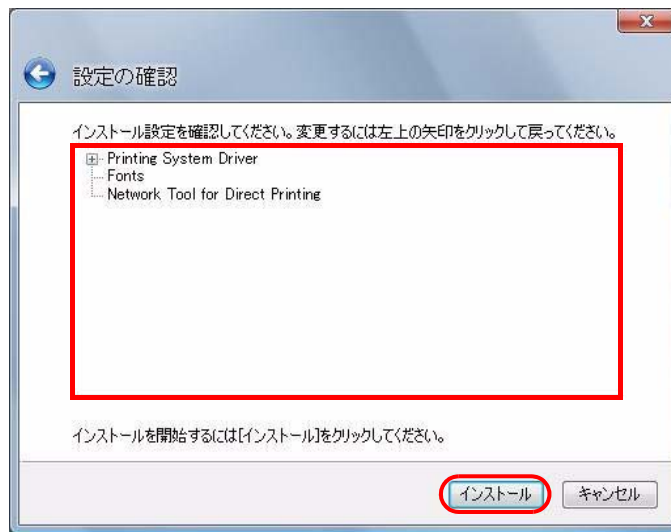
電源が入りネットワークに接続されているプリントシステムを検索するには**検索**をクリックし、8 ページの手順 5 に進みます。

プリントシステムとポートを手動で選択する場合は、**ユーザ選択**を選択し**次へ**ボタンをクリックします。

4 **プリンタポート**画面が表示されます。使用するポートがリストに表示されている場合、そのポートを選択し、**次へ**ボタンをクリックし、8 ページの手順 5 に進みます。

ポートを新規に作成する場合は、**ポートの追加**ボタンをクリックし**次へ**ボタンをクリックします。**ポートの追加ウィザード**が表示されます。

Windows Vista のポートの追加ウィザード

1 プリンタの電源が入っていてネットワークに接続されていることを確認し、**次へ**ボタンをクリックします。

2 プリンタ名または IP アドレスを入力し**次へ**ボタンをクリックします。

3 ポートが作成されると、次のような画面が表示されます。**完了**ボタンをクリックして**ポートの追加ウィザード**を終了し、インストールウィザードに戻ります。

Windows Vista でのカスタムインストール （続き）

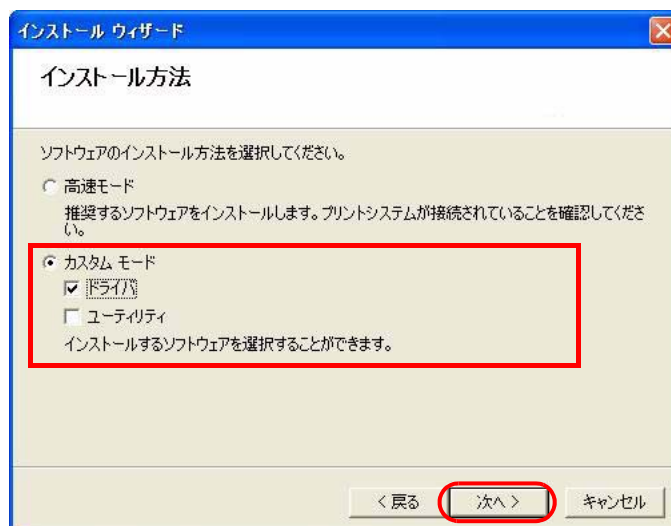
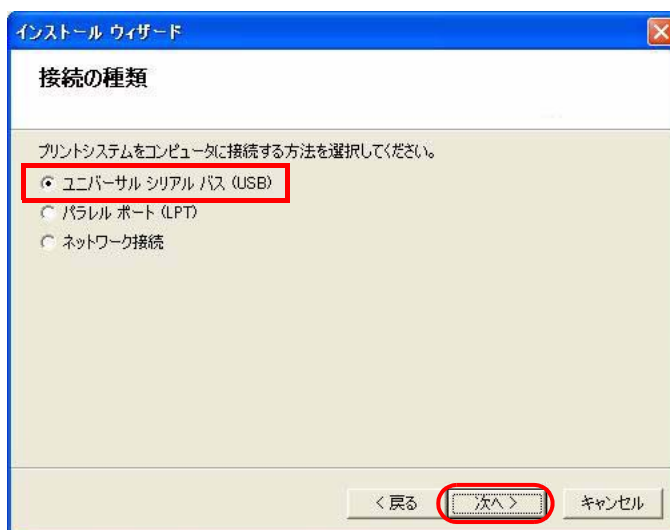
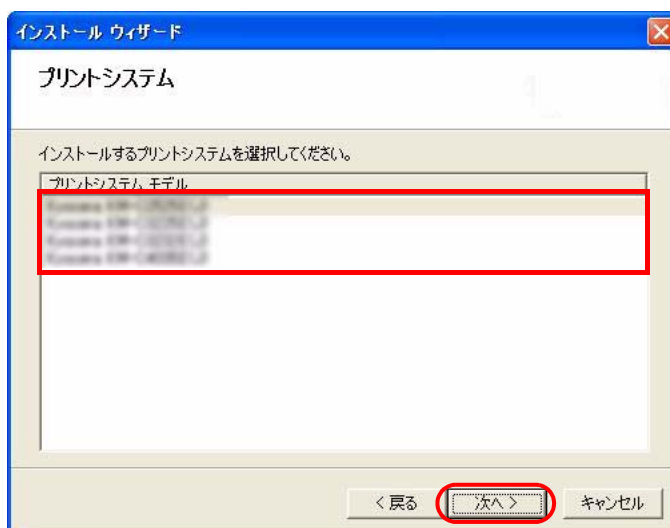
5 **プリントシステム**画面が表示されます。インストールするプリントシステムをリストから選択し**次へ**ボタンをクリックします。

6 **インストール設定**画面ではプリントシステムの名前をカスタマイズできます。これは、**プリンタと** FAX ウィンドウおよび各アプリケーションのプリンタの一覧に表示される名前です。プリントシステム名を共有するか、または既定のプリンタとして設定するかを指定し、**次へ**ボタンをクリックします。

7 設定内容を確認し**インストール**ボタンをクリックします。

8 **プリンタが正しくインストールされました**画面が表示されます。**終了**ボタンをクリックして**プリンタインストール**ウィザードを終了し、CD-ROM のメインメニューに戻ります。

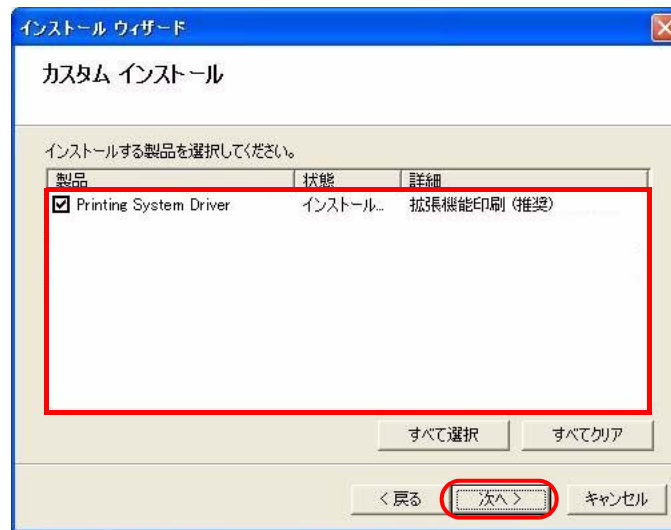
これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

Windows XP でのカスタムインストール（USB 接続の場合）

1 プリントシステムと PC が USB ケーブルで接続されていることを確認します。

2 **カスタムモード**を選択します。

3 **カスタムモード**の場合は、**ドライバ**または**ユーティリティ**あるいはその両方を選択します。インストールするドライバとユーティリティは、後で選択できます。

4 接続の種類を選択する画面が表示されます。**ユニバーサルシリアルバス**（USB）を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

5 インストール可能な機種が一覧で表示されます。インストールしたい機種を選択して、**次へ**ボタンをクリックします。

6 インストール可能なソフトウェアが一覧で表示されます。インストールしたいソフトウェアにチェックを入れ、インストールしないソフトウェアのチェックを外します。選択が終ったら**次へ**ボタンをクリックします。

7 設定内容を確認する画面が表示されます。設定を確認し、**インストール**ボタンをクリックします。

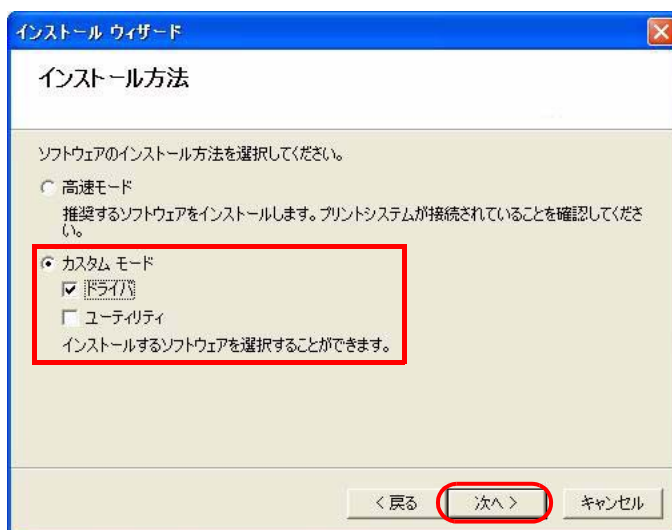
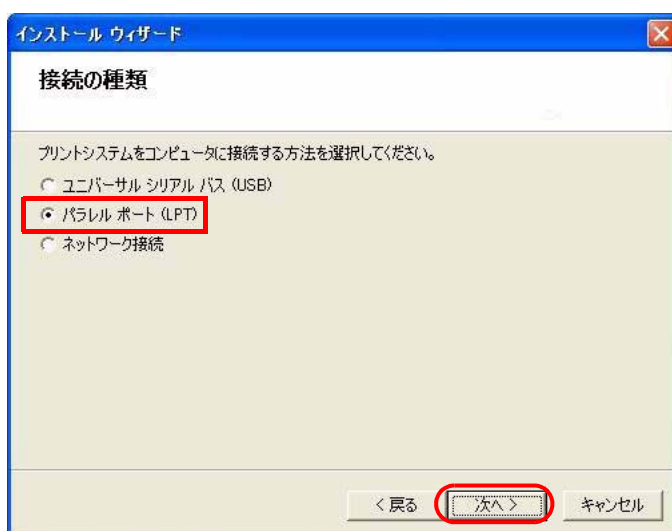
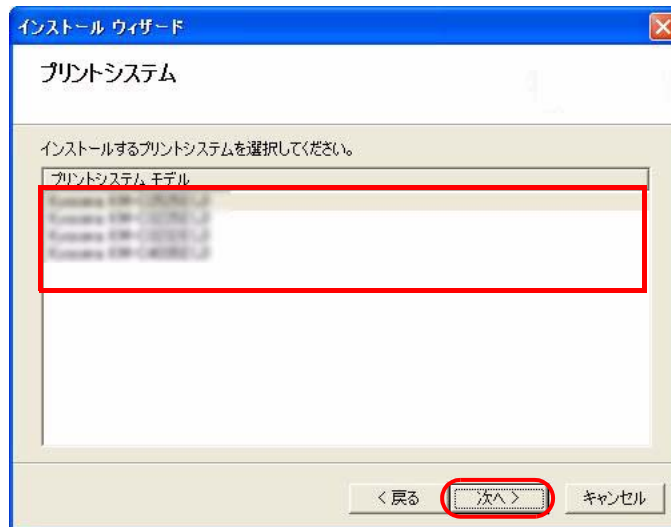
参考：新しいハードウェアの検索 ウィザードが表示された場合は、キャンセルボタンをクリックしてください。ハードウェアのインストール警告ダイアログが表示された場合は、続行ボタンをクリックしてください。

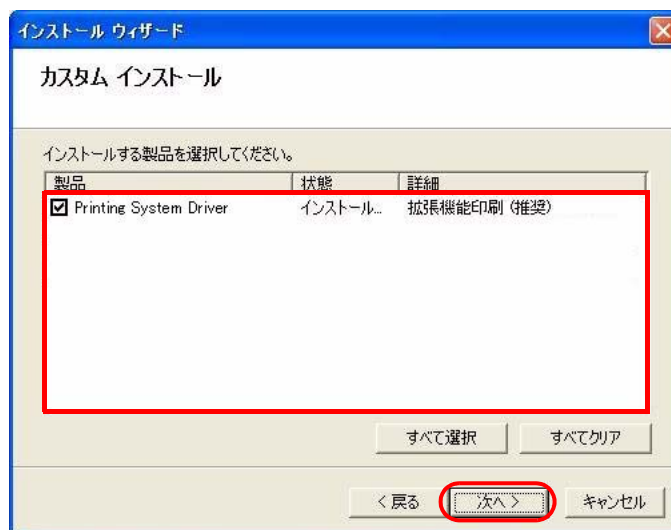
これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

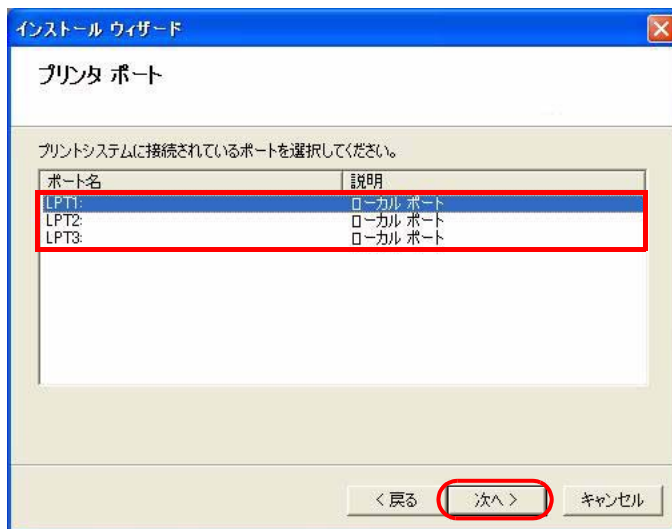
Windows XP でのカスタムインストール（LPT 接続の場合）

1 プリントシステムと PC がパラレルケーブルで接続されていることを確認します。

2 **カスタムモード**を選択します。

3 **カスタムモード**の場合は、**ドライバ**または**ユーティリティ**あるいはその両方を選択します。インストールするドライバとユーティリティは、後で選択できます。

4 接続の種類を選択する画面が表示されます。**パラレルポート**（LPT）を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

5 インストール可能な機種が一覧で表示されます。インストールしたい機種を選択して、**次へ**ボタンをクリックします。

6 インストール可能なソフトウェアが一覧で表示されます。インストールしたいソフトウェアにチェックを入れ、インストールしないソフトウェアのチェックを外します。選択が終ったら、**次へ**ボタンをクリックします。

7 **インストール設定**画面ではプリントシステムの名前をカスタマイズできます。これは、**プリンタと** FAX ウィンドウおよび各アプリケーションのプリンタの一覧に表示される名前です。ここで、プリントシステム名を共有するか、または既定のプリンタとして設定するかを指定し、**次へ**ボタンをクリックします。

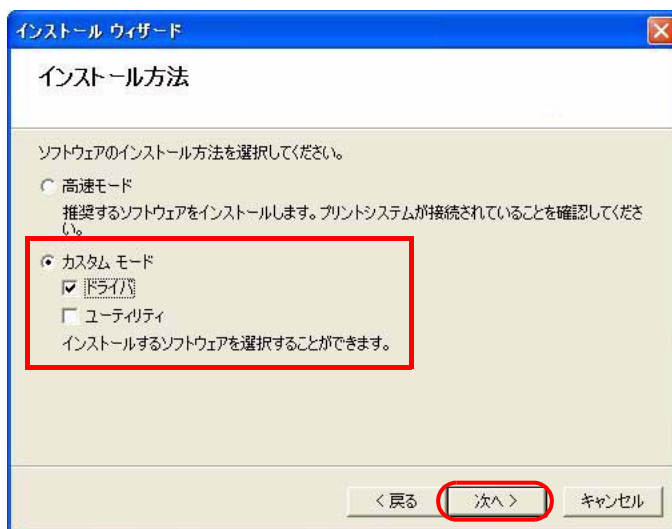
8 プリンタポートを選択する画面が表示されます。ポートを選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

9 設定内容を確認する画面が表示されます。設定を確認し、**インストール**ボタンをクリックします。

10 **プリンタが正しくインストールされました**ダイアログが表示されます。インストールするプリンタを追加する場合は**はい**を選択し、インストール作業を終了する場合は**いいえ**を選択します。**終了**ボタンをクリックします。

これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

Windows XP でのカスタムインストール（ネットワーク接続の場合）

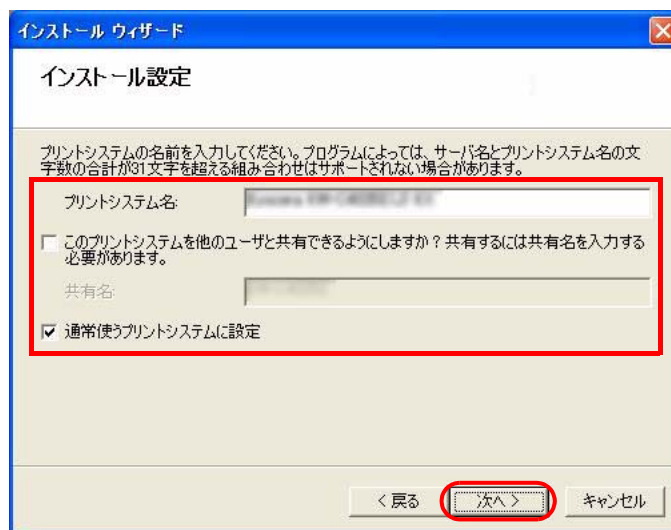
1 **カスタムモード**を選択します。

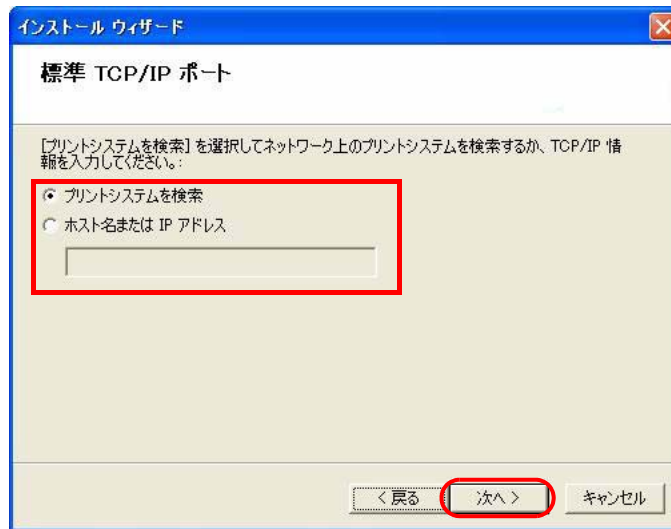
2 **カスタムモード**の場合は、**ドライバ**または**ユーティリティ**あるいはその両方を選択します。インストールするドライバとユーティリティは、後で選択できます。

3 **接続の種類**画面で、**ネットワーク接続**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

4 **ネットワークポートの種類**画面で、**標準の TCP/IP ポート**または Port Set Up をポートの種類として選択します。**標準の TCP/IP ポート**を選択すると、必要に応じてポートが新規作成されます。PC に存在しない Port Set Up を選択した場合、手順 7 の後で**ポート追加ウィザード**が表示されます。

5 **プリントシステム**で機種を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

6 **カスタムインストール**画面で、インストールしたいソフトウェアにチェックを入れ、インストールしないソフトウェアのチェックを外します。**次へ**ボタンをクリックします。

7 **インストール設定**ではプリントシステムの名前をカスタマイズできます。これは、**プリンタと** FAX ウィンドウおよび各アプリケーションのプリンタの一覧に表示される名前です。プリントシステム名を共有するか、または既定のプリンタとして設定するかを指定し、**次へ**ボタンをクリックします。

手順 4 で Port Set Up を選択した場合は、16 ページの**ポートの新規作成**に進んでください。

8 **標準 TCP/IP ポート**画面で、**プリントシステムを検索**または**ホスト名または IP アドレス**を選択します。

プリントシステムを検索を選択すると、ネットワーク上のプリンタを検索します。使用するプリンタを選択し**次へ**ボタンをクリックします。**ホスト名または IP アドレス**を選択した場合は、IP アドレスまたはホスト名を入力して**次へ**ボタンをクリックします。

9 **設定の確認**画面が表示されます。設定内容を確認し**インストール**ボタンをクリックします。インストール作業が開始されます。

10 インストール作業が終了すると、**プリンタが正しくインストールされました**画面が表示されます。

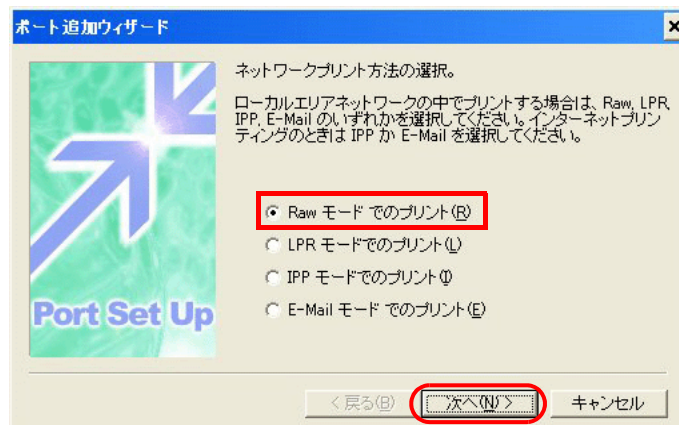
これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します

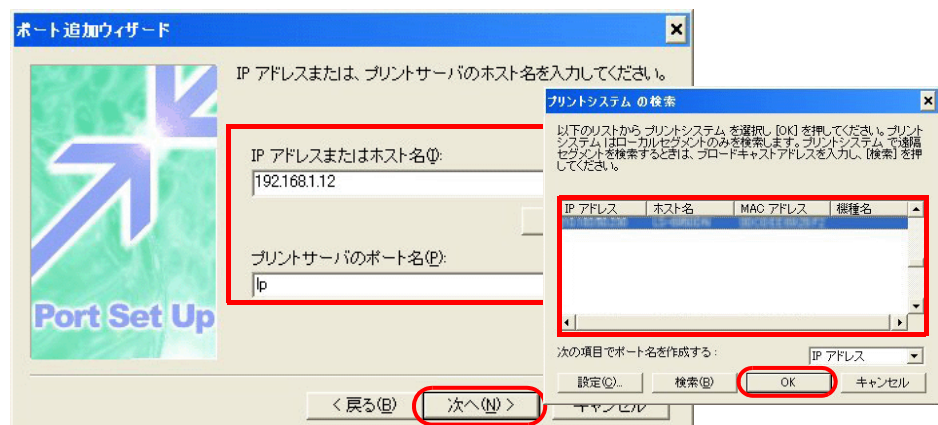
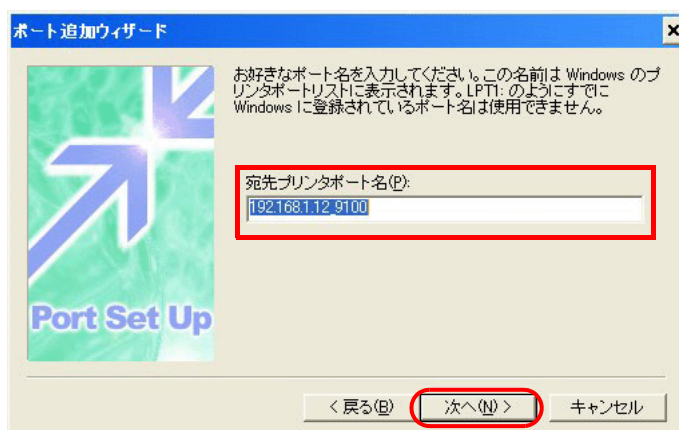
ポートの新規作成

ポート追加ウィザードを使用して、ポートを作成する方法を説明します。

Raw ポートの追加

1 **プリンタポート**画面で、**ポートの追加**ボタンをクリックします。

2 **ポート追加ウィザード**画面が表示されます。**Raw モードでのプリント**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

3 IP アドレスまたはホスト名を入力し、**次へ**ボタンをクリックします。

- IP アドレスまたはホスト名がわからない場合は、**検索 ...** ボタンをクリックします。ネットワークにある使用可能なプリントシステムの一覧が表示されます。ネットワーク上のプリントシステムを選択し、**OK** ボタンをクリックします。
- IP アドレスがわかっている場合は、**IP アドレスまたはホスト名**欄に入力します。

4 ポートの名前を任意に入力して、**次へ**ボタンをクリックします。

5 設定を確認して、**完了**ボタンをクリックします。

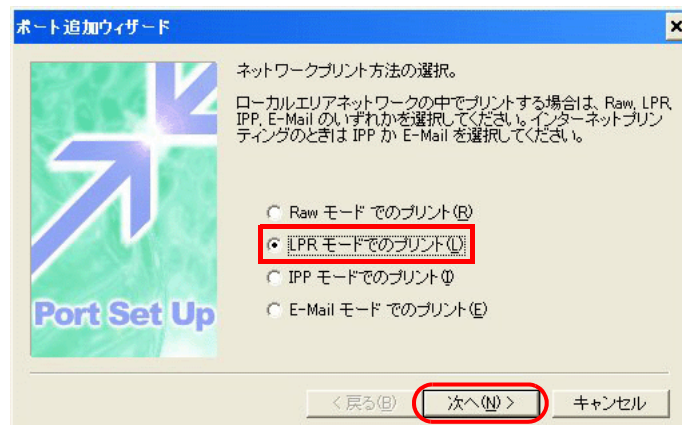
6 **設定の確認**画面が表示されます。設定内容を確認し**インストール**ボタンをクリックします。インストール作業が開始されます。

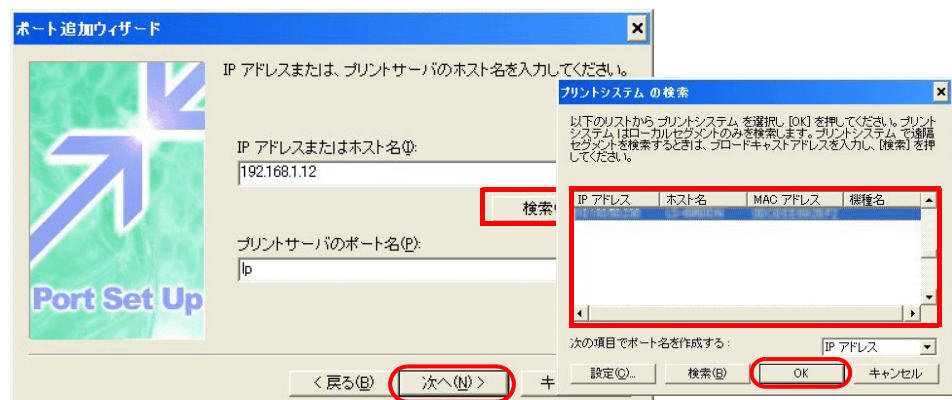
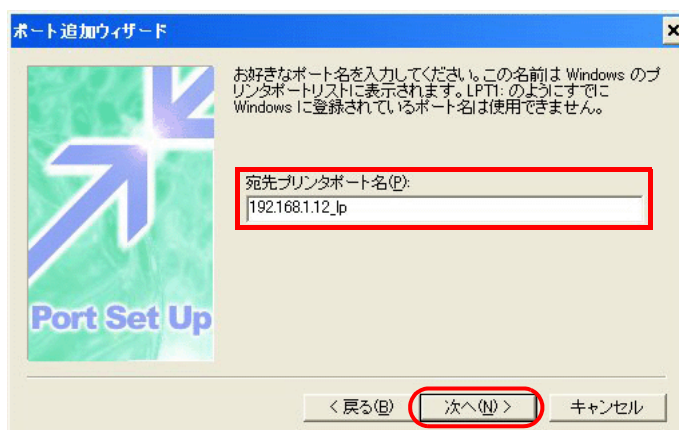
7 インストール作業が終了すると、**プリンタが正しくインストールされました**画面が表示されます。

これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

LPR ポートの追加

1 **プリンタポート**画面で、**ポートの追加**ボタンをクリックします。

2 **ポート追加ウィザード**画面が表示されます。**LPR モードでのプリント**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

3 **プリントサーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力**画面で、**IP アドレス**または**ホスト名**を入力し、**次へ**ボタンをクリックします。

- IP アドレスまたはホスト名がわからない場合は、**検索 ...** ボタンをクリックします。ネットワークにある使用可能なプリンタの一覧が表示されます。使用するプリンタを選択し、OK ボタンをクリックします。
- IP アドレスがわかっている場合は、**IP アドレスまたはホスト名**欄に入力します。

4 出力先のプリンタポート名を確認し、**次へ**ボタンをクリックします。

5 設定を確認し、**完了**ボタンをクリックします。

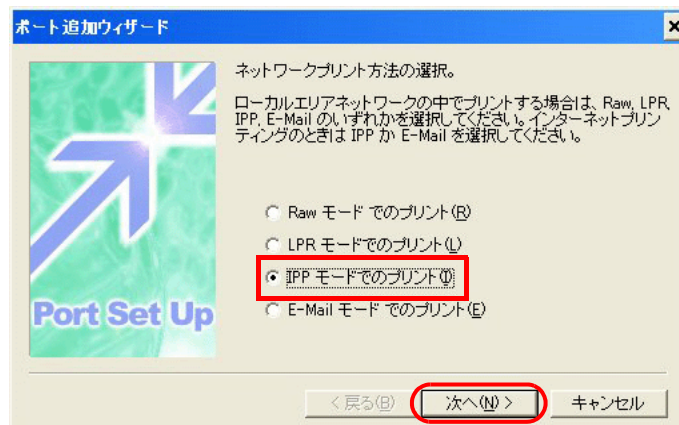
6 **設定の確認**画面が表示されます。設定内容を確認し**インストール**ボタンをクリックします。インストール作業が開始されます。

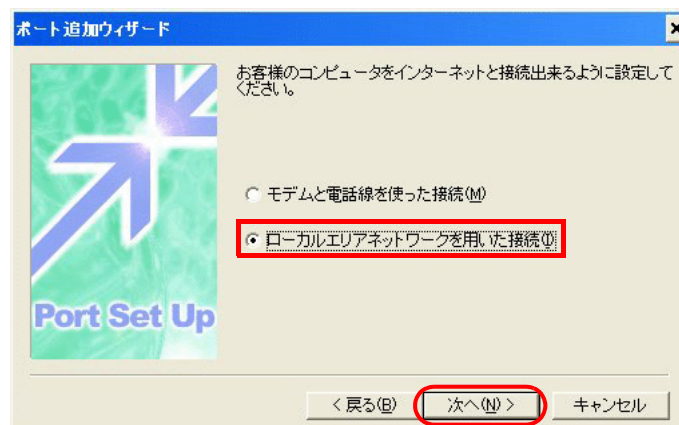
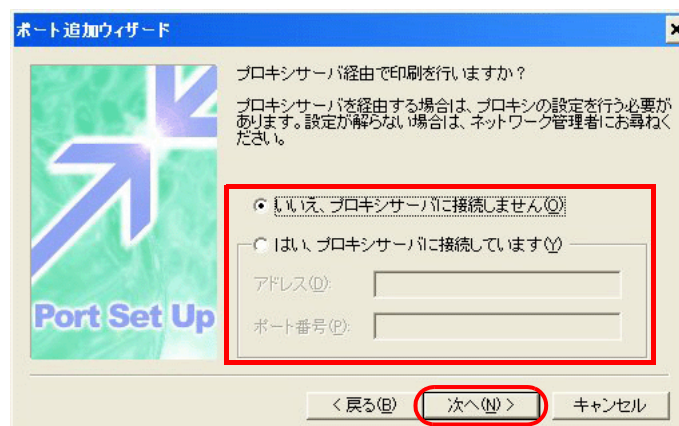
7 インストール作業が終了すると、**プリンタが正しくインストールされました**画面が表示されます。

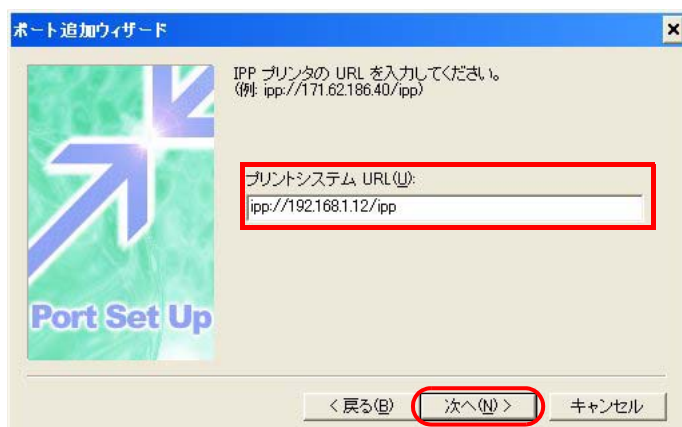
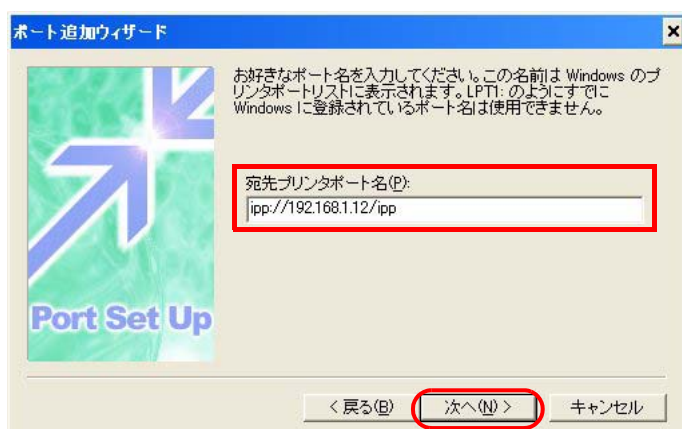
これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

IPP ポートの追加

1 **プリンタポート**画面で、**ポートの追加**ボタンをクリックします。

2 **ポート追加ウィザード**画面が表示されます。**IPP モードでのプリント**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

参考：Port Set Up **ユーティリティがインストールされている場合、次の手順が異なることがあります。**

3 **ローカルエリアネットワークを用いた接続**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

4 ネットワークがプロキシを使用している場合は、ここで情報を入力して、**次へ**ボタンをクリックします。

5 **プリントシステムの** URL に入力して、**次へ**ボタンをクリックします。

URL は、ipp://xxx.xxx.xxx.xxx/ipp の形式で入力します。

6 ウィザードの次の画面で、ポートに名前を入力して、**次へ**ボタンをクリックします。名前の入力は必須ではありません。名前を入力せずに、**次へ**ボタンをクリックすると、IP アドレスがポート名として使用されます。

7 設定を確認し、**完了**ボタンをクリックします。

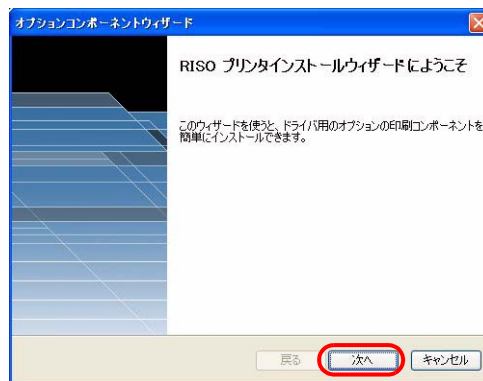
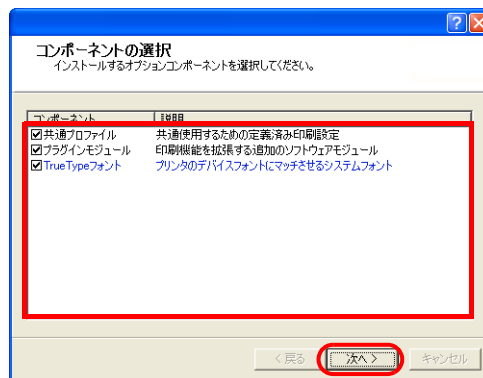
これでネットワークポートが作成されました。

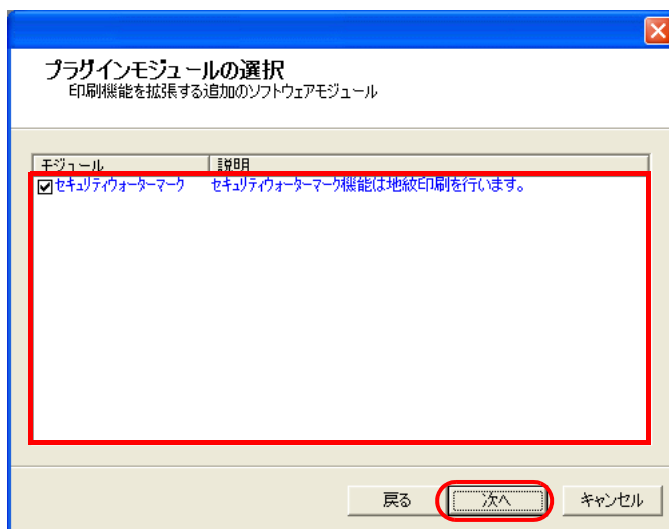
コンポーネントの選択およびインストール

オプションのコンポーネントをインストールすることにより、プリンタドライバの機能を拡張することができます。用途に合わせて、自動設定、共通プロファイル、TrueType フォントなどのコンポーネントをインストールできます。

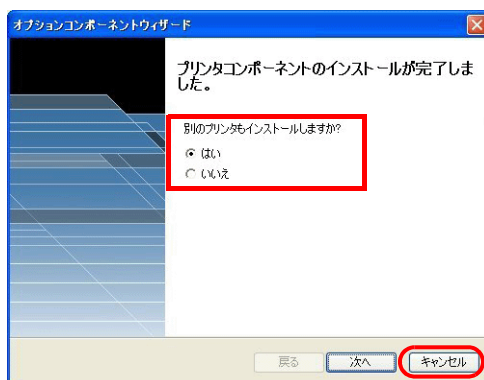
参考：表示されるコンポーネントは機種によって異なります。

コンポーネントのインストール

1. CD-ROM のメインメニューで、**拡張ツール**を選択します。
2. **拡張ツール**画面で**プリンタドライバオプション**を選択します。
3. **オプションコンポーネント**ウィザードが表示されます。**次へ**ボタンをクリックしてオプションのコンポーネントをインストールするか、または**キャンセル**ボタンをクリックしてウィザードを終了します。

4. **プリンタの選択**画面が表示されます。プリンタを選択し**次へ**ボタンをクリックします。
5. **コンポーネントの選択**画面が表示されます。インストールしたいコンポーネントにチェックを入れて、**次へ**ボタンをクリックします。

上述の手順 5 での選択内容に応じて**共通プロファイルの選択**、**プラグインモジュールの選択**などの画面が表示される場合があります。

6 いずれの画面でも選択を行い**次へ**ボタンをクリックします。

セキュリティ・ウォーターマークは、Windows Vista には対応していません。

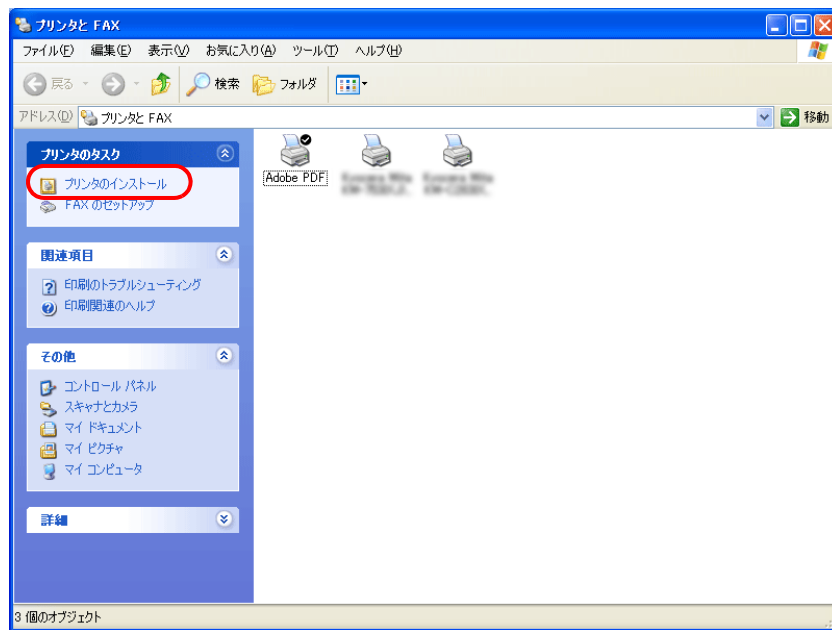
7 **設定の確認**画面が表示されます。選択したコンポーネント項目を確認して、**インストール**ボタンをクリックします。

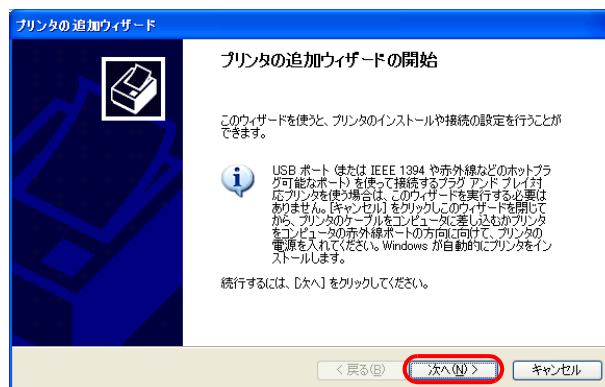
8 **プリンタコンポーネントのインストールが完了しました。**画面が表示されます。プリンタおよびオプションのコンポーネントのインストール作業が終了したら、必要に応じて画面の指示にしたがい、システムを再起動します。

プリンタの追加ウィザードを使用したインストール

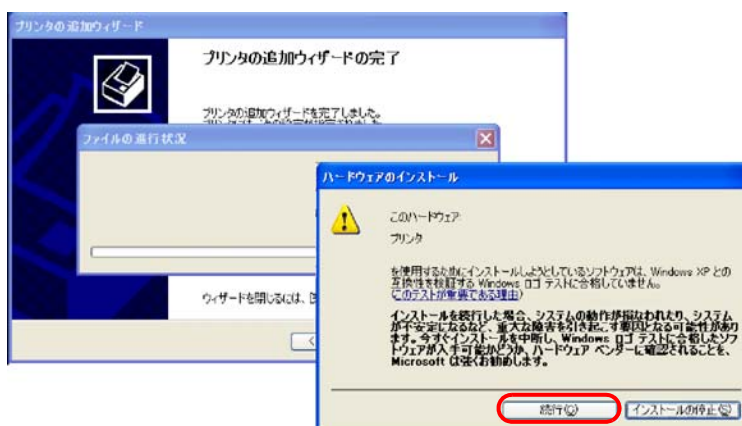
ここでは、**プリンタの追加ウィザード**を使ってプリンタドライバをインストールする方法を説明します。

1 Windows タスクバーの**スタート**ボタンをクリックし、**プリンタと** FAX をクリックして**プリンタと** FAX ウィンドウを開きます。

参考：Windows 2000 の場合：Windows タスクバーのスタートボタンをクリックし、**設定→プリンタ**とクリックしてプリンタダイアログを開きます。
Windows Vista の場合：Windows タスクバーのスタートボタンをクリックし、**コントロールパネル→プリンタ→プリンタのインストール**をクリックして、**プリンタの追加**ダイアログを開きます。

2 左側の**プリンタのタスク**グループにある**プリンタの追加**をクリックします。

参考：プリンタの追加ウィザードは、ファイルメニューのプリンタの追加をクリックしても開始することができます。

3 **プリンタの追加ウィザード**が表示されます。**次へ**ボタンをクリックして、あとは画面の指示にしたがいます。

4 **プリンタの追加ウィザードの完了**画面が表示されたら、**完了**ボタンをクリックします。

参考：新しいハードウェアの検索ウィザードが表示された場合は、**キャンセル**ボタンをクリックしてください。**ハードウェアのインストール**警告ダイアログが表示された場合は、**続行**ボタンをクリックしてください。

これでプリンタドライバのインストール作業は終了です。画面の指示にしたがい、必要に応じてシステムを再起動します。

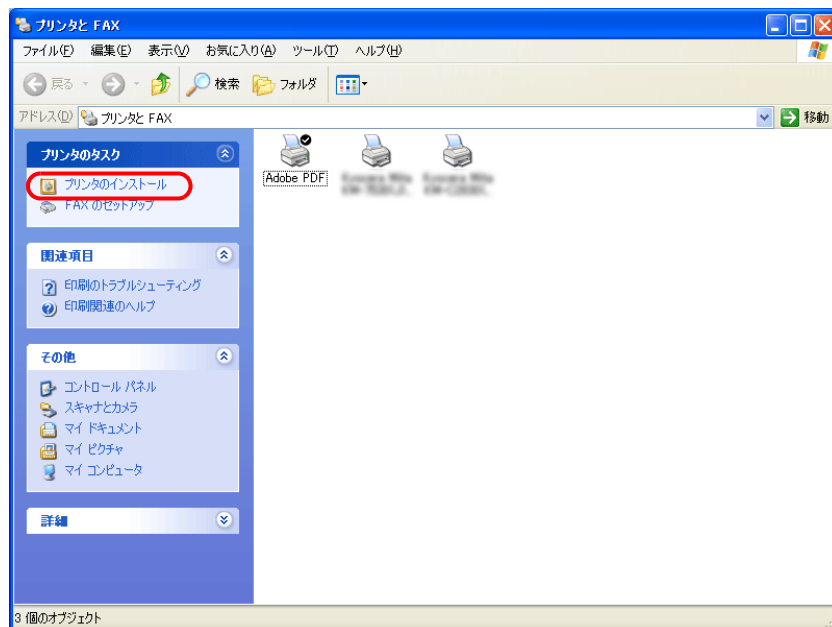
最新プリンタドライバの入手とインストール

最新プリンタドライバは、http://www.riso.co.jp からダウンロードできます。ダウンロードしたドライバは、次の手順でインストールを行います。

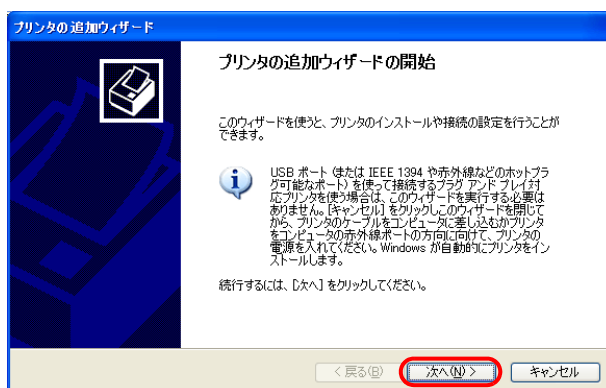
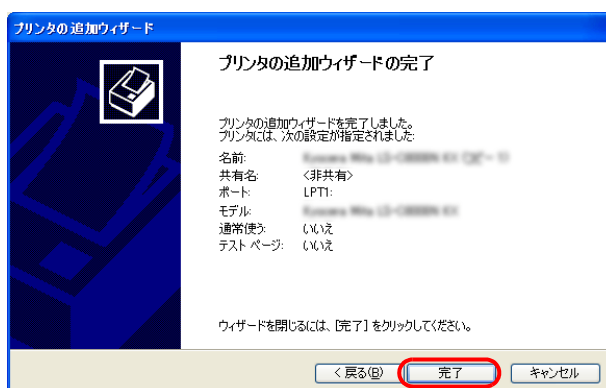
1 Windows の**スタート**ボタンをクリックし、**プリンタと** FAX をクリックします。**プリンタと** FAX ウィンドウが表示されます。

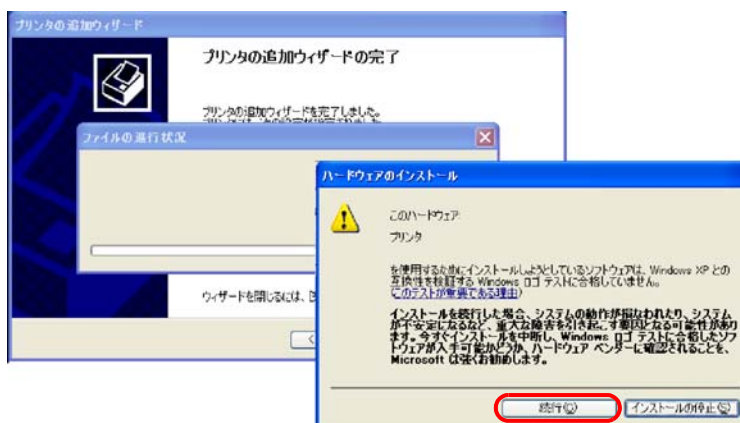
参考：Windows 2000 の場合：Windows タスクバーのスタートボタンをクリックし、設定→プリンタとクリックしてプリンタダイアログを開きます。
Windows Vista の場合：Windows タスクバーのスタートボタンをクリックし、コントロールパネル→プリンタ→プリンタのインストールをクリックして、プリンタの追加ダイアログを開きます。

---

2 **プリンタのタスク**ウィンドウの中にある、**プリンタのインストール**をクリックします。**プリンタの追加ウィザード**画面が表示されます。

参考：ファイルメニューのプリンタの追加をクリックしても可能です。

Windows 2000 の場合は、**プリンタの追加**アイコンをダブルクリックします。

3 **プリンタの追加ウィザードの開始**画面が表示されます。**次へ**ボタンをクリックし、ウィザードにしたがって設定を行います。

4 **プリンタの追加ウィザードの完了**画面が表示されたら、**完了**ボタンをクリックします。

5 プリンタドライバのインストールが開始されます。

参考：ハードウェアのインストール注意画面が表示された場合は、引き続いてインストールを続行しても問題ありませんので、続行ボタンをクリックしてください。

あとは表示される画面の指示にしたがい、インストール作業を完了させます。

2　デバイス設定

インストールしたプリンタドライバの設定を行います。この章では、次の各設定方法について説明します。

- プロパティ の表示
- オプショ ン機器の追加
- 管理者設定
- ユーザ設定
- PDL 設定
- 互換性設定

本説明にしたがって各種設定を行うと、その内容がデフォルトとして設定されます。使用するプリントシステムの環境に合わせて、設定を行ってください。

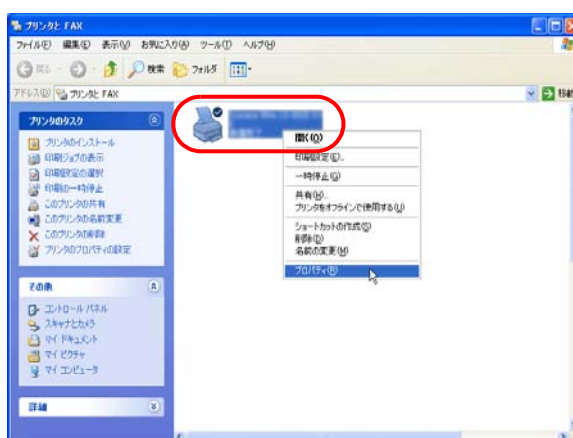
プロパティの表示

プリントシムテムの環境を設定するために、インストールしたプリンタドライバのプロパティを表示させます。

1 Windows の**スタート**ボタンをクリックし、**プリンタと** FAX をクリックします。**プリンタと** FAX ウィンドウが表示されます。

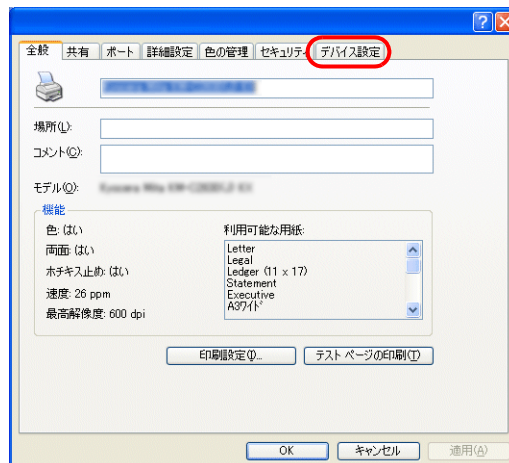
参考：Windows 2000 の場合：**Windows タスクバーのスタートボタンをクリックし、設定→プリンタとクリックしてプリンタダイアログを開きます。**
Windows Vista の場合：**Windows タスクバーのスタートボタンをクリックし、コントロールパネル→プリンタ→プリンタのインストールをクリックして、プリンタの追加ダイアログを開きます。**

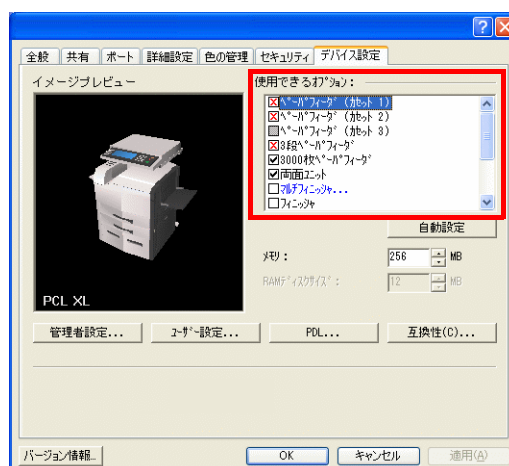
---

2 設定を行うプリントシステムのアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから**プロパティ**をクリックします。プリントシステムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

オプション機器の追加

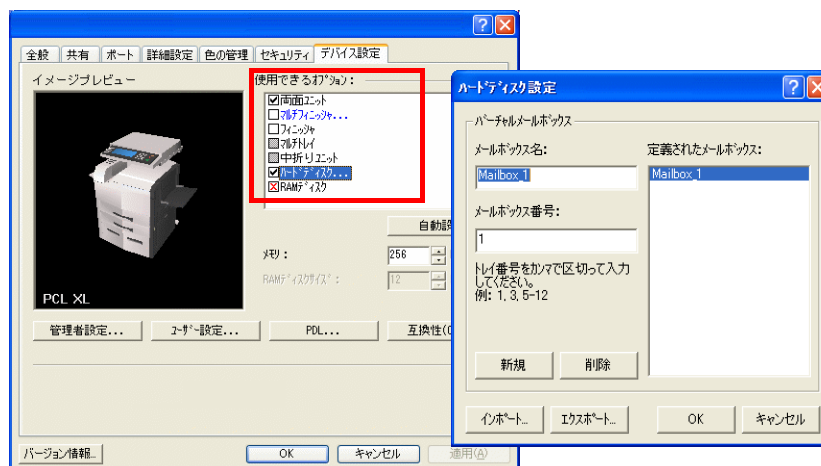
プリントシステムに、ペーパフィーダやフィニッシャ、ハードディスクなどのオプション機器が装着されている場合は、プロパティの**デバイス設定**でプリンタドライバに登録します。

オプション機器の登録

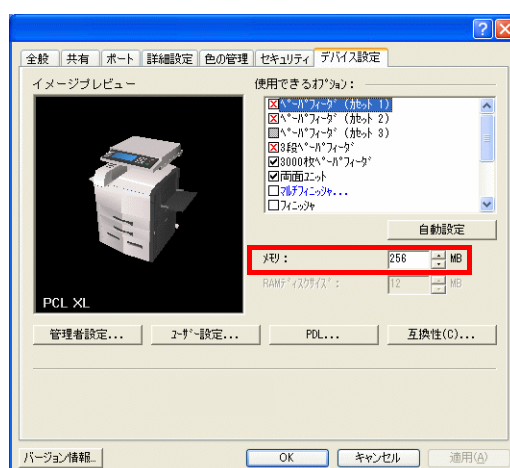
1 **デバイス設定**タブをクリックします。

2 **使用できるオプション**リストの中で、実際にプリントシステムに装着されているオプション機器のチェックボックスにチェックを入れます。

参考：プロパティダイアログボックス表示されているプリントシステムの絵と使用できるオプションリストの項目は、プリントシステムによって異なります。

参考：オプション機器のうち、同時に装着できないもの（たとえばフィニッシャと中とじフィニッシャ）については、一方を選ぶともう一方のチェックボックスが赤色の×となり、チェックを入れることはできません。

参考：各機種別の装着可能オプションに関しては、付録の対応オプション一覧表を参照してください。

3 青色で表示されているオプションについては、チェックを入れるとダイアログボックスが表示され、詳細な設定を行えます。

すでにチェックが入っている場合は、ダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

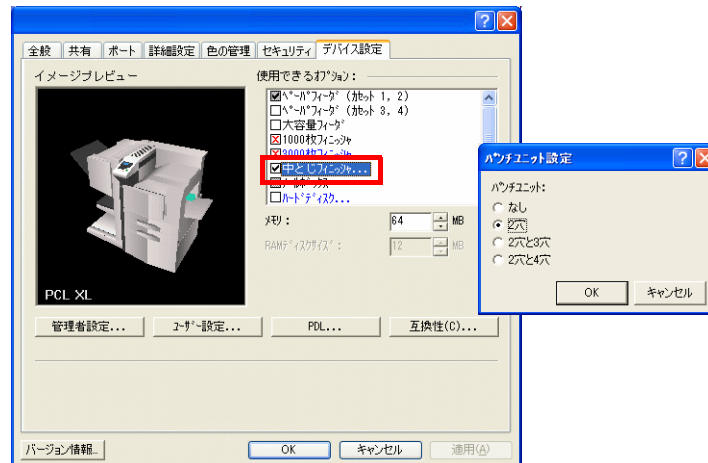
参考：ハードディスクを選ぶと、ハードディスク設定ダイアログボックスが開き、バーチャルメールボックスの設定が行えます。詳しくは、バーチャルメールボックスを参照してください。

4 プリントシステムに搭載されているメモリ容量を、**使用できるオプション**リスト下の**メモリ**スピンボックスに入力します。

5 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。**プリンタと FAX** ウィンドウに戻ります。

さらに、青色で表示されているオプションについて詳細な設定を行う場合は、もう一度**プロパティ**ダイアログボックスを表示させます。

次項より、青色で表示されているオプションのダイアログボックスの内容について説明します。

フィニッシャのパンチ設定

フィニッシャまたは**マルチフィニッシャ**、**中とじフィニッシャ**、**3000 枚フィニッシャ**にチェックを入れると、**パンチユニット設定**ダイアログボックスが表示されます。**なし**以外を選択すると、印刷した用紙にパンチ穴をあけるパンチ機能が有効になります。

ハードディスクの設定

ハードディスクにチェックを入れると、**ハードディスク設定**ダイアログボックスが表示され、**バーチャルメールボックス**の作成ができます。これらの詳細については、**バーチャルメールボックス**を参照してください。

参考：ハードディスクを装着すると、クイックコピー、試し刷り後、保留、プライベートプリント、ジョブ保留、一時保存、恒久保存の機能が使用できます。

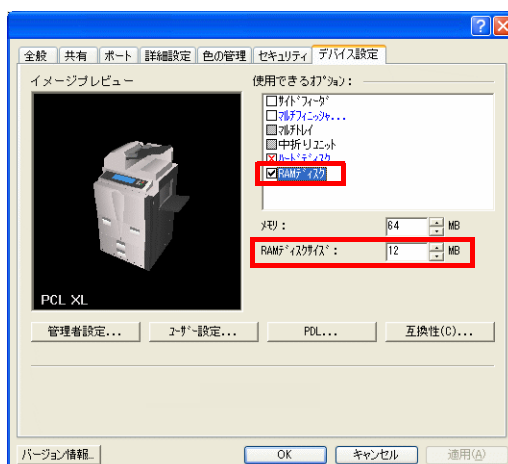
RAM ディスクの設定

RAM ディスクを設定すると、プリントシステムのメモリの一部をジョブの格納に割り当て、ハードディスクと似た動作を可能にします。ハードディスクが装着されている場合は、RAM ディスクを使用することはできません。

参考：RAM ディスクは一時的なメモリなので、電源を切ると、プリントシステムに送られたデータはすべて消えます。

参考：RAM ディスクのサイズは、プリントシステム側の操作パネルを使用して設定することができます。詳しくは、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

---

1 **RAM ディスク**にチェックを入れると、**使用できるオプション**リスト下の **RAM ディスクサイズ**スピンボックスの容量が設定変更可能になります。

2 作成する RAM ディスクの容量を入力します。

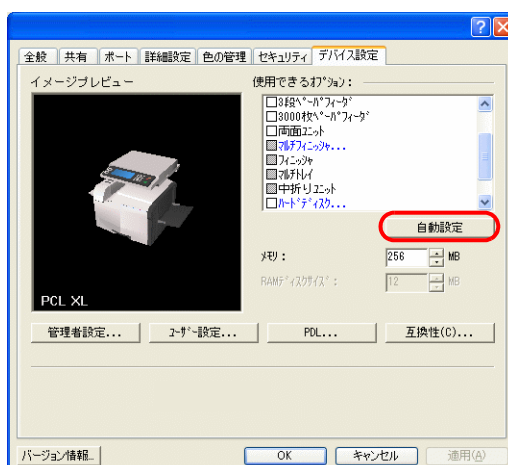
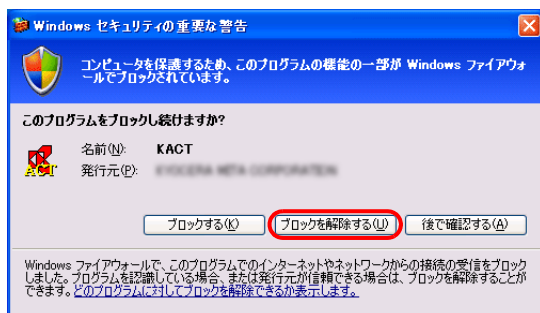
参考：RAM ディスクに割り当て可能な容量は機種によって異なります。詳しくは、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

自動設定

ネットワークに接続されたプリントシステムなら、装着されたオプション機器の情報を自動的に収集して設定することができます。自動設定機能を使用するには、プリントシステムが次に示す OS のポートで接続されている必要があります。

オペレーティングシステム	ポート
Windows XP、 Windows Vista	TCP/IP Port
Windows 2000	TCP/IP Port または Port Set Up port

1 **自動設定**ボタンをクリックします。

参考：セキュリティの警告で次のような画面が表示された場合は、ブロックを解除するボタンをクリックして、自動設定の通信を許可してください。

2 プリントシステムに装着または設定されたオプション機器の情報が更新されます。

管理者設定

管理者設定ダイアログボックスでは、次の設定が行えます。

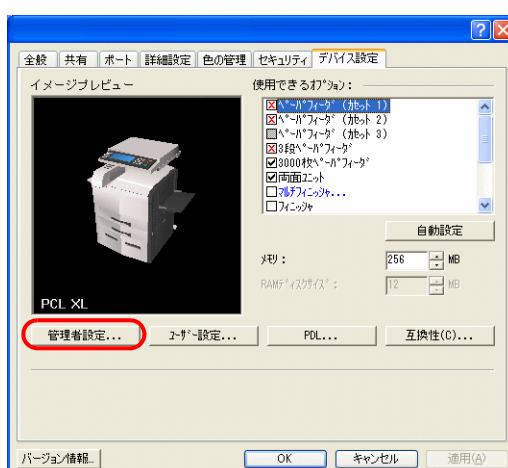
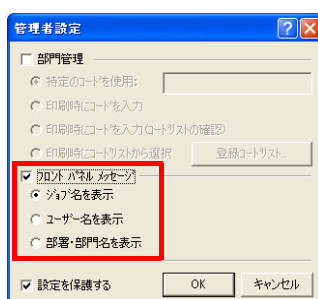
- 部門管理
- フロントパネル表示設定
- 管理者パスワード設定

部門管理

部門管理は、出力枚数管理などのアカウントシステムを実現し、部門ごとの印刷枚数の制限や管理を可能にします。この設定は、管理者の方が行ってください。

フロントパネル表示設定

ジョブの処理中に、ユーザ名や部門名など、プリントシステムの操作部に表示させる項目を選択します。

1 **管理者設定**ボタンをクリックします。

2 **管理者設定**ダイアログボックスが表示されます。**フロントパネルメッセージ**にチェックを入れ、表示内容を選択します。

表示内容	説明
ジョブ名を表示	印刷中にジョブ名を表示します。ジョブ名は、アプリケーションからプリンタドライバに渡されるものです。
ユーザー名を表示	印刷中にユーザ名を表示します。ユーザ名は、**ユーザ情報の登録**の**説明**で入力する文字列です。

表示内容	説明
部署・部門名を表示	印刷中にユーザの部署名を表示します。部門・部署名は、**ユーザ情報の登録**の説明で入力する文字列です。

参考：機種によっては、全角文字（2 バイト文字）が含まれていると表示されません。

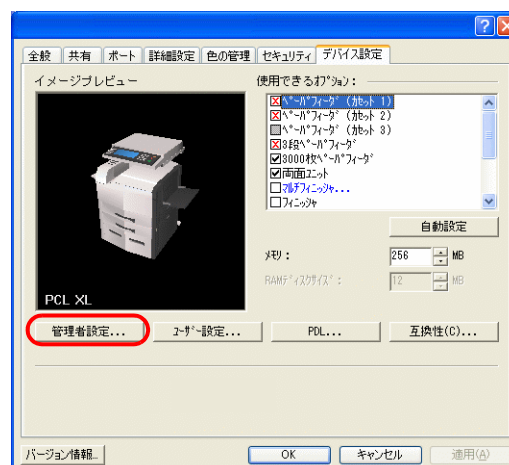
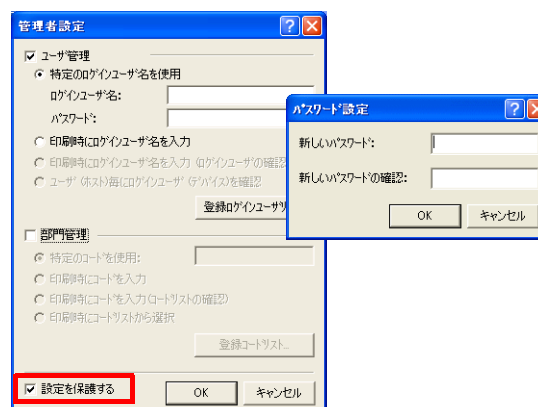
参考：ジョブ管理設定とフロントパネルメッセージは、パスワードで保護できます。パスワード入力ダイアログボックスが表示された場合は、パスワードを入力してください。

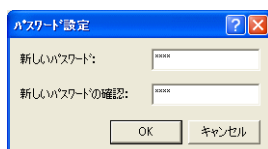
設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

管理者パスワード設定

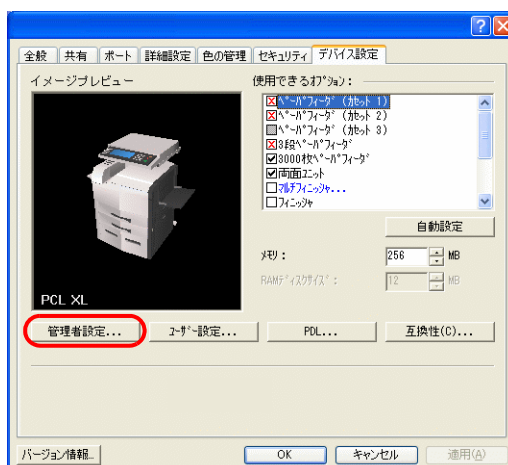
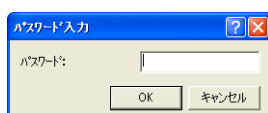
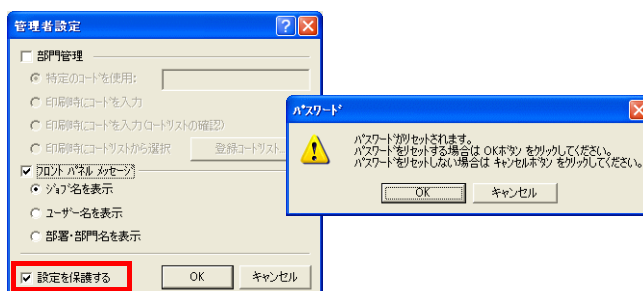
パスワードを設定すると、**管理者設定**ダイアログボックスの内容を保護することができます。

管理者パスワードの設定

1 **管理者設定**ボタンをクリックします。

2 **設定を保護する**にチェックを入れると、**パスワード設定**ダイアログボックスが表示されます。

3 **パスワード設定**ダイアログボックスの**新しいパスワード**に、設定するパスワードを入力します。確認のため、同じパスワードを**新しいパスワードの確認**にも入力し、OK ボタンをクリックします。

参考：入力できるパスワードは、半角で 4 ～ 16 文字です。

設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

管理者パスワードの変更

1 **管理者設定**ボタンをクリックします。

2 **パスワード入力**ダイアログボックスが表示されます。パスワードを入力して OK ボタンをクリックします。

3 **管理者設定**ダイアログボックスが表示されます。**設定を保護する**のチェックをはずします。パスワード再設定に関する**パスワード**ダイアログボックスが表示されるので、OK ボタンをクリックします。

4 前項の**管理者パスワードの設定**を参照して、新しいパスワードの設定を行います。

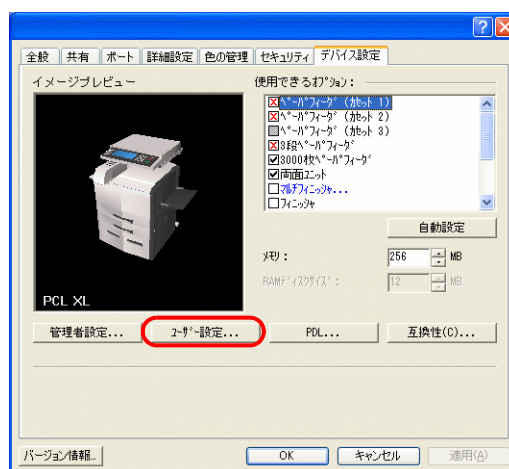
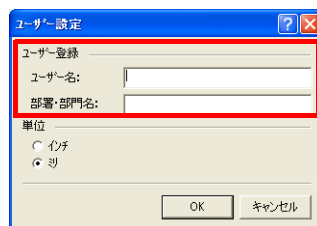
ユーザ設定

ユーザー設定ダイアログボックスでは、次の設定が行えます。

- ユーザ情報の登録
- 単位の選択

ユーザ情報の登録

ユーザ情報の登録を行うと、ユーザ名または部署•部門名を、印刷中にプリントシステム本体の操作パネル部に表示させることができます。表示内容の設定方法については、**フロントパネル表示設定**を参照してください。

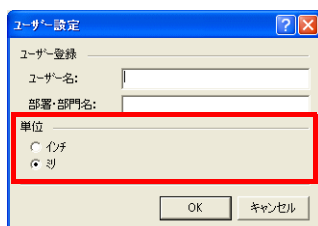
1 **ユーザー設定**ボタンをクリックします。

2 **ユーザー設定**ダイアログボックスが表示されます。

ユーザー名に、ユーザ名を入力します。入力できるユーザ名は、半角で最大 31 文字、全角で最大 15 文字です。

部署・部門名に、ユーザの属する部署名などを入力します。入力できる部署・部門名は、半角で最大 31 文字、全角で最大 15 文字です。

設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

単位の選択

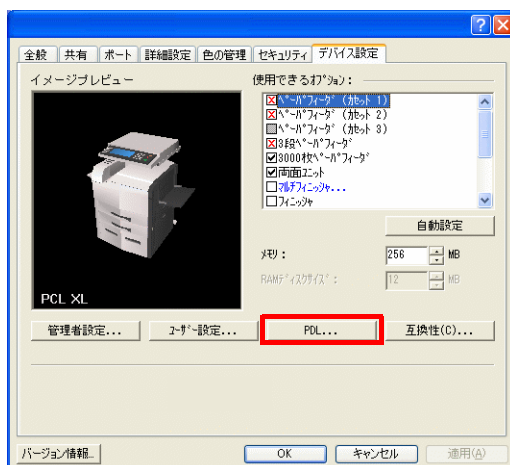
1 **ユーザー設定**ボタンをクリックします。

2 **インチ**または**ミリ**を選択します。

参考：ここで設定した単位は、印刷設定の中にある基本設定タブの、カスタム用紙サイズ定義のカスタム用紙サイズ、およびレイアウトタブのとじしろ設定を設定する際に適用されます。

設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

PDL 設定

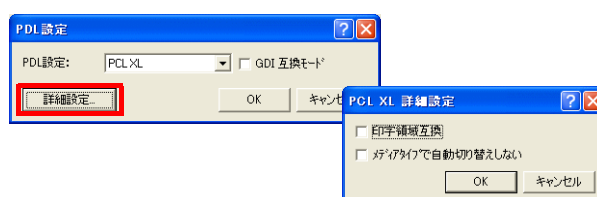
PDL 設定ダイアログボックスでは、ページ記述言語（PDL）を切り替えることができます。利用可能な PDL は、プリントシステムの機種によって異なります。特定の PDL において印刷に不具合が生じた場合などに、ほかの PDL に切り替えて印刷を行うと、不具合が解消されることがあります。

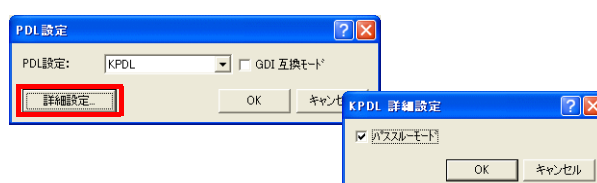
1 PDL ボタンをクリックします。

2 PDL **設定**ダイアログボックスが表示されます。PDL **設定**ドロップダウンリストから、PDL を選択します。PDL の選択については、次の表を参考にしてください。

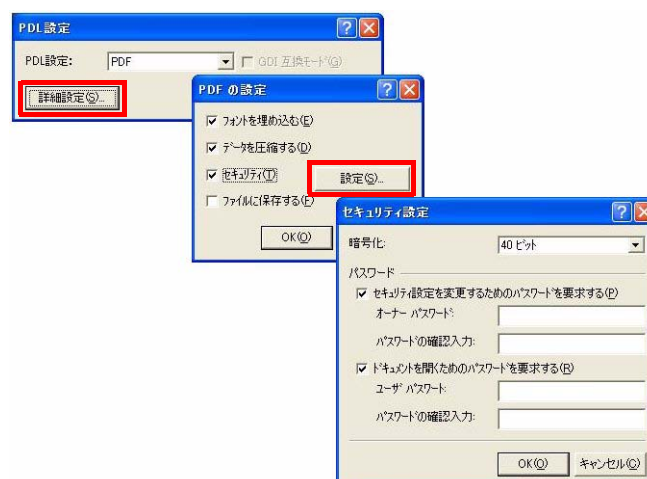
PDL（ページ記述言語）	説明
PCL XL	PCL XL を指定します。HP PCL の最新の PDL です。PCL5e の機能も含まれます。
PCL 5e（モノクロプリントシステム）	HP PCL 5e を指定します。自動的に **GDI 互換モード**が選択されます。
PCL 5c（カラープリントシステム）	HP PCL 5c を指定します。
KPDL	Adobe PostScript 3 言語互換の KPDL を指定します。PostScript 2 または 3 対応のアプリケーションから印刷する場合に使用します。機種によってはオプションの KPDL アップグレードキットが必要になります。**GDI 互換モード**も使用できます。
PDF（ポータブルドキュメントフォーマット）	さまざまなソースからの文書を Adobe PDF フォーマットで印刷または保存できます。PDF フォーマットは、文書作成に使用されるオペレーティングシステムやアプリケーションに依存しません。 PDF 出力は、さまざまなソースからの文書を Adobe PDF フォーマットで印刷または保存できるようにするプラグインです。 • 市販されている PDF 文書作成用のアプリケーションの代わりに使用してください。 • PDF フォーマットで保存された文書は、オリジナルの文書のレイアウトを保持します。この文書は、Windows プラットフォーム、Mac OS プラットフォーム、UNIX プラットフォームでフリーウェアの Adobe Reader を利用して表示および印刷できます。 **参考**：PDF をページ記述言語として選択すると、使用できるドライバオプションのセットが制限されます。

参考：GDI 互換モードとは、グラフィック処理の際にベクトル系のグラフィックをラスタライズしてイメージデータとして印刷するもので、実際のグラフィックの「見た目」により近い形で出力したいときに使用します。GDI 互換モードは、多くのメモリを必要とするため、環境によっては印刷に障害が出る場合があります。

3 PCL XL、または KPDL のどちらかを選択した場合は、**詳細設定**が行えます。**詳細設定**ボタンをクリックすると、**詳細設定**ダイアログボックスが表示されます。

PCL XL の場合

PCL XL 詳細設定	設定内容
印字領域互換	印刷領域が他社プリンタでの印刷出力と異なる場合、これをチェックすることで解決できる場合があります。
メディアタイプで自動切り替えしない	**基本設定**タブの**用紙種類**が自動選択で、プリントシステム本体の用紙種類設定が普通紙以外の場合、自動的にカセット切り替えを行わない設定にします。

KPDL の場合

KPDL 詳細設定	設定内容
パススルーモード	PostScript アプリケーションで複雑なジョブを印刷する場合に、問題の発生を軽減します。
Type42 フォント送信モード	TrueType フォントを Type42 形式に変換して送信します。

PDF の場合

PDF 詳細設定	設定内容
フォントを埋め込む	PDF ファイルの文書のフォントを画面上に正確に表示する場合に選択します。ただし、ファイルのサイズは非常に大きくなります。
データを圧縮する	生成された PDF 文書に対して Flate 圧縮を有効にする場合に選択します。このオプションを選択すると、ファイルのサイズが大幅に縮小します。Adobe Acrobat には、さまざまな圧縮オプションが用意されています。

PDF 詳細設定	設定内容
セキュリティ	印刷ジョブに対して 40 ビット暗号化または 128 ビット暗号化を選択し、Adobe Acrobat で文書を開くか、または文書に関する制限を変更するためにセキュリティのページにアクセスするためのパスワードを設定します。安全な PDF 文書を作成するために、**ファイルに保存する**にチェックを入れてください。セキュリティの設定を追加するには、**設定**をクリックします。
設定	生成された PDF ファイルに対して暗号化レベルを選択し、パスワードを作成できます。**設定**ダイアログボックスへアクセスする手順は、次のとおりです。 **1** **プリントシステムのプロパティ**ダイアログボックスの**デバイス設定**タブをクリックします。 **2** PDL ボタンをクリックします。 **3** PDL **設定**で PDF を選択し**設定**をクリックします。 **4** **セキュリティ**にチェックを入れ、**設定**をクリックします。 利用できるセキュリティオプションは次のとおりです。 • **暗号化** : パスワードによる保護機能を提供し、許可されていないユーザが文書を簡単に開けないようにします。 • **40 ビット** : 文書に対して低レベルのセキュリティを設定します。Adobe Acrobat のバージョン 3.0 ～ 4.x でサポートされます。 • **128 ビット** : Adobe Acrobat Reader 5.0 以降のバージョンについて高レベルのセキュリティを設定します。 **参考** : Adobe Acrobat 3 **および** 4 **では、**128 **ビットで暗号化された** PDF **文書は開けません。** • **パスワード** : セキュリティ設定を変更するためのパスワードと文書を開くためのパスワードを選択します。サポートされるパスワードは、最大 16 文字です。 • **セキュリティ設定を変更するためのパスワードを要求する** : 所有者のパスワードを入力します。Adobe Acrobat では、このパスワードは（**ファイル**から**文書のプロパティ**を選択して開く**セキュリティ**タブで文書に関する制限を変更する場合に必要になります。 • **ドキュメントを開くためのパスワードを要求する** : ユーザのパスワードを入力します。ユーザパスワードは、PDF 文書を開くときに入力する必要があります。このパスワードは、文書に関する制限のコントロールに使用する所有者パスワードと異なるものでなければなりません。
ファイルに保存する	文書を PDF ファイルとして保存する場合に選択します。パスワード設定は**設定**ダイアログボックスで使用できます。詳細は、**セキュリティ・ウォーターマーク**を参照してください。

参考 : ファイルに保存するを選択すると、印刷ダイアログボックスで OK をクリックしても文書は印刷されません。

設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

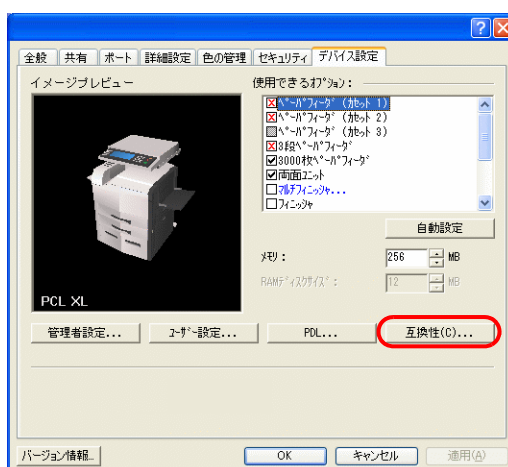
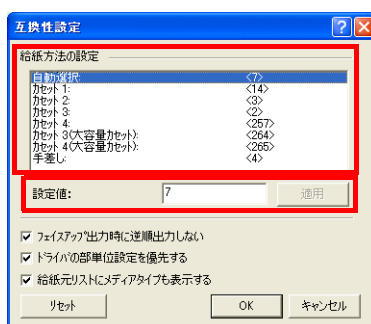
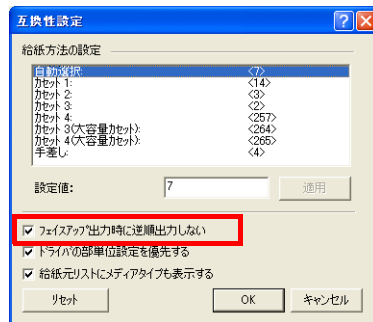
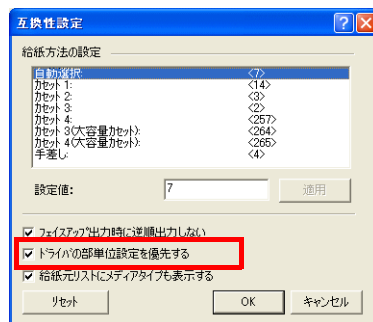
互換性設定

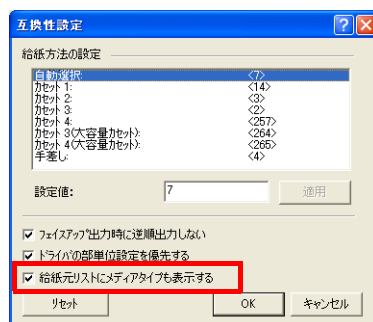
互換性設定ダイアログボックスでは、他社製の機器との互換性を保つため、給紙方法や出力方法の設定を行えます。この設定を行うと、どのプリントシステムからもプリンタドライバの設定内容で給紙したり出力したりできます。

参考：設定値を変更することで、障害を引き起こす可能性がありますので、ご注意ください。

参考：設定値の変更については、購入された販売店にお問い合わせください。

---

1 **互換性**ボタンをクリックします。

2 **互換性設定**ダイアログボックスが表示されます。**給紙方法の設定**リストの中から給紙方法を選択し、設定値を入力して**適用**ボタンをクリックします。また、**リセット**ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが元の値に戻ります。

3 フェイスアップトレイへの出力時に、印刷が逆に行われないように設定する場合は、**フェイスアップ出力時に逆順出力しない**にチェックを入れます。

4 アプリケーションでの部単位印刷設定を無視して、プリンタドライバの設定を優先したい場合は、**ドライバの部数設定を優先する**にチェックを入れます。

参考：設定値を変更するプリンタドライバの部単位印刷の設定は、プロパティウィンドウの全般タブの中にある印刷設定ボタンをクリックし、印刷設定ダイアログボックスの基本設定タブの中にあります。

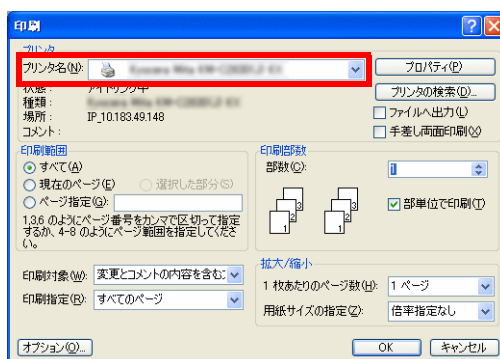
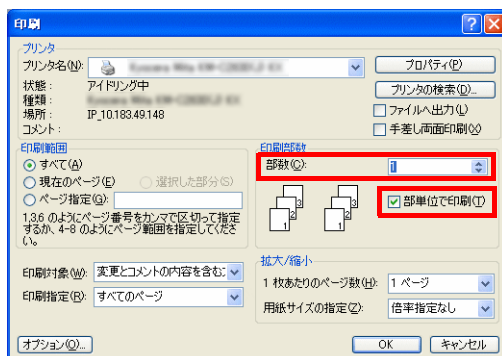
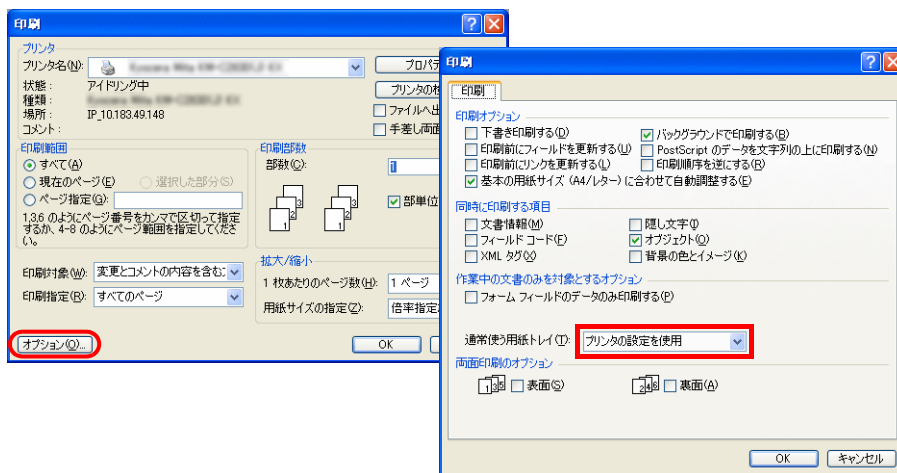
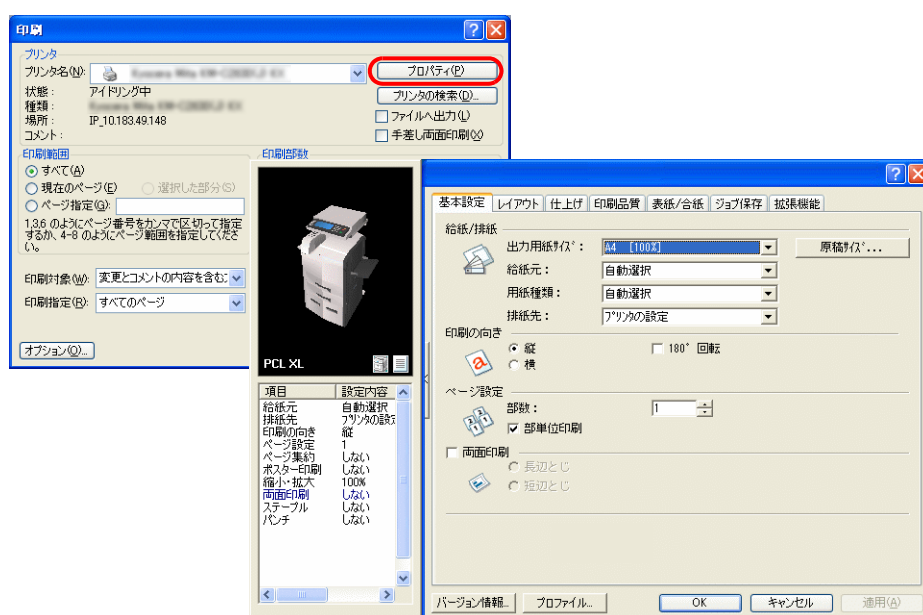
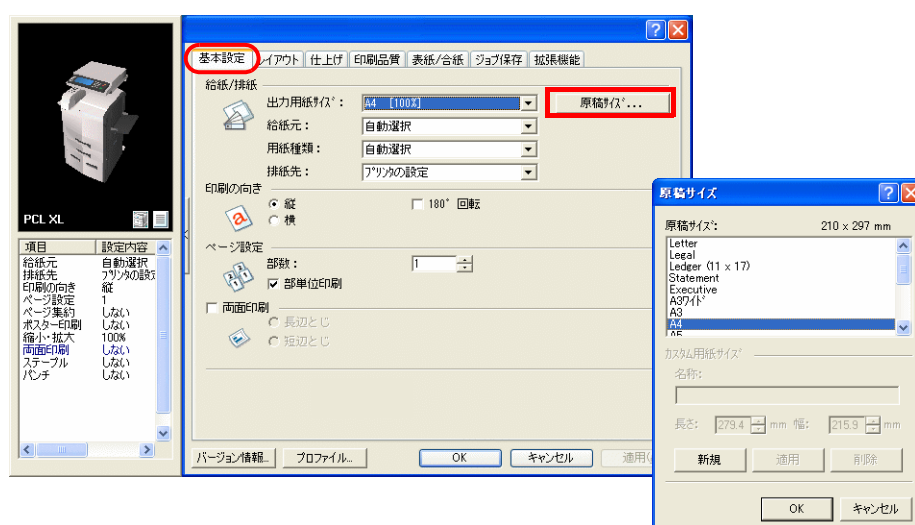
5 給紙元リストに用紙種類を表示したい場合は、**給紙元リストにメディアタイプも表示する**にチェックを入れます。

設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

3　基本的な印刷操作

ワープロなどのアプリケーションソフトで作成した文書を印刷する際に、必要となる基本的な操作について説明します。この章では、印刷に使用する用紙の選択に関連した、次の項目について説明します。

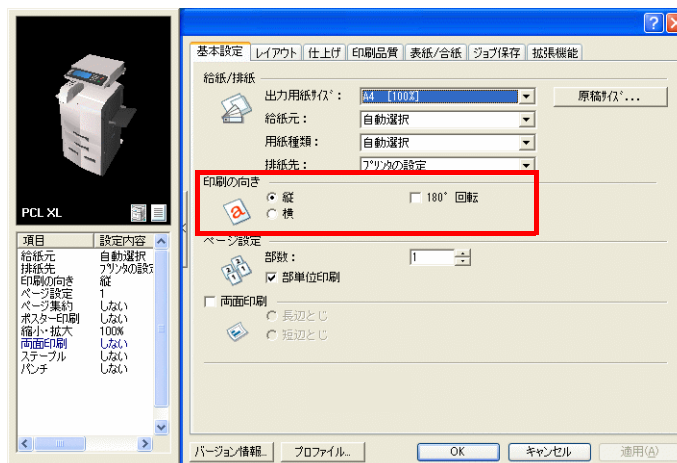
印刷のしかた

ここでは、Microsoft Word からの印刷操作画面を例に解説します。

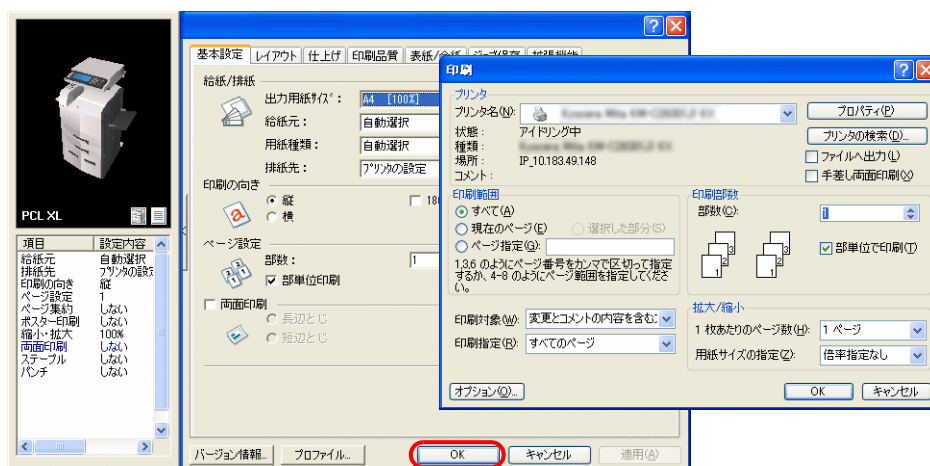
1. アプリケーションソフトで作成した文書の用紙サイズ（A4 など）と同じサイズの用紙を、プリントシステムの給紙カセットに入れます。
2. アプリケーションソフトの**ファイル**の中から、**印刷**を選択すると、**印刷**ダイアログボックスが表示されます。
3. **プリンタ名**ドロップダウンリストを開くと、現在インストールされているすべてのプリントシステム名が表示されるので、印刷に使用したいプリントシステムを選択します。

4 **部数**に、印刷したい部数を入力します。最大部数は 999 までです。2 部以上印刷する場合は、**部単位で印刷**チェックボックスにチェックを入れると、一部ずつ出力されます。

参考：Microsoft Word の場合、オプションボタンをクリックして詳細画面を表示させ、通常使う用紙トレイをプリンタの設定を使用に設定することをおすすめします。

5 **プロパティ**ボタンをクリックします。**印刷設定**ダイアログボックスが表示されます。

6 **基本設定**タブの中にある**原稿サイズ**ボタンをクリックします。**原稿サイズ**ダイアログボックスが表示されます。印刷する文書の用紙サイズを選択します。

参考：はがきや OHP フィルムなどに印刷する場合は、用紙種類ドロップダウンリストから選択することで、印刷条件を最適化することができます。詳しくは、用紙の種類に合わせて印刷するを参照してください。

通常は指定したサイズに一致する用紙を、トレイやカセットにセットされた用紙の中から自動で選択し、印刷を行います（一致するサイズの用紙がない場合は、手差しトレイに用紙を給紙するようメッセージが表示されます）。

特定のカセットから給紙を行いたい場合は、**給紙元**ドロップダウンリストから選択します。

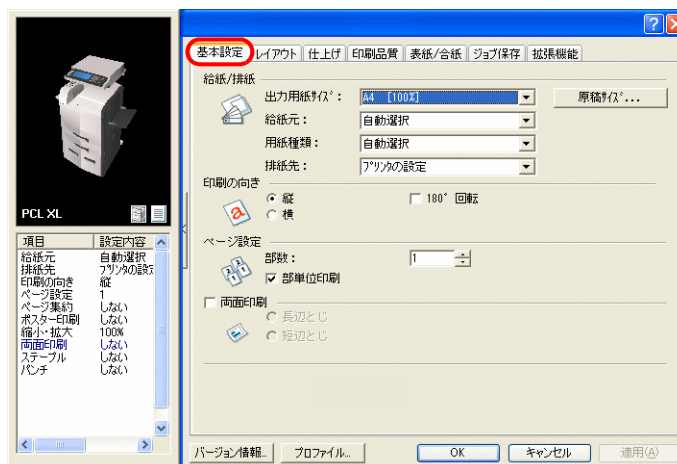
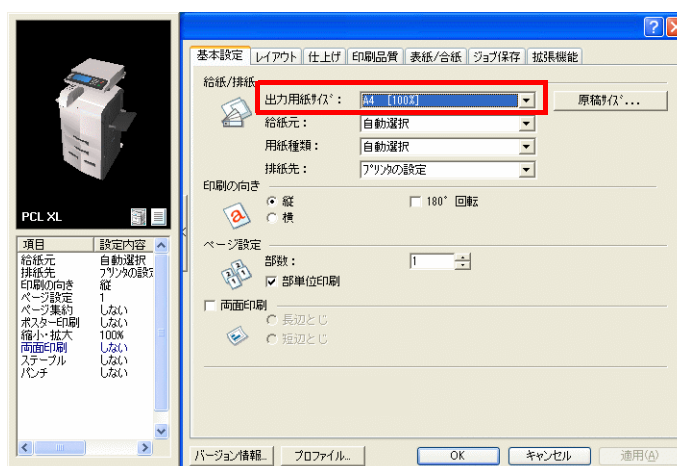
7 文書の向きに合わせて、**縦**または**横**を選択します。また、180° **回転**チェックボックスにチェックを入れると、文書を 180 度回転させて印刷することができます。

参考：この設定は、用紙サイズが A4、B5、または Letter の場合に、ステープルを右上の位置に行う場合に必要になります。詳しくは、ステープルを参照してください。

---

8 OK ボタンをクリックします。**印刷**ダイアログボックスに戻ります。

9 **印刷**ダイアログボックスの OK ボタンをクリックします。印刷データがスプールされ、印刷が行われます。

サイズの異なる用紙に印刷する

文書を元のサイズと異なるサイズ（出力用紙サイズ）の用紙に印刷できます。印刷される文書は、出力サイズに合わせて自動的に縮小または拡大されます。

1 **印刷設定**ダイアログボックスの**基本設定**タブをクリックします。

2 **原稿サイズ**ドロップダウンリストから、文書の元の用紙サイズを選択します。さらに、**出力用紙サイズ**ドロップダウンリストから、出力したい用紙サイズを選択します。

参考：プリントシステムに、出力用紙サイズで設定したサイズの用紙が入っていることを確認してください。

---

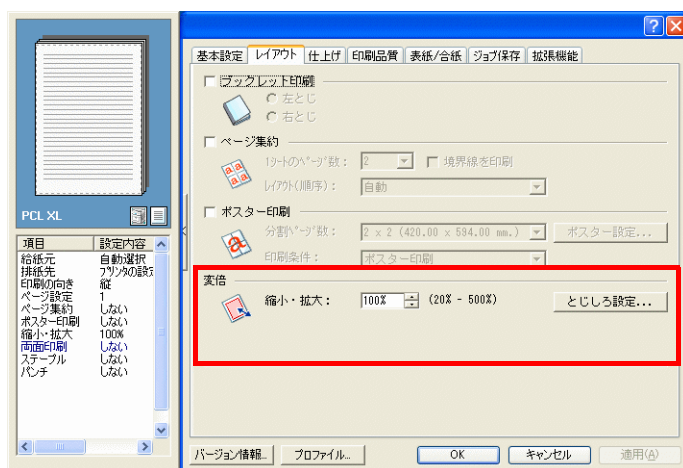
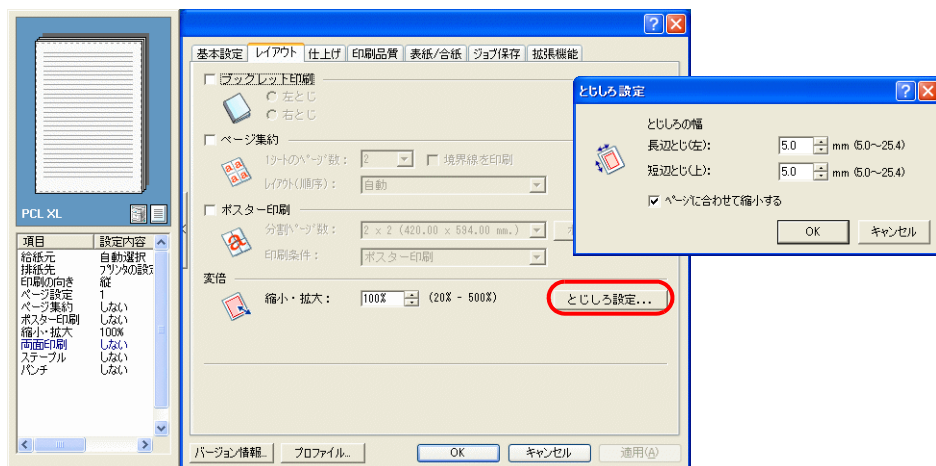
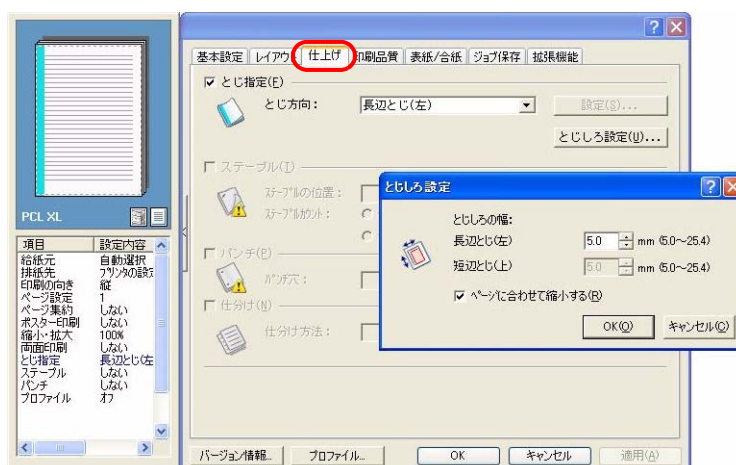
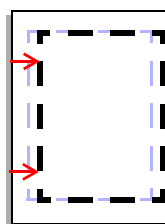
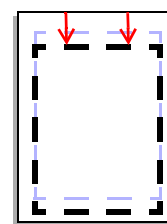
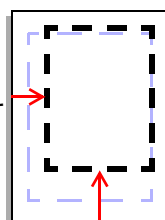
3 OK ボタンをクリックして**印刷**ダイアログボックスに戻り、OK ボタンをクリックします。印刷が行われます。

参考：本機能を使うと、印刷内容は印刷前と印刷後の用紙の比率に合わせて印刷されます。これに対して、縮小・拡大して印刷するで説明する拡大・縮小の機能は、出力用紙のサイズに関係なく、元の印刷内容と用紙サイズに対して何％拡大・縮小するかを選ぶものです。

参考：出力サイズを元にもどすには、出力用紙サイズドロップダウンリストから、原稿サイズと同じ用紙サイズを選択してください。

縮小・拡大して印刷する

基本設定タブの**出力用紙サイズ**で設定されているページサイズを、20％から 500％までの範囲で縮小または拡大して印刷できます。

1 **印刷設定**ダイアログボックスの**レイアウト**タブをクリックし、**縮小・拡大**スピンボックスに倍率を入力します。

2 **とじしろ設定**ボタンをクリックすると、**とじしろ設定**ダイアログボックスが表示されます。5.0mm から 25.4mm の範囲で、とじしろを設定できます。

とじしろ設定ボタンは、**機種**によっては**仕上げ**タブにあります。

- ページ左側にとじしろをつける場合は、**長辺とじ（左）**に数値を入力します。
- ページ上側にとじしろをつける場合は、**短辺とじ（上）**に数値を入力します。

- とじしろ設定した際、印刷データが用紙からはみ出てしまう場合は、**ページに合わせて縮小する**チェックボックスにチェックを入れてください。とじしろもページの縮小率に合わせて縮小されます。

参考：用紙サイズをほかのサイズの用紙に変えて印刷したい場合（たとえば、A4 サイズのパンフレットを A3 の用紙に拡大して出力したい場合）は、サイズの異なる用紙に印刷するを参照してください。

不定形サイズの用紙に印刷する

不定形サイズの用紙を使って、印刷を行います。

不定形サイズの用紙の登録

不定形サイズの用紙に印刷する前に、あらかじめ不定形サイズの用紙を登録する必要があります。

参考：機種によって不定形サイズの用紙は、ユニバーサル（可変サイズ）カセット、または手差しトレイを使用して給紙します。

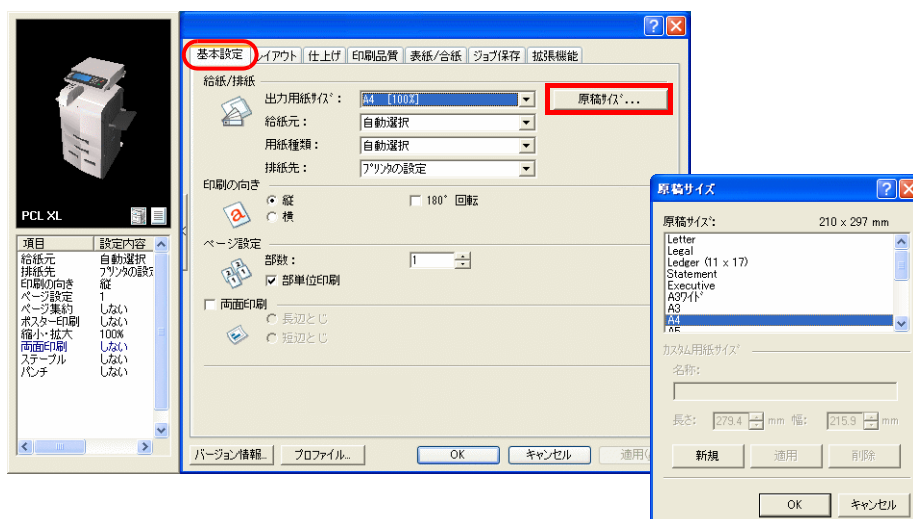
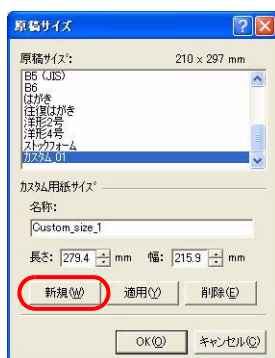
1 不定形の用紙をプリントシステム内にセットします。詳しくは、プリントシステムの使用説明書を参照してください。

2 Windows の**スタート**ボタンをクリックし、**プリンタと FAX** をクリックします。**プリンタと FAX** ウィンドウ表示されます。

参考：Windows 2000 の場合：**Windows タスクバーのスタート**ボタンをクリックし、**設定→プリンタ**とクリックして**プリンタ**ダイアログを開きます。
Windows Vista の場合：**Windows タスクバーのスタート**ボタンをクリックし、**コントロールパネル→プリンタ→プリンタのインストール**をクリックして、**プリンタの追加**ダイアログを開きます。

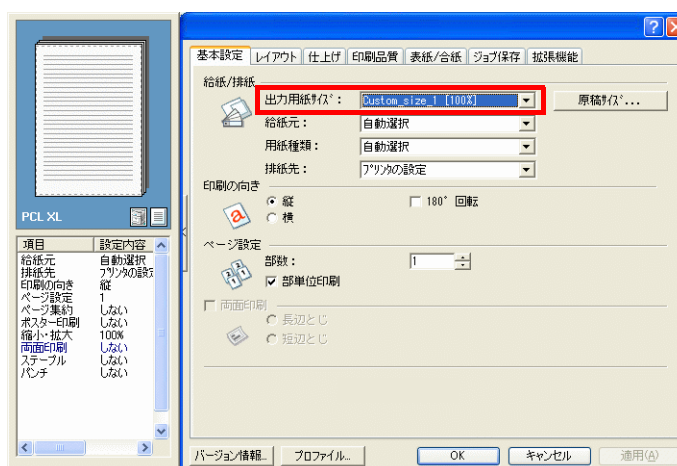
3 設定を行うプリントシステムのアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから**プロパティ**をクリックします。プリントシステムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

4 **印刷設定**ボタンをクリックします。**印刷設定**ダイアログボックスが表示されます。

5 **基本設定**タブの**原稿サイズ**ボタンをクリックします。**原稿サイズ**ダイアログボックスが表示されます。

6 **新規**ボタンをクリックします。グレーアウトされていた**カスタム用紙サイズ**が入力可能になります。

まず、登録したい不定形サイズの**名称**を入力します。入力できる文字列は、半角で最大 31 文字、全角で最大 15 文字です。

長さと**幅**に、それぞれ不定形用紙の長さと幅を、ミリかインチ単位で入力します（単位選択は**デバイス設定**タブの**ユーザー設定**ダイアログボックスで行います）。

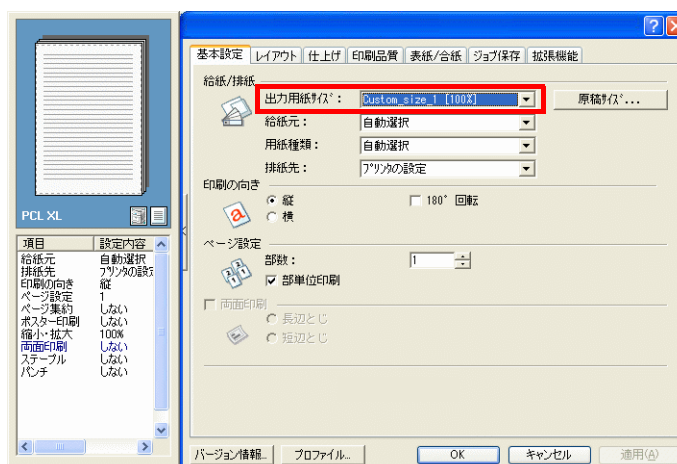
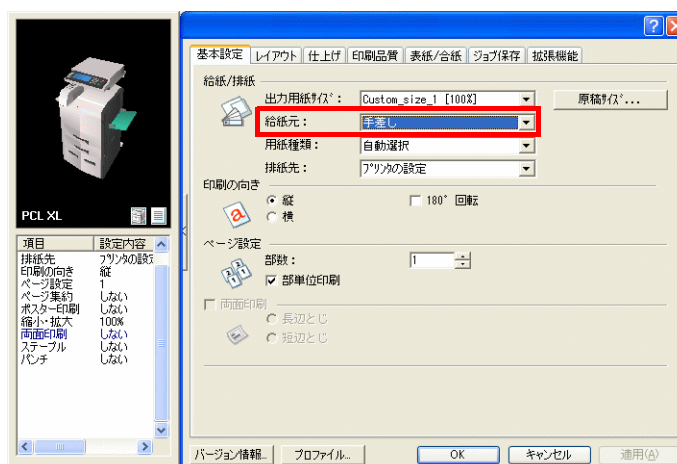
参考：不定形紙として設定可能な最小および最大サイズは、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

7 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。カスタム用紙のサイズが登録され、**原稿サイズ**ダイアログボックスが終了します。**印刷設定**ダイアログボックスの**出力用紙サイズ**ドロップダウンリストに、登録した用紙サイズが追加されます。

以上の手順を繰り返して、不定形用紙サイズを最大 20 パターンまで登録できます。

不定形サイズの用紙に印刷

前項の手順で設定した不定形サイズの用紙を使って、印刷を行います。

1 アプリケーションソフトから、プリントシステムのプロパティを表示させます（ファイルから**印刷**ダイアログボックスの**プロパティ**を選択します）。

2 **基本設定**タブの**原稿サイズ**ドロップダウンリストから、登録した不定形用紙サイズを選択します。

3 不定形サイズの用紙をセットした給紙カセットを、**給紙元**ドロップダウンリストから選択します。

OK ボタンをクリックして**印刷設定**ダイアログボックスを終了し、印刷を行います。

用紙の種類に合わせて印刷する

通常プリントシステムは、普通紙を使用することを前提に、自動的に給紙元を選択し印刷を行います。

再生紙やラベル紙、OHP フィルムなど、特殊な用紙を使用したい場合は、**用紙種類**を設定します。これにより、自動的に給紙元を選択し、印刷仕上がりも最適な結果が得られるようになります。この機能は、PCL XL 詳細設定で無効にすることもできます。詳しくは、**PDL 設定**を参照してください。

参考：ラベル紙や OHP フィルム、封筒などは、手差しトレイを使用して給紙します。給紙元にセットできる用紙の種類については、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

用紙種類の登録

給紙元の用紙サイズと用紙の種類を、あらかじめプリントシステムに正しく登録する必要があります。

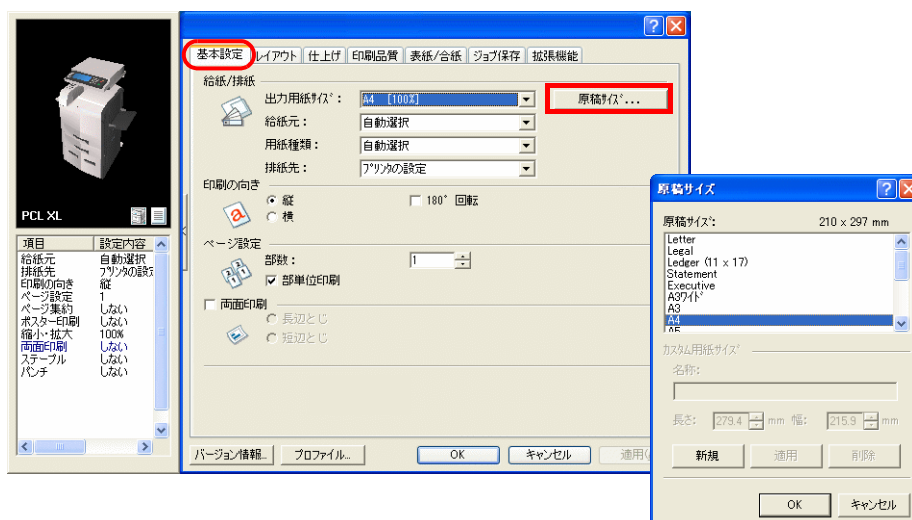
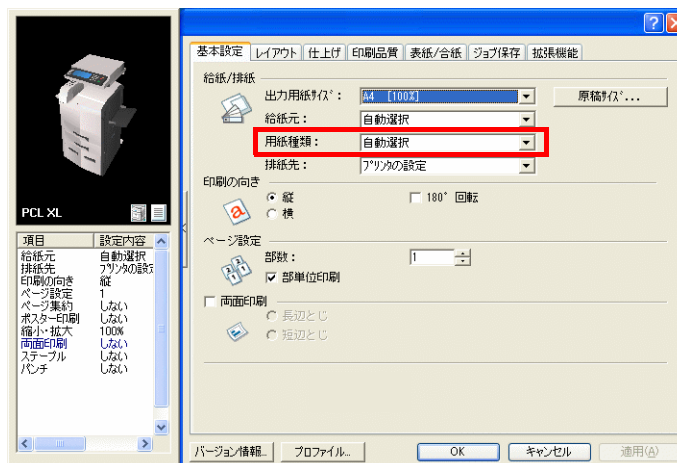
1 用紙を給紙カセットまたは手差しトレイにセットします。

参考：手差しトレイはカセットモード（初期設定）で使用します。手差しトレイのモードについては、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

---

2 プリントシステムの操作パネルから、給紙カセットの用紙種類を設定します。

3 **印刷設定**ダイアログボックスの**基本設定**タブをクリックします。

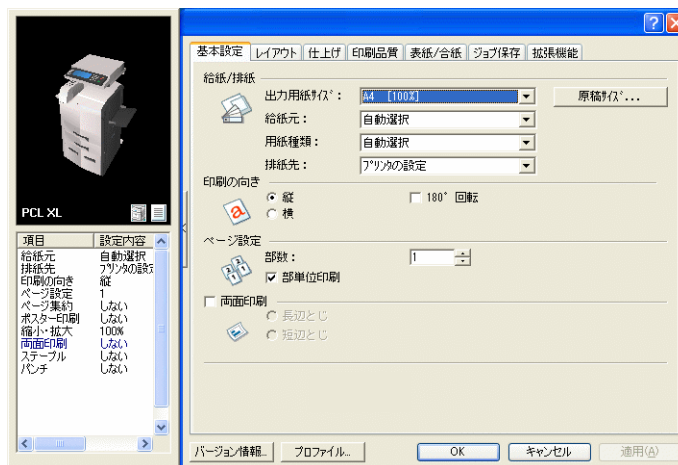
4 **原稿サイズ**に、印刷する文書の用紙サイズを設定します。

5 **用紙種類**ドロップダウンリストから、印刷に使用する用紙に合った種類を選択します。

用紙種類ドロップダウンリストから選択できる用紙の種類は、次のとおりです。

用紙種類	使用できる給紙元
普通紙［64 ～ 90g/ ㎡］	すべて
OHP フィルム	手差しトレイ（MP トレイ）
プレプリント	すべて
ラベル紙	手差しトレイ（MP トレイ）
ボンド紙（証券）	すべて
再生紙［64 ～ 90g/ ㎡］	すべて
薄紙［64g/ ㎡未満］	手差しトレイ（MP トレイ）またはカセット
厚紙［90 ～ 200g/ ㎡］	手差しトレイ（MP トレイ）またはカセット
レターヘッド	すべて
カラー紙（色付き紙）［64 ～ 90g/ ㎡］	すべて
パンチ済み紙	すべて
封筒	手差しトレイ（MP トレイ）
はがき	手差しトレイ（MP トレイ）
加工紙	手差しトレイ（MP トレイ）
上質紙	すべて
カスタム（1-8）	次のセクションを参照

印刷を開始すると、上記で設定したサイズと種類に適合した用紙が自動的に選択され、印刷が行われます。

参考：指定したサイズまたは種類に該当する用紙がセットされていない場合、給紙を促すメッセージが表示されます。

4　印刷設定

アプリケーションソフトで、**印刷**ダイアログボックスの**プロパティ**を選択すると、各プリントシステムの**印刷設定**ダイアログボックスが表示されます。

ここで、印刷に関する各種設定が行えます。

アプリケーションソフトから設定した場合は、ソフトを終了したあと、設定内容はデフォルトに戻ります。

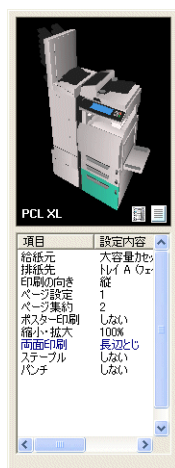
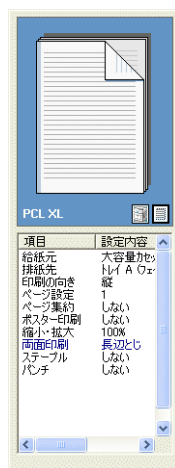
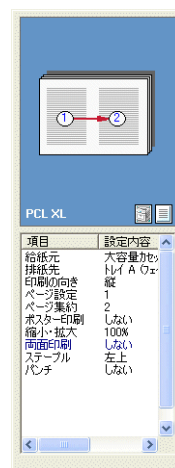
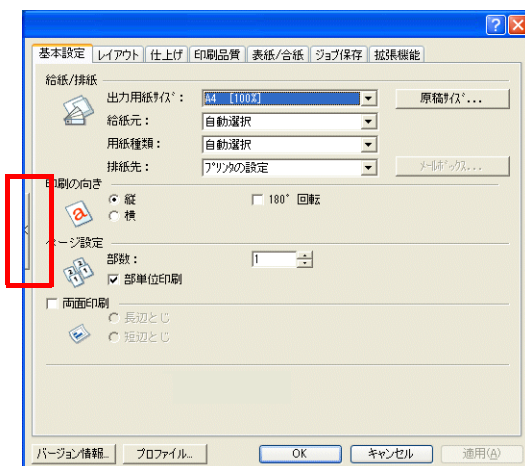
デフォルトの設定内容を変更したい場合は、**プリンタと** FAX ウィンドウのプリントシステムごとのショートカットメニューから、印刷設定ダイアログを起動して設定します。

印刷設定ダイアログボックスでは、設定の内容ごとにタブで分けられています。タブは次の通りです。

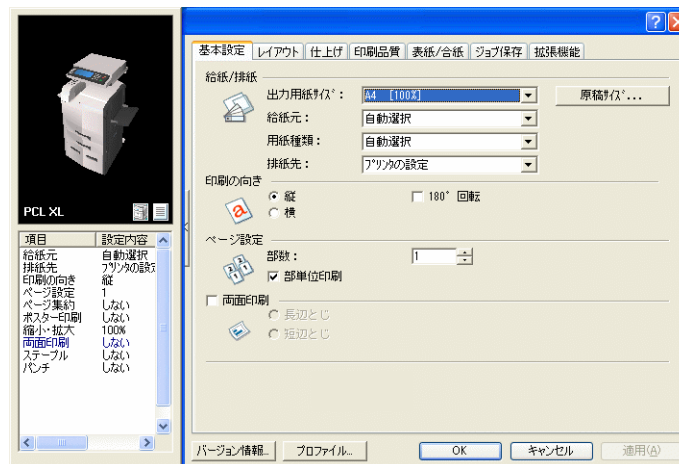
- 基本設定
- レイアウト
- 仕上げ
- 印刷品質
- 表紙 / 合紙
- ジョブ保存
- 拡張機能

この章では、プリンタドライバの各種設定方法を画面のタブごとに説明します。

サイドパネル

印刷設定ダイアログボックスは、右側のメイン画面と左側のサイドパネルで構成されます。サイドパネルは、印刷の設定内容をわかりやすく表示するためのものです。上部分には、給紙元や排紙先を 3D イメージで表示したり、用紙の設定をレイアウトイメージで表示したりします。下部分には、現在の設定内容をリスト表示します。

3D イメージ（給紙元）　3D イメージ（排紙先）　用紙レイアウト（両面印刷）　用紙レイアウト（ページ集約）

また、メイン画面の左側にあるボタンをクリックすると、サイドパネルの表示 / 非表示を切り替えることができます。

基本設定

この節では、**基本設定**タブについて、次の項目を説明します。

- 給紙 / 排紙
- 印刷の向き
- ページ設定
- 両面印刷

給紙 / 排紙

印刷する用紙の設定を行います。次の項目について、それぞれのドロップダウンリストから選択して設定します。

項目	説明
出力用紙サイズ	印刷する用紙のサイズを指定します。
給紙元	給紙するカセットやトレイを指定します。
用紙種類	用紙の種類を指定します。
排紙先	排紙するトレイやソータを指定します。

参考：不定形サイズの用紙や、サイズの異なる用紙に印刷することもできます。詳細は、不定形サイズの用紙に印刷するを参照してください。

原稿サイズ

原稿サイズボタンをクリックすると、**原稿サイズ**ダイアログボックスが表示されます。原稿のサイズを一覧から選択します。

印刷の向き

印刷する用紙の向きを縦にするか横にするか選択します。

180° **回転**を選択すると、上下の向きが逆になって印刷されます。

ページ設定

印刷する部数を指定します。

複数部数印刷するとき、**部単位印刷**チェックボックスにチェックを入れて印刷すると、ページごとではなく、部単位ごとに印刷されます。あとで、一部ごとまとめる作業がいらなくなります。

ソート

ソータを装着したプリントシステムでは、印刷した文書を 1 部ずつソートできます。また、ソータの各トレイをメールボックスとして、複数のユーザごとに専用のトレイを割り当てて使用することができます。

参考：ソータ機種によって、トレイ数やトレイあたりの用紙の最大収容枚数が異なります。ソータに付属の使用説明書で確認してください。

参考：ソータへの出力方法は、アプリケーションソフト側の設定が優先される場合があります。

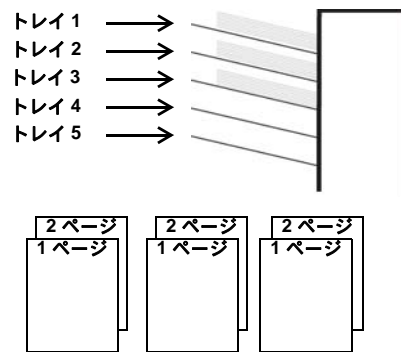
ソートのモード

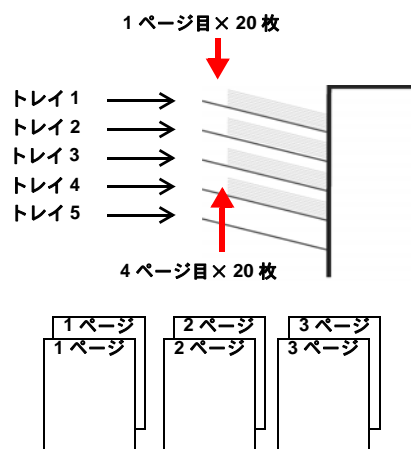
ソートのしかたには、次の 3 つのモードがあります。

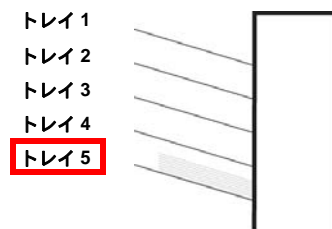
- 部単位印刷
- 部単位印刷なし
- メールボックス

これらのモードについて説明します。

モードの違い

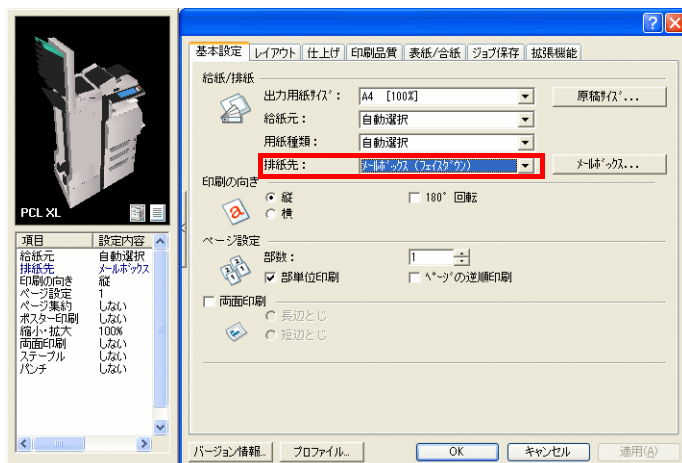
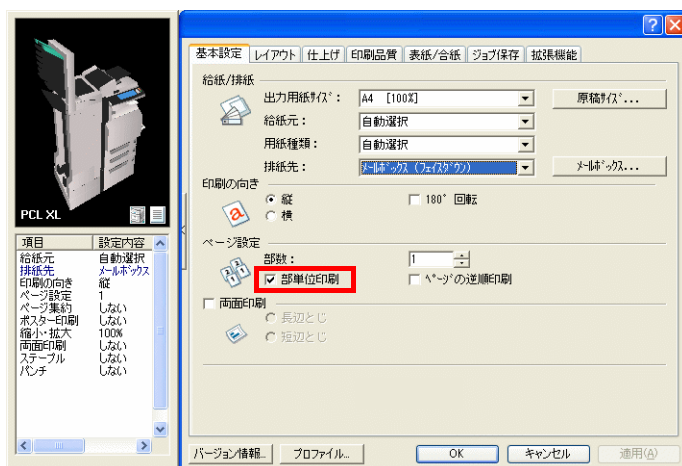
部単位印刷

- 1 つの文書を複数部印刷する場合に使用します。1 つのトレイに 1 部ずつ文書が出力されます。
- 印刷部数は、ソータのトレイ数より少なくする必要があります。各トレイの最大枚数を超えると印刷は停止し、トレイ内の用紙を取り出すようプリントシステムにメッセージが表示されます。用紙を取り出すと、残りの部数が出力されます。
- プリントシステムへのハードディスクの装着または RAM ディスクの設定が必要です。設定方法については、**オプション機器の追加**を参照してください。

部単位印刷なし

- 部単位印刷なしでは、ページ数が 4 ページの文書を印刷部数 20 で印刷すると、トレイ 1 に 1 ページ目が 20 枚、2 ページ目がトレイ 2 に 20 枚などのように出力されます。
- 印刷部数は 1 つのトレイに収納可能な枚数を超えないよう設定することが必要です。各トレイの最大枚数を超えると印刷は停止し、トレイ内の用紙を取り出すようプリントシステムにメッセージが表示されます。

メールボックス

- メールボックスモードは、ユーザごとにトレイを割り当て、ユーザはそのトレイを指定して出力するモードです（トレイ 5 など）。
- 印刷部数が、トレイに収容可能な枚数を超えると印刷は停止し、トレイ内の用紙を取り出すようプリントシステムにメッセージが表示されます。

部単位印刷

部単位印刷モードの使いかたは、次のとおりです。

1 **排紙先**ドロップダウンリストから、**メールボックス（フェイスダウン）**を選択します。

2 **部単位印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

3 **基本設定**タブの出力部数に**部数**を入力します。通常、部数はソータのトレイより少ない数にします。また、印刷する文書のページ数は、1つのトレイが収納できる枚数より少ない数にします。

4 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

5 印刷を開始します。各トレイに、指定した部数が1部ずつ排紙されます。

部単位印刷なし

部単位印刷チェックボックスのチェックをはずすと、部単位印刷が解除されてトレイ1に1ページ目、トレイ2に2ページ目のように出力されます。

部単位印刷なしモードの使いかたは、次のとおりです。

1 **排紙先**ドロップダウンリストから、**メールボックス（フェイスダウン）**を選択します。

2 **部単位印刷**チェックボックスのチェックをはずします。

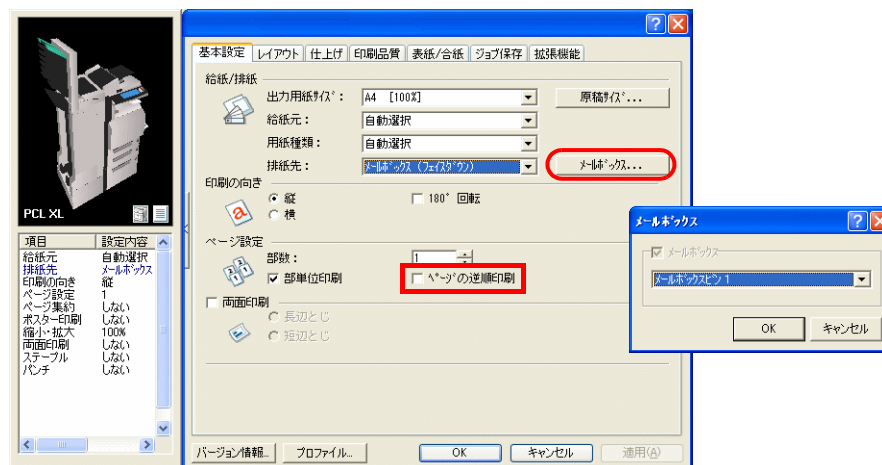
3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

4 印刷を開始します。各トレイに文書の各ページが、指定した部数ずつ排紙されます。

メールボックス

メールボックスモードの使いかたは、次のとおりです。

1 **排紙先**ドロップダウンリストから、**メールボックス（フェイスダウン）**を選択します。

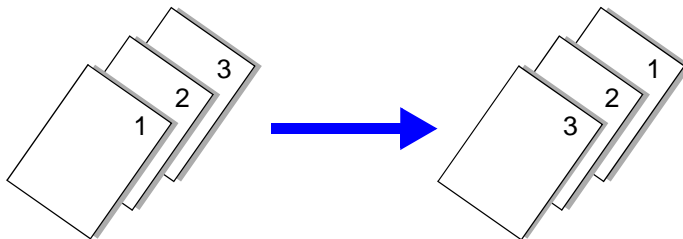
2 **メールボックス**ボタンをクリックします。**メールボックス**ダイアログボックスが表示されます。

3 使用するトレイをドロップダウンリストから選択します（例えば**メールボックスビン 1**）。

4 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

5 印刷を開始します。文書は指定したトレイ（例えば**メールボックスビン 1**）に出力されます。

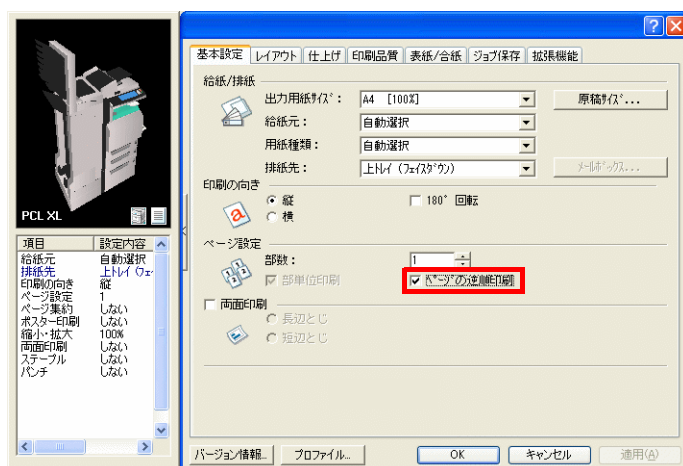
ページの逆順印刷

文書ページを、最終ページから最初のページへと、逆の順番で出力します。

厚紙などの特殊紙をフェイスアップ排紙する時に、フェイスダウン排紙と同じようにページ番号順に重ねて出力できます。

参考：排紙先がプリンタの設定、またはブックレット印刷が選択されている場合は、逆順印刷はできません。

---

1 **排紙先**をドロップダウンリストから選択します。

2 **ページ設定**の**ページの逆順印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

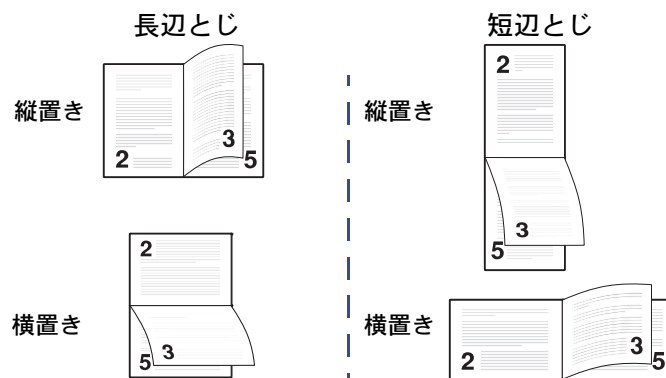
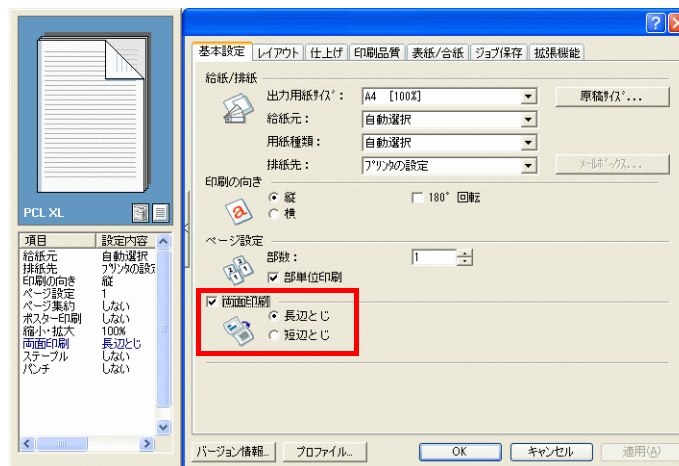
4 印刷を開始します。最終ページから最初のページへと、逆の順番で印刷が行われます。

両面印刷

両面印刷は、両面印刷ユニットを装着したプリントシステムで行うことができます。

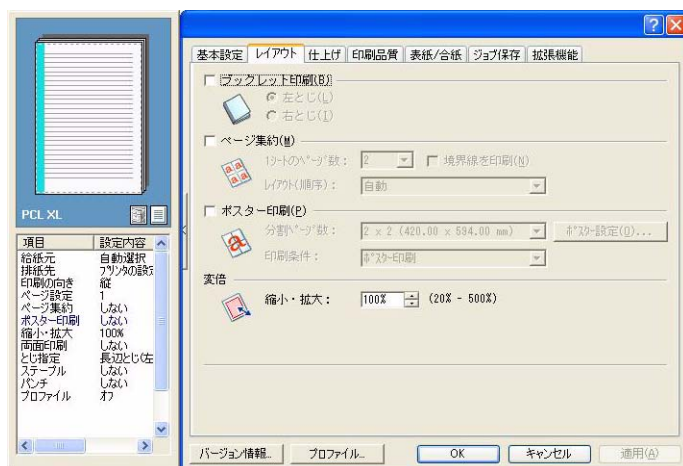
参考：両面印刷は、機種によってはメモリーの追加が必要な場合があります。詳細は、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。また、用紙のサイズや種類によって、両面印刷ができない場合があります。

両面に印刷する

1. **両面印刷**チェックボックスにチェックを入れて、**長辺とじ**または**短辺とじ**を選択します。

2. 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。
3. 印刷を開始します。両面に印刷されて排紙されます。

レイアウト

この節では、**レイアウト**タブについて、次の項目を説明します。

- ブックレット印刷
- ページ集約
- ポスター印刷
- 変倍

ブックレット印刷

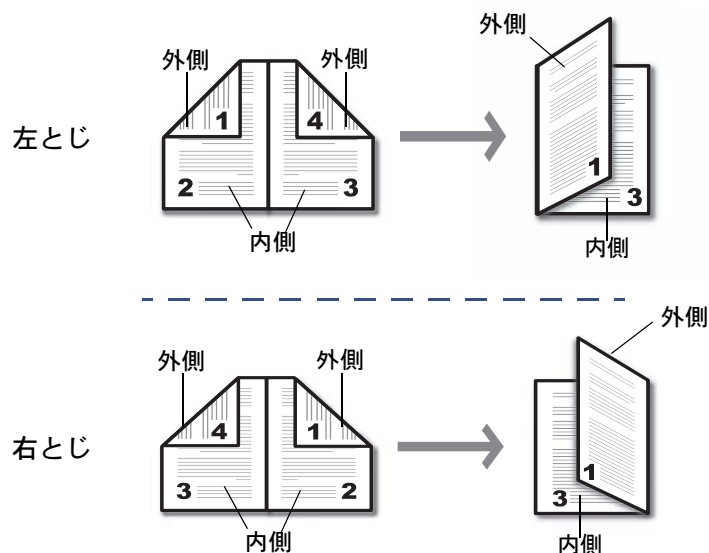
ブックレット印刷機能を使うと、1 枚の用紙に 2 ページのレイアウトで両面印刷を行い、中とじ製本が可能になります。ブックレット印刷機能は、プリントシステムに両面印刷ユニットを装着することが必要です。

中とじフィニッシャを装着すると、用紙の中央にステープルすることができ、同時に 2 つに折りたたんで本格的な製本印刷が可能です。**ステープル**の設定については、**ステープル**を参照してください。

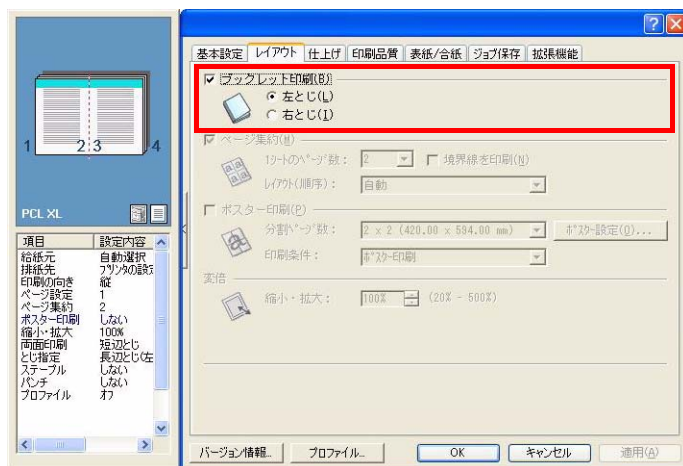
参考：ブックレット印刷が可能な用紙サイズや種類は機種によって異なります。詳細は、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

ブックレット印刷機能は、表紙付け機能と組み合わせて使用できます。詳細は、**表紙付け**を参照してください。

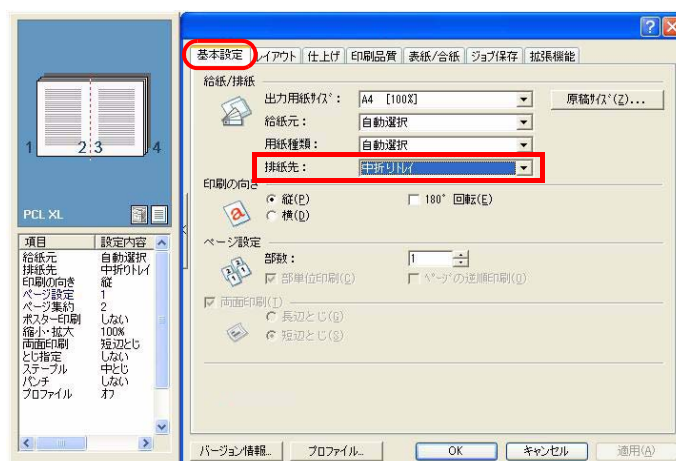
左とじと右とじ

ブックレット印刷のページ順序は、**左とじ**（洋とじ）または**右とじ**（和とじ）で選択が可能です。4 ページの文書を中とじ印刷すると、次の図のような順序でページが自動的に両面に並べられて印刷されます。

ブックレット印刷の使いかた

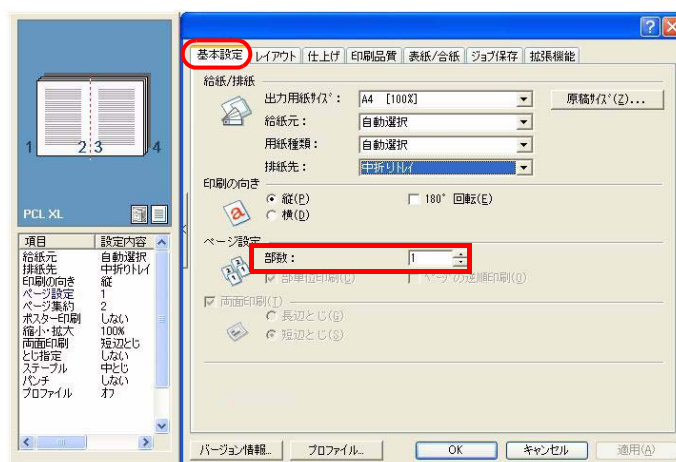
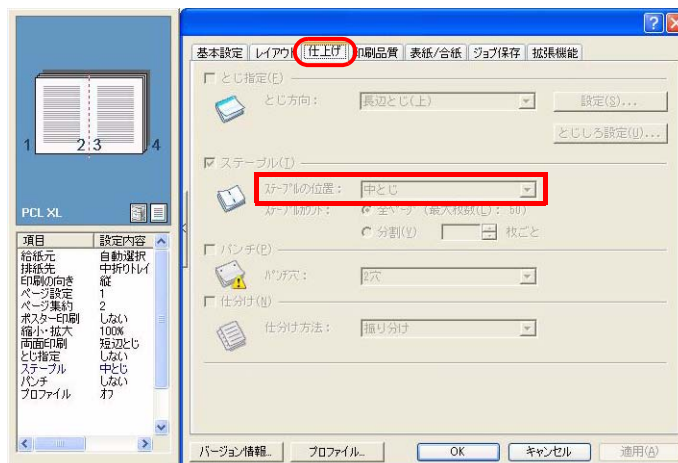
ブックレット印刷は、次の手順で行います。

1 **ブックレット印刷**チェックボックスにチェックを入れ、**左とじ**または、**右とじ**を選択します。

参考：オプションの中折りユニットを装着している場合は、排出先は自動的に中折りユニットの中折りトレイになります。

ステープルを行う場合は、次の手順へ進みます。

2 **基本設定**タブをクリックし、**中折りトレイ**を選択します。

仕上げタブで**ステープル**チェックボックスが使用できない場合は、**基本設定**タブの**排紙先**の設定を、ステープラのある排紙トレイに変更します。

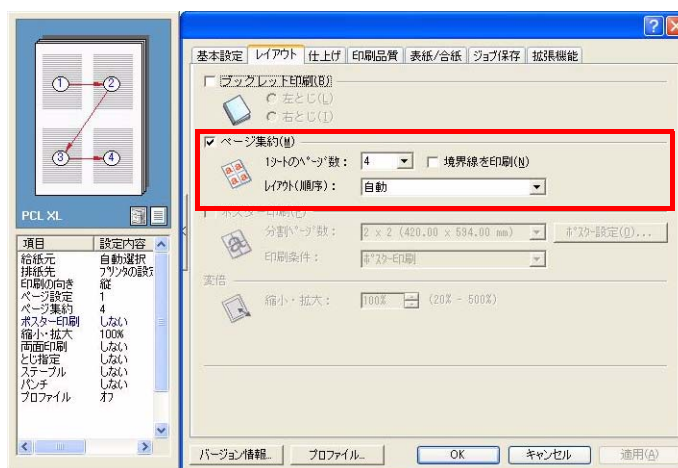
仕上げタブで**ステープル**を選択し、**レイアウト**タブの下にある**ブックレット印刷**を選択すると、ブックレット印刷が自動的に選択されます。その後、**排紙先**の**中折りトレイ**の設定をはずしても、**ブックレット印刷**の設定はリセットされません。ドライバをデフォルト設定に戻すには、**標準に戻す**をクリックします。

3 同じく**基本設定**タブで、**部数**を設定します。

4 **仕上げ**タブをクリックし、**ステープル**チェックボックスにチェックが入り、自動的に**中とじ**が選ばれます。

参考：ブックレット印刷のステープルの最大枚数は機種によって異なります。詳細は、プリントシステムまたはフィニッシャに付属の使用説明書を参照してください。

5 OK ボタンをクリックしてアプリケーション画面にもどり、印刷を開始します。ブックレット印刷が行われ、ステープルユニットで中とじ後、排紙されます。

ページ集約

1 枚の用紙に複数のページを並べて印刷できます。なお、この機能を使用中は、次項で説明する**変倍**の機能は利用できません。

1 **ページ集約**チェックボックスにチェックを入れます。

1 シートのページ数で、1 枚の用紙に印刷するページ数を指定します。

ページの並びかたは、**レイアウト（順序）**で上下左右方向を選ぶことができます。

上の画面例で示すとおり 4 枚に設定すると、1 枚に 4 ページ印刷することができます。上の画面例で示すとおり**自動**に設定すると、文書ページは左上から右下に配置されます。

境界線を印刷チェックボックスにチェックを入れると、各ページを区切るようにページの境界線を印刷することができます。

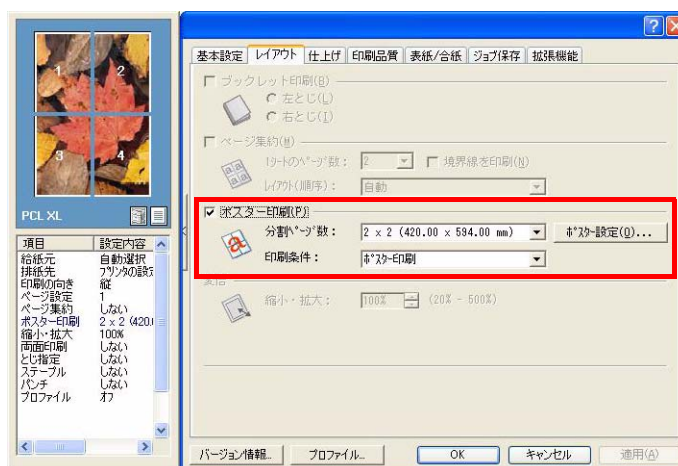
参考：PDL に KPDL を選択している場合、アプリケーションによっては印刷に影響を及ぼす場合があります。PCL XL や PCL 5e へ変更するか、または KPDL モード設定のパススルーモードをオフにしてください。PDL の変更方法については、PDL 設定を参照してください。

---

2 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

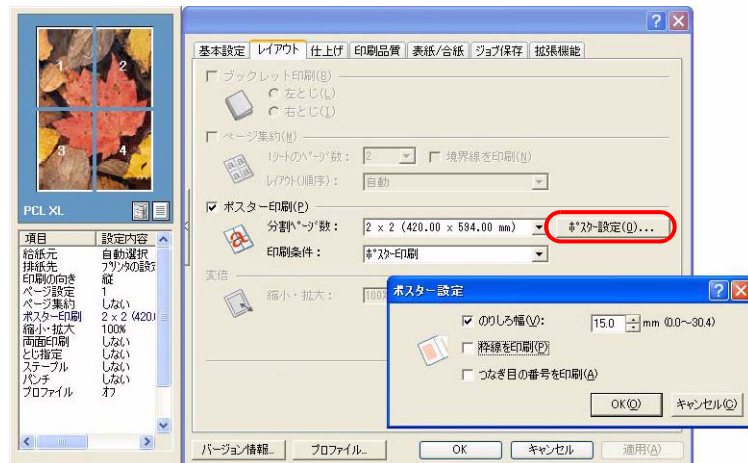
ポスター印刷

ポスターなどのように大きく印刷したい場合、A4 などの小さな用紙を重ねて 1 枚の大きなポスターを作れるよう、複数枚に分割して印刷することができます。なお、この機能を使用中は、次項で説明する**変倍**の機能は利用できません。

1 **ポスター印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

分割ページ数から分割する枚数を選択します。3 x 3 を選択した場合、縦が 3 枚、横が 3 枚の合計 9 枚に分割されて印刷します。

印刷条件で選択できる値は次の通りです。

印刷条件	説明
ポスター印刷	指定した枚数に実際に分割して印刷します。
テスト印刷	どのように分割されるか、仕上がりイメージを 1 枚の用紙に縮小して印刷します。
ポスター印刷 + テスト印刷	ポスター印刷とテスト印刷の両方が実行されます。

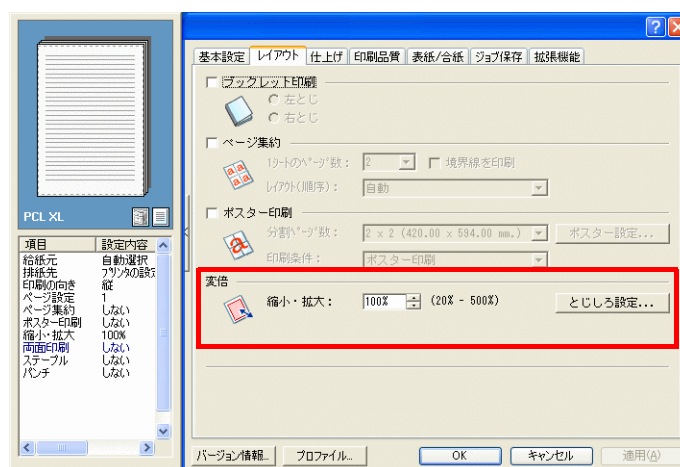
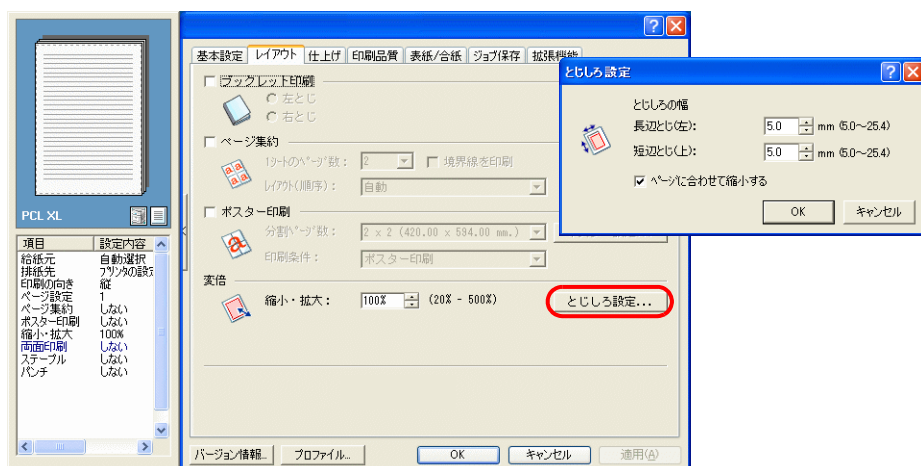
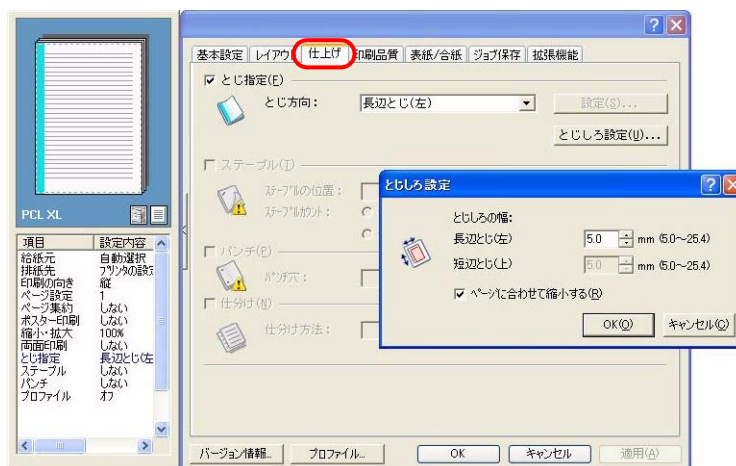
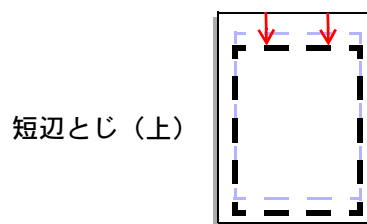
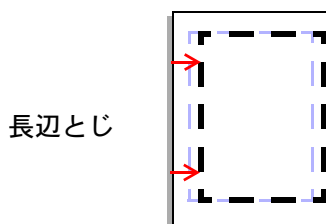
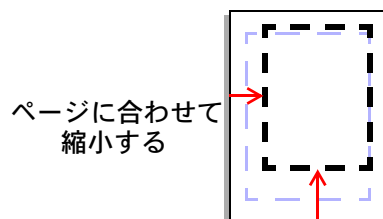
2 より細かい設定を行う場合は、**ポスター設定**ボタンをクリックします。**ポスター設定**ダイアログボックスが表示されます。

必要な項目のチェックボックスにチェックを入れます。

項目	説明
のりしろ幅	重ね合わせるときののりしろの幅をスピンボックスで指定します。指定できる範囲は 0 から 30.4mm です。
枠線を印刷	分割されたイメージを、枠線で囲みます。
つなぎ目の番号を印刷	のりしろとのりしろが重なる辺に、番号を印刷します同じ番号を重ね合わせることで、1 枚のイメージが完成します。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

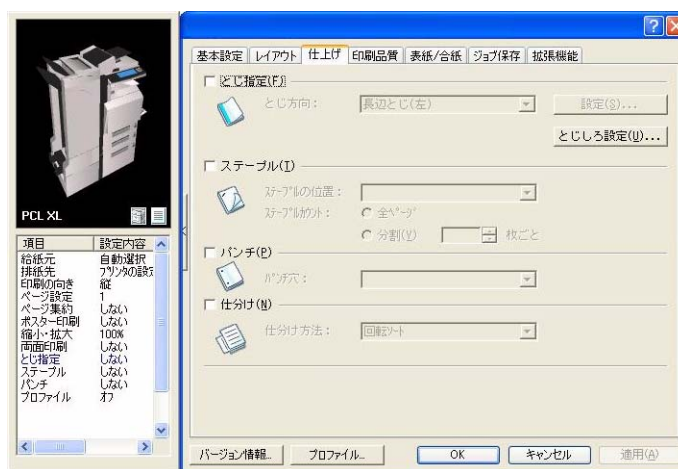
変倍

基本設定タブの**出力用紙サイズ**で設定されているページサイズを、20％から 500％までの範囲で拡大または縮小して印刷することができます。ただし、**ページ集約**機能の 1 シートのページ数が 1 である必要があります。

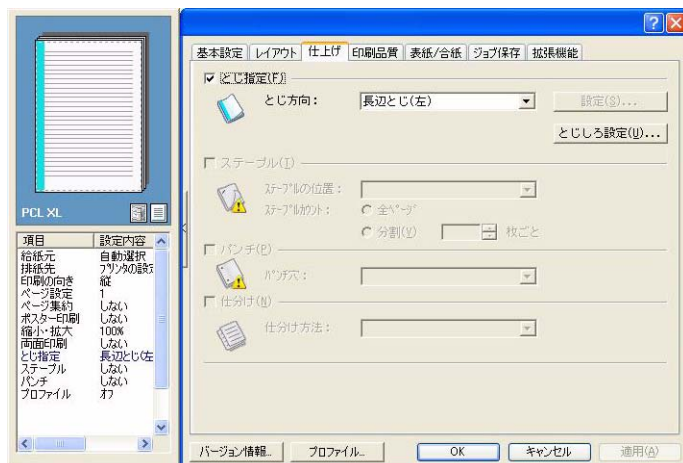
1 **縮小・拡大**に倍率を入力します。

2 **とじしろ設定**ボタンをクリックすると、**とじしろ設定**ダイアログボックスが表示されます。5.0mm から 25.4mm の範囲で、とじしろを設定できます。

とじしろ設定ボタンは、機種によっては**仕上げタブ**にあります。

- ページ左側にとじしろをつける場合は、**長辺とじ（左）**に数値を入力します。
- ページ上側にとじしろをつける場合は、**短辺とじ（上）**に数値を入力します。

- とじしろ設定した際、印刷データが用紙からはみ出てしまう場合は、**ページに合わせて縮小する**チェックボックスにチェックを入れてください。とじしろもページの縮小率に合わせて縮小されます。

用紙サイズを他のサイズの用紙に変えて印刷したい場合（たとえば、A4 サイズのパンフレットを A3 の用紙に拡大して出力したい場合）は、**サイズの異なる用紙に印刷する**を参照してください。

仕上げ

この節では、**仕上げ**タブについて、次の項目を説明します。

- とじ指定
- ステープル
- パンチ
- 仕分け

とじ指定

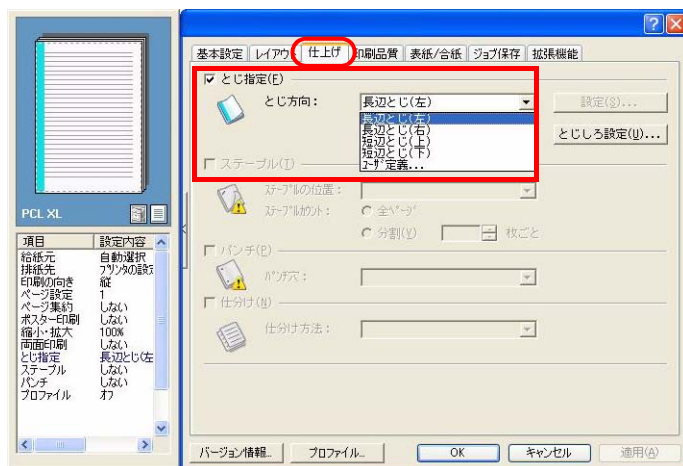
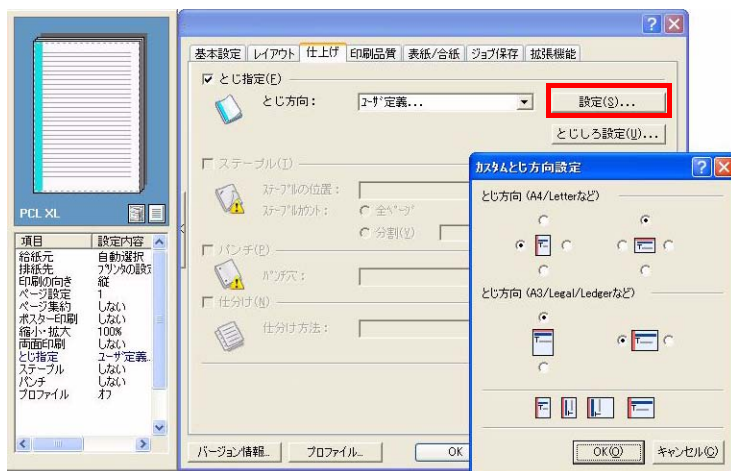
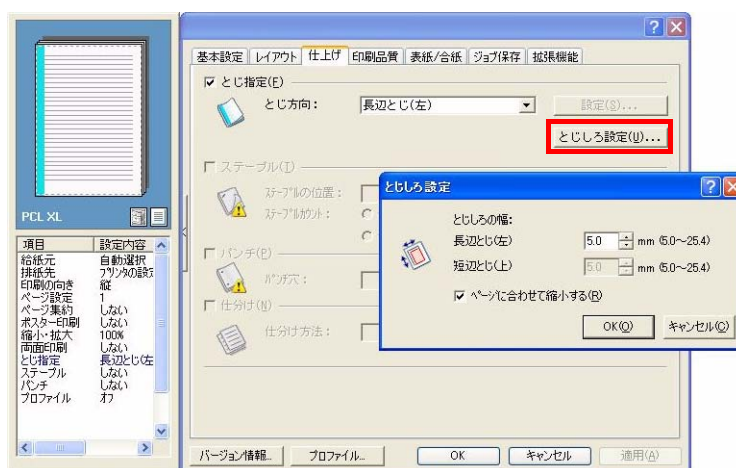
紙の左右上下どちらの辺をとじ辺にするかを指定できます。とじ辺の指定を行うことで、ステープルやパンチの位置が指定されます。用紙サイズが混在する原稿でも、ユーザ定義でとじ辺をそろえてステープルやパンチをすることができます。

また、製本したりパンチ穴をあける際に、印刷位置をずらして用紙の端に余白（とじしろ）を作ることができます。

参考：とじ指定機能は機種によっては対応していませんが、その場合でもとじしろ設定はレイアウトタブで設定できます。

とじ設定の使いかた

とじ指定機能は次の手順で行います。

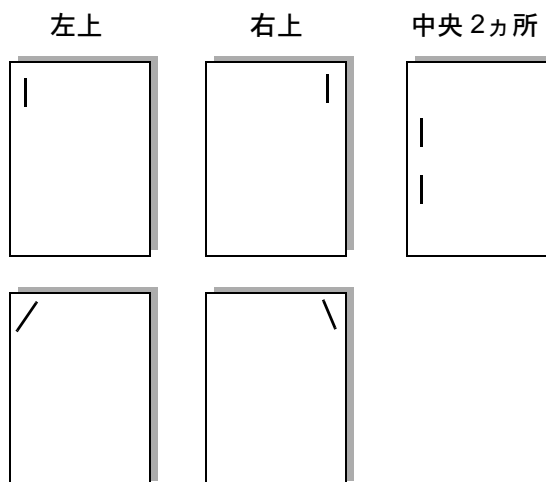
1 **仕上げ**タブをクリックし、**とじ指定**チェックボックスにチェックを入れます。

2 **とじ方向**を、**長辺とじ（左）**、**長辺とじ（右）**、**短辺とじ（左）**、**短辺とじ（右）**、**ユーザ定義**から選択します。

用紙サイズが混在する原稿を、とじ辺を揃えて排紙したい場合はユーザ定義を選択し、**設定**ボタンを押してください。**カスタムとじ方向設定**ダイアログが表示されますので、用紙サイズによってとじ方向を指定することができます。

3 とじ方向にとじしろを設定したい場合は、**とじしろ設定**ボタンを押してください。**とじしろ設定**ダイアログが表示されますので、長辺とじ、短辺とじとも 5mm ～ 25.4mm までの間で指定できます。

とじしろについて、詳細は、**縮小・拡大して印刷する**または、**変倍**を参照してください。

ステープル

ステープル機能は、ステープル可能なフィニッシャ（オプション）を装着したプリントシステムで使用することができます。中とじフィニッシャを装着すると、**ブックレット**機能が可能になります。詳細は**ソート**を参照してください。

オプション装置は、装着後にプリンタドライバで認識させることが必要です。詳細は、**オプション機器の追加**を参照してください。

ステープルの位置は、次の図に示すとおり、3 つの方法から選択できます。

参考：ステープル機能は、次項で説明する振り分け機能と同時に使用することはできません。

基本設定タブの**排紙先**で**プリンタの設定**を選択すると、**仕上げ**タブで選択されるオプションが、その仕上げオプションと互換性のある排紙先として自動的に選択されます。排紙先は、自動的に更新され、選択された仕上げオプションに対応する排紙先が、最初に使用可能な排紙トレイとなります。

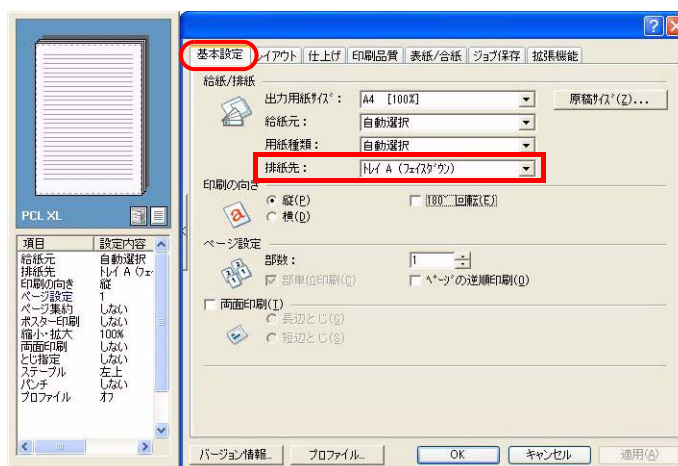
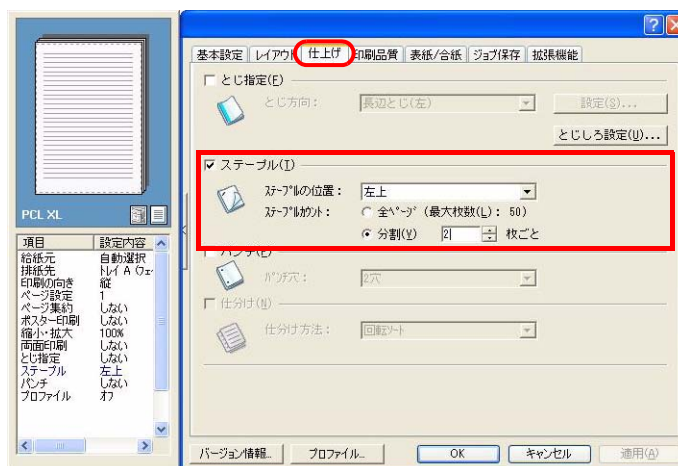
ステープル機能、パンチ機能、仕分け機能（**振り分け**を選択）のいずれも、排紙先は自動的に選択されます。**レイアウト**タブで**ブックレット印刷**を選択すると、排紙先は中折りトレイが自動的に選択されます。

ステープルの使いかた

ステープル機能は、次の手順で行います。

参考：用紙サイズが A4、B5 または Letter の場合に、ステープルを右上の位置に行うには、印刷の向きを 180°回転する必要があります。詳細は、印刷の向きの説明を参照してください。

---

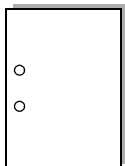
1 **基本設定**タブをクリックし、**排紙先**で**フィニッシャ（フェイスダウン）**を選択します。

2 **仕上げ**タブをクリックし、**ステープル**チェックボックスにチェックを入れます。

ステープルの位置で、**左上**、**右上**、**中央 2ヶ所**、**中とじ**から選択します。

ステープルカウントで、何ページごとにステープルを行うかを指定します。

- **全ページ（最大枚数：50 枚の場合）**は、ページ数が 50 ページ以下の文書の全ページをステープルして出力します。ページ数が 51 枚以上の文書を印刷すると、ステープルを行いません。例えば、ページ数が 58 ページの文書を印刷すると、ステープルを行いません。
- **分割**は、指定した枚数ごとに文書を分割してステープルして出力します。指定できる枚数は 2 から 50 枚までです。指定した枚数未満のページも、ステープルを行います。例えば、50 枚ごとを指定した場合、全ページ数が 58 ページの文書を印刷すると、50 枚と 8 枚の 2 冊の文書に分けてステープルを行い、出力します。

3 OK ボタンをクリックして**印刷設定**ダイアログボックスを終了し、印刷を開始します。印刷された文書はフィニッシャの出力トレイに貯えられ、ステープルされて排紙されます。ステープルの仕様に関しては、フィニッシャに付属の説明書を参照してください。

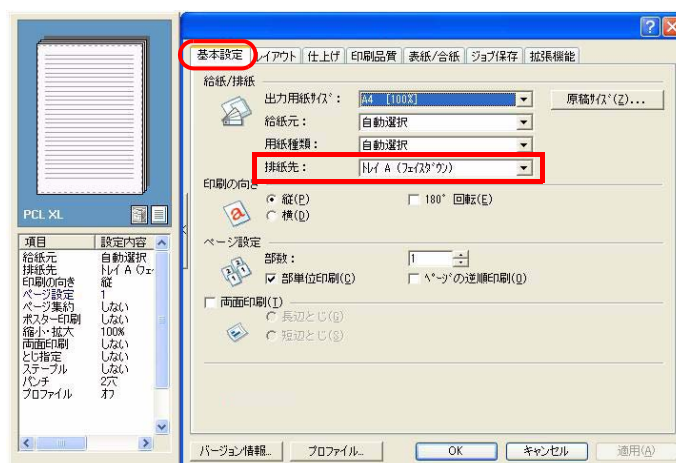
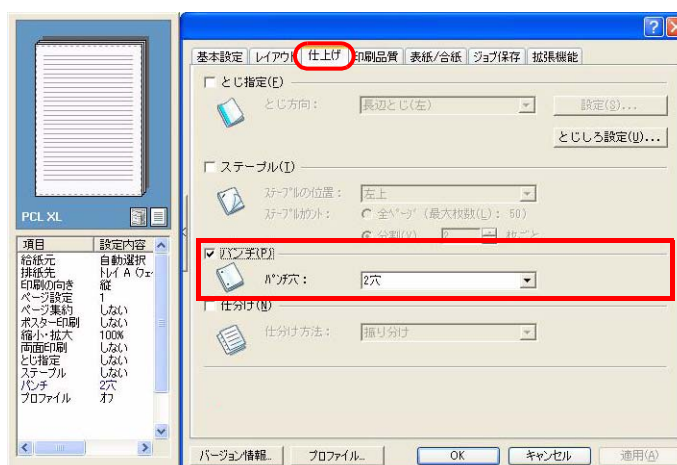
パンチ

パンチ機能は、印刷された各ページにパンチ穴を開けます。

パンチ機能は、パンチ機能が可能なフィニッシャ（オプション）を装着したプリントシステムで使用できます。

参考：パンチ機能は、中とじ印刷機能と同時に使用することはできません。

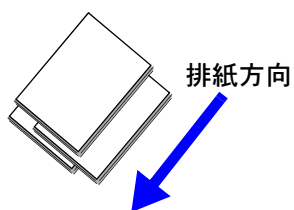
パンチ機能の使いかた

パンチ機能は、次の手順で行います。

1 **基本設定**タブをクリックし、**排紙先**で**フィニッシャ（フェイスダウン）**を選択します。

2 **仕上げ**タブをクリックし、**パンチ**チェックボックスにチェックを入れます。

3 OK ボタンをクリックして**印刷設定**ダイアログボックスを終了し、印刷を開始してください。ページが印刷されるごとに、パンチ穴が開けられて排紙されます。

仕分け

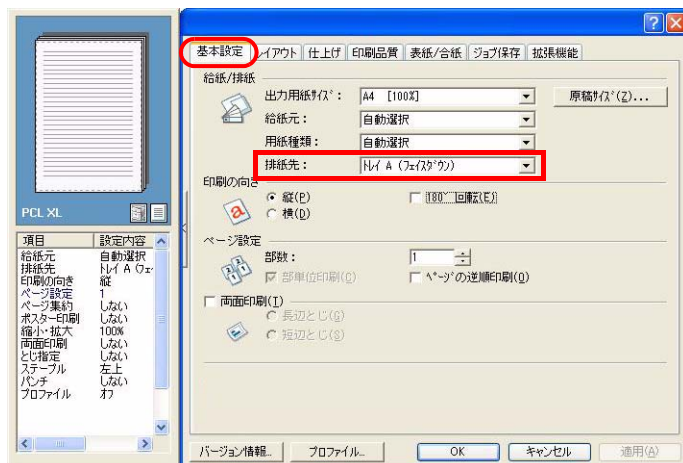
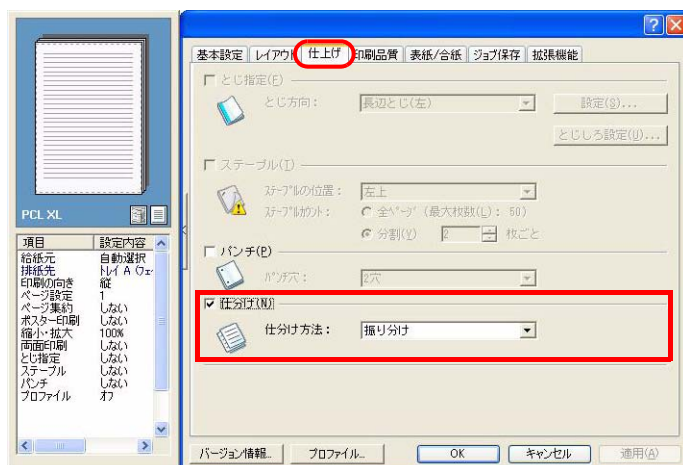
振り分け

振り分けは、印刷された文書を一部ずつ左右にずらして排紙する機能です。

振り分け機能を使用するには、振り分け可能なフィニッシャ（オプション）を装着したプリントシステムで使用することができます。

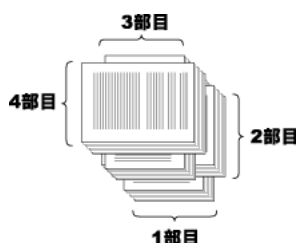
参考：振り分け機能は、ステープル機能との併用はできません。

振り分け機能の使いかた

振り分け機能は、次の手順で行います。

1 **基本設定**タブをクリックし、**排紙先**で**フィニッシャ（フェイスダウン）**を選択します。

2 **仕上げ**タブをクリックし、**仕分け**チェックボックスにチェックを入れます。**仕分け方法**で、自動的に**振り分け**が選択されています。

3 OK ボタンをクリックして**印刷設定**ダイアログボックスを終了し、印刷を開始します。1 部目が排紙された後、2 部目は横にずれて排紙されます。以後、3 部目は 1 部目と同じ位置に、4 部目は 2 部目と同じ位置に排紙されます。

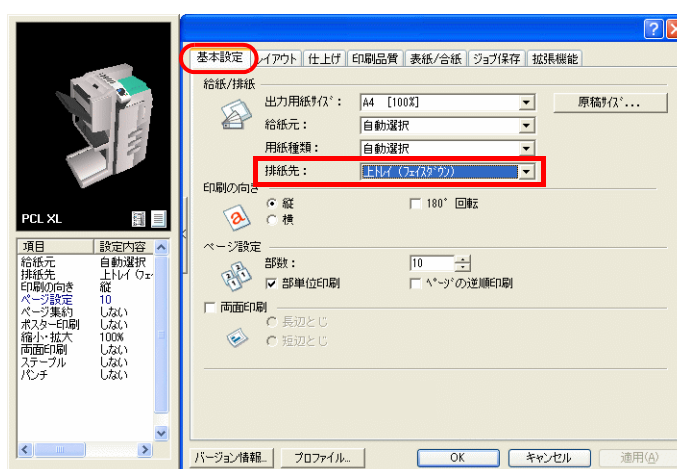
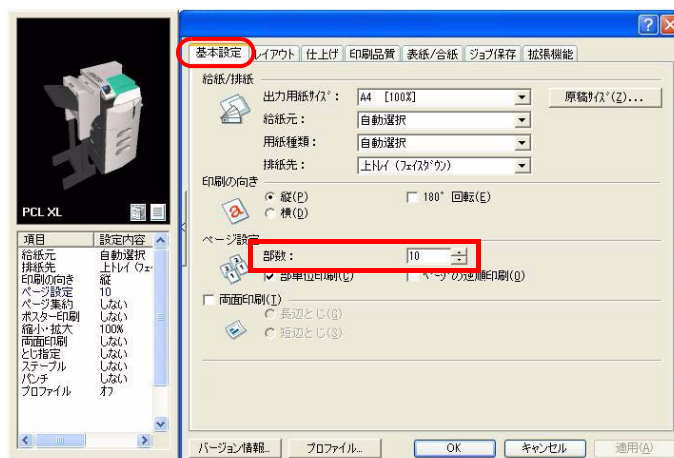
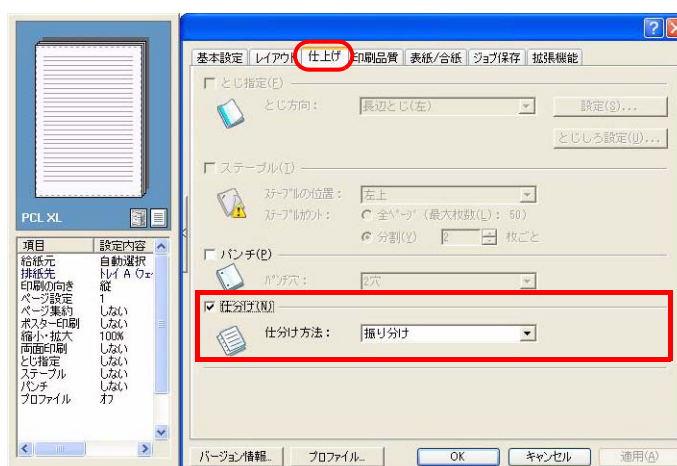
回転ソート

回転ソートは、フェイスダウントレイへ部単位印刷を行うときに、1 部ずつ縦と横に排紙方向を変えて印刷出力する機能です。

回転ソートが可能な用紙サイズは、A4、B5、または Letter です。印刷時には、同じサイズの用紙を縦送りと横送り、別々の給紙カセットにセットします。給紙元には手差しトレイを使用することもできます。

回転ソートを行うには、ハードディスクの装着または RAM ディスクの設定が必要です。ハードディスクの設定方法については、**オプション機器の追加**を参照してください。

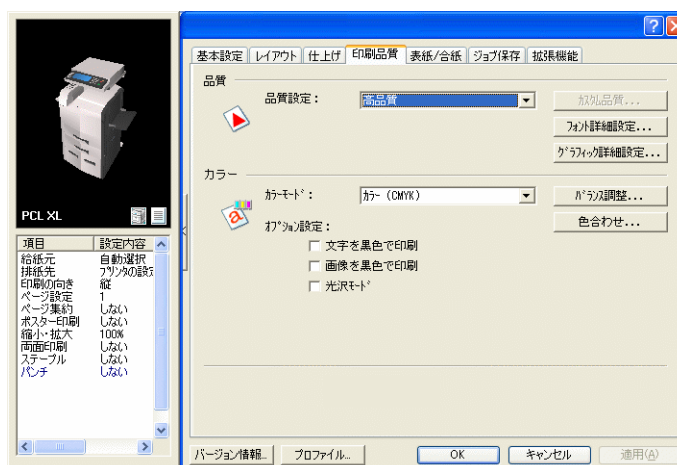
回転ソートの使いかた

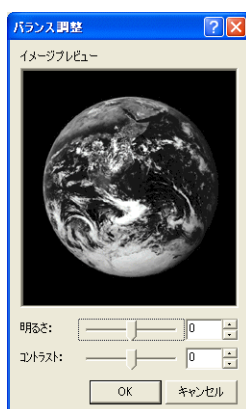
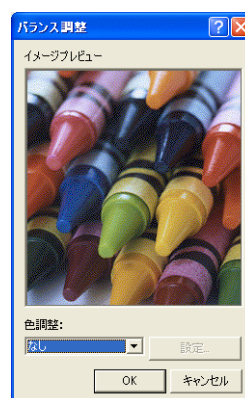
回転ソートは、次の手順で行います。

1 **基本設定**タブをクリックし、**排紙先**で**上トレイ（フェイスダウン）**を選択します。

2 **ページ設定**の**部数**に出力部数を入力します。出力する文書の全ページ数は、トレイの収納できる枚数以下であることが必要です。

3 **仕上げ**タブをクリックし、**仕分け**チェックボックスにチェックを入れます。**仕分け方法**で、自動的に**回転ソート**が選択されています。

4 OK ボタンをクリックして**印刷設定**ダイアログボックスを終了し、印刷を開始します。文書が 1 部ごとに縦と横に排紙されます。

印刷品質

この節では、**印刷品質**タブについて、次の項目を説明します。

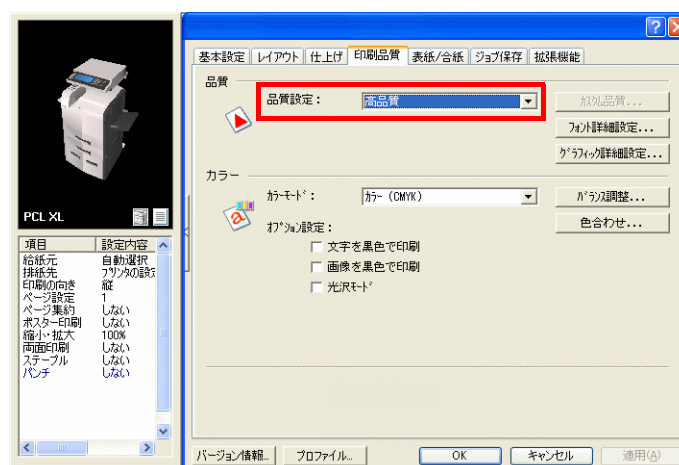
- 品質
- グレイスケール
- カラー

モノクロプリントシステムでは、**印刷品質**、**グレイスケール調整**、**フォント詳細設定**、**グラフィックス詳細設定**が行えます。

カラープリントシステムでは、**印刷品質**、**フォント詳細設定**、**グラフィックス詳細設定**の他、さらに**カラー**ダイアログボックスでの**色調整**が行えます。

モノクロプリントシステム

カラープリントシステム

品質

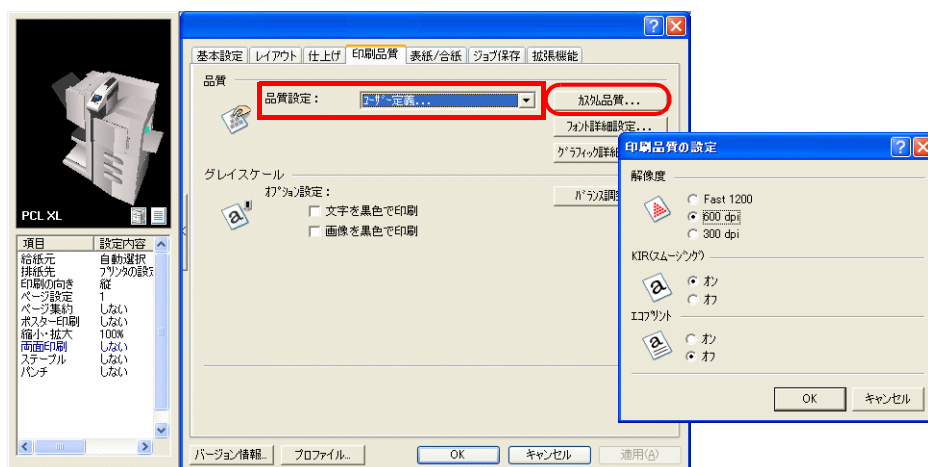
印刷に使用する解像度や、エコプリントの設定を行います。

解像度とは、1 インチあたりのドット数を表し、高い解像度ほど美しい印刷ができます。

1 **品質設定**ドロップダウンリストから、印刷品質を選択します。

選択できる項目は次の通りです。

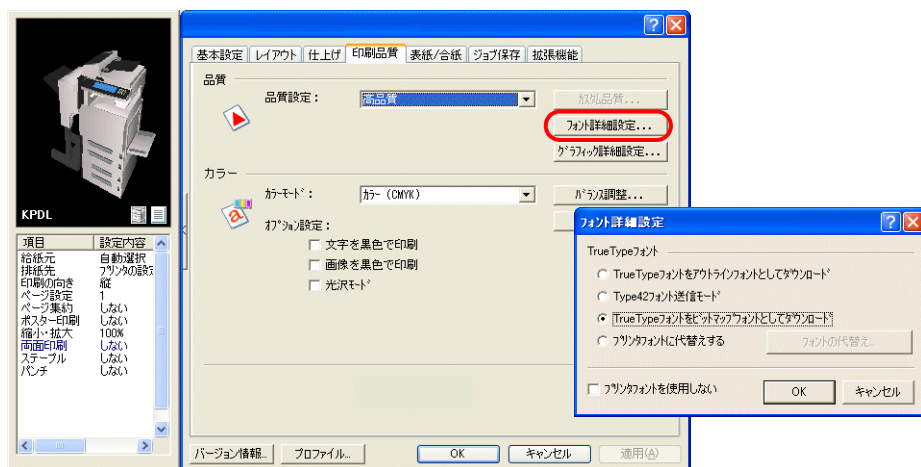
印刷品質	内容
高品質	プリントシステムの最高解像度で印刷を行います。機種により次の**標準**解像度と同じになる場合があります。
標準（モノクロプリントシステムのみ）	最高解像度の次に高い解像度で、印刷を行います。
エコプリント（モノクロプリントシステムのみ）	600dpi の解像度で、エコプリントモードでの印刷を行います。エコプリントは、トナー消費量をおさえて印刷する機能です。印刷結果は、**標準**解像度に比べ薄くなります。
ユーザー定義	**解像度**、KIR および**エコプリント**を任意に組み合わせて、ユーザー定義を行うことができます。詳細は、次の説明を参照してください。

カスタム品質

品質設定で**ユーザー定義**を選択し、**カスタム品質**ボタンをクリックすると、**印刷品質の設定**ダイアログボックスが表示されます。次表を参考に、**解像度**および、KIR、**エコプリント**を任意に組み合わせ、設定を行ってください。

ユーザー定義の設定項目	内容
解像度（モノクロプリントシステムのみ）	Fine1200、Fast1200、600dpi および 300dpi の解像度を選択します。選択できる解像度は、機種によって異なります。
KIR（スムージング）	テキストおよびベクトルグラフィックの輪郭を滑らかにします。カラープリントシステムでは、白黒モード時にのみ設定が可能です。
エコプリント	エコプリントモードで印刷を行います。機種により、オフ、75% および 50% の印刷濃度の選択ができます。

フォント詳細設定

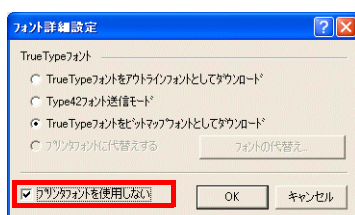
印刷時における、TrueType フォントのプリントシステムへの送信方法を選択します。

1 **フォント詳細設定**ボタンをクリックします。**フォント詳細設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 TrueType フォントの送信方法を、次の 4 つから選択します。

- TrueType フォントをアウトラインフォントとしてダウンロード
  多数の異なるフォントやフォントサイズが使われている場合に、フォントをアウトラインフォントとしてプリントシステムに送ります。スプールサイズは小さくなります。プリンタフォントを使用しない機能も併用できます。
- Type42 フォント送信モード
  テキストの印刷品質を改良し、印字速度を上げるために TureType42 フォントに変換されます。この機能は、PDL が KPDL の時に選択することができます。
- TrueType フォントをビットマップフォントとしてダウンロード
  フォントやフォントサイズの数が少ない場合に、フォントをプリンタドライバでビットマップ化してプリントシステムに送ります。スプールサイズは大きくなります。プリンタフォントを使用しない機能も併用できます。
- **プリンタフォントに代替する**
  印刷ジョブにプリンタでサポートされていないフォントが含まれているなど、ドキュメントの変更なしでフォント代替ができます。プリンタドライバからはフォントを送信せずに、プリンタ内蔵のフォントを使用して印刷を行います。

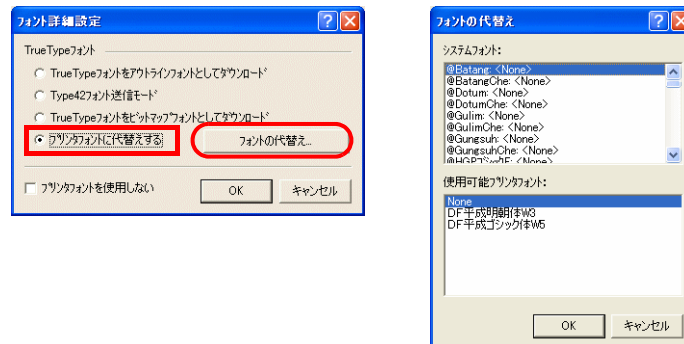
プリンタフォントを使用しない

TrueType フォントを、アウトラインフォントあるいはビットマップフォントとしてプリントシステムに送信するよう選択した場合でも、基本的なフォントはプリントシステム内蔵のフォントと置換えられることがあります。

TureType フォントを、プリントシステム内蔵のフォントと代替えしないようにするには、**プリンタフォントを使用しない**チェックボックスにチェックを入れます。

プリンタフォントに代替する

印刷ジョブ内のフォント指定と、プリントシステム側のフォントとの代替えが行えます。

参考：ここで説明する代替えするフォントの指定は、アプリケーションの印刷メニューから起動したプロパティダイアログボックスでは設定できません。Windows のスタートメニューからプリンタと FAX ウィンドウを開き、対象機の右クリックメニューから印刷設定をクリックして表示されるダイアログボックスから設定してください。

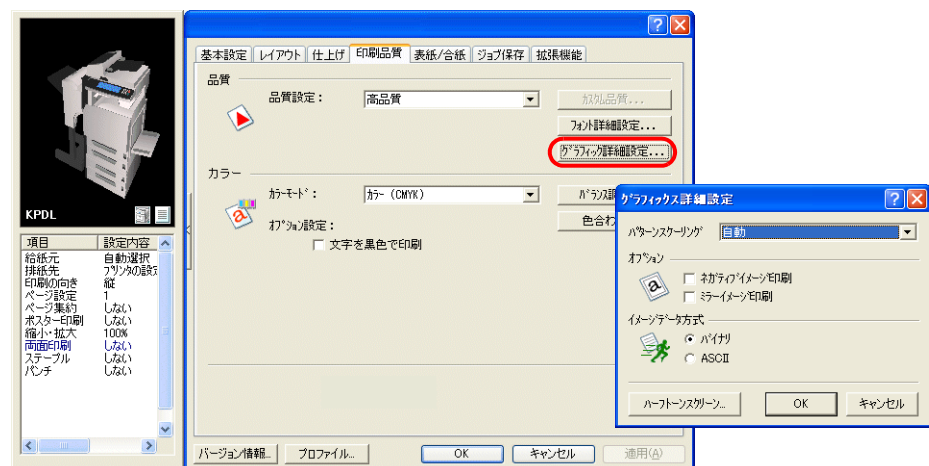
プリンタフォントに代替するをクリックして、**フォントの代替**ボタンをクリックします。**フォントの代替**ダイアログボックスが表示されます。

フォントの代替ダイアログボックスにある**システムフォント**には、PC 側にインストールされているフォントが表示されます。一方、**使用可能プリンタフォント**には、プリントシステム内蔵のフォントが表示されます。

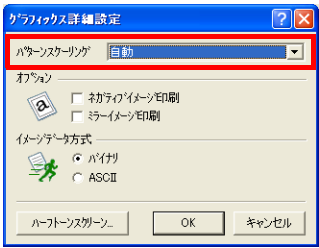
システムフォント側のフォントに対して、代替えしたいフォントを**使用可能プリンタフォント**の中から選択し、OK ボタンをクリックして設定してください。

3 OK ボタンをクリックして、**フォント詳細設定**を保存します。

グラフィックス詳細設定

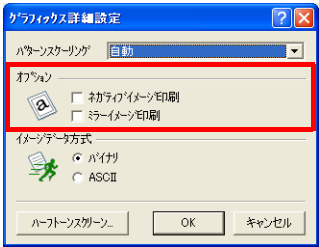
グラフィックイメージの送信方法などを設定します。

1 **グラフィックス詳細設定**ボタンをクリックします、**グラフィックス詳細設定**ダイアログボックスが表示されます。

パターンスケーリング

画面表示と印刷結果が異なる場合、パターンの調整を行えます。次の項目より選択します。

項目	説明
自動	画面表示や WYSIWYG 互換の印刷プレビューに最も近いパターンで印刷します。
粗い	大きいドットのパターンで印刷します。PDL の設定が PCL-XL、PXL-5e、PCL-5c の場合は、**自動**と同じパターンです。
中間	**精細**と**粗い**の中間のドットパターンで印刷します。PDL の設定が KPDL の場合は、**自動**と同じパターンです。
精細	細かいドットのパターンで印刷します。印刷結果は画面表示より濃くなる場合があります。

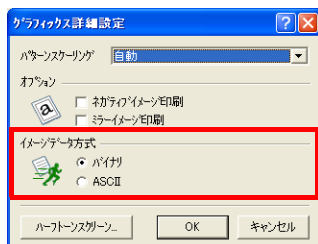
オプション

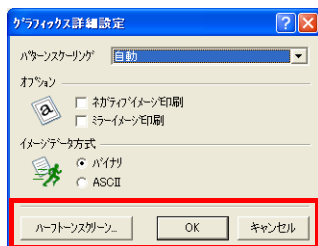
印刷イメージのオプションを設定します。次の項目より選択します。

参考：この機能は、PDL の設定が KPDL の場合に使用できます。

項目	内容
ネガティブイメージ印刷	白と黒を反転して印刷します。
ミラーイメージ印刷	左右を逆にして、ページを鏡対称にして印刷します。

項目にチェックを入れると、アイコンイメージが変わります。

イメージデータ方式

イメージデータ方式でイメージの送信方法を設定します。次の項目より選択します。

イメージデータ方式	内容
バイナリ	イメージデータをバイナリ形式で送信します。スプールデータ量を削減し、印刷速度を向上することができます。通常はこちらを使用します。
ASCII	イメージデータを ASCII 形式（7 ビット）で送信します。

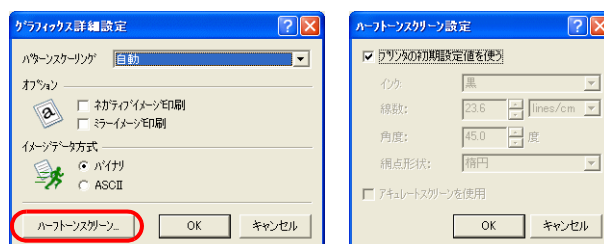
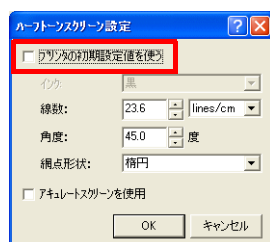
CIE オプション

CIE 最適化は、通常の CIE 処理を簡略化し、PostScript ドキュメントなどの印刷速度を向上させます。ただし、実際に印刷されるイメージと画面上に表示されるイメージが異なる場合があります。

この機能は、Adobe Acrobat や Adobe Photoshop など、CIE に対応したアプリケーションソフトからの印刷に対応します。CIE に対応していないアプリケーションソフトからの印刷には影響しません。

PDL の設定が KPDL の場合に、この機能を使用できます。

ハーフトーンスクリーンの設定

ドットの線数、角度、網点形状を変化させて調整する、ディザリング処理を行うことができます。白黒プリントシステムで、かつ PDL の設定が KPDL の場合に、この機能を使用できます。

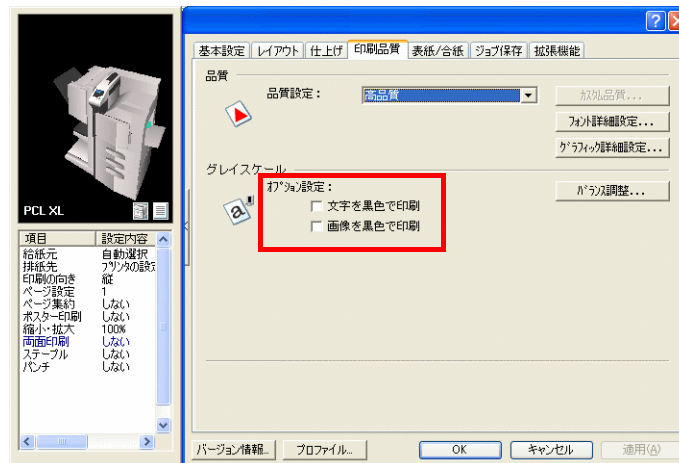
1 **グラフィック詳細設定**ダイアログボックスの**ハーフトーンスクリーン**ボタンをクリックします。**ハーフトーンスクリーン設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 **プリンタの初期設定を使う**チェックボックスのチェックをはずして、各項目の設定を行います。次の表を参照して設定します。

設定項目	内容
線数	ハーフトーンドットの線数の数値と単位を設定します。単位は lines/cm または lines/inch です。**線数**のスピンボックスへ値を入力し、その横のドロップダウンリストから単位を選択します。
角度	ハーフトーンドットの角度を設定します。設定範囲は 0.0 度から 180.0 度です。**角度**のスピンボックスへ角度の値を入力します。
網点形状	ハーフトーンドットの形状を設定します。選択可能な形状は**楕円**、**円**、**ライン**です。**網点形状**ドロップダウンリストから選択します。
アキュレートスクリーンを使用	的確な線数と角度にするため、設定した値の微調整をします。**アキュレートスクリーンを使用**チェックボックスにチェックを入れます。

3 OK ボタンをクリックして、ハーフトーンスクリーン設定を保存します。

グレイスケール

白黒印刷の各種設定を行います。

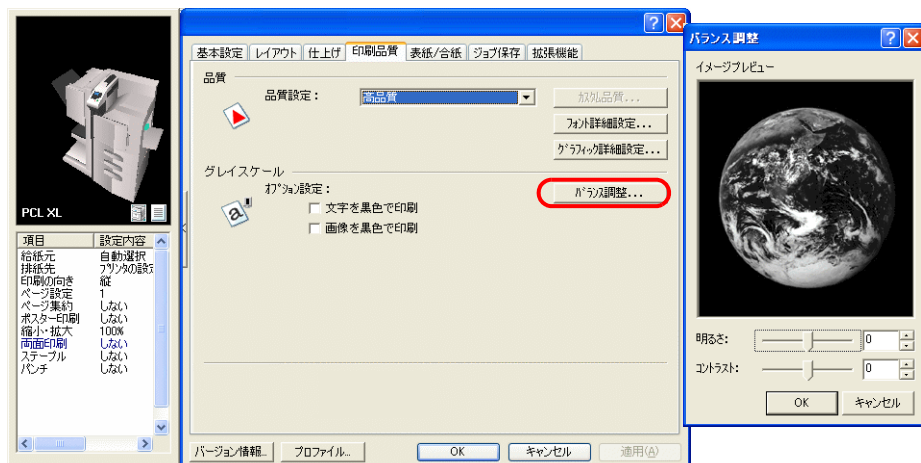
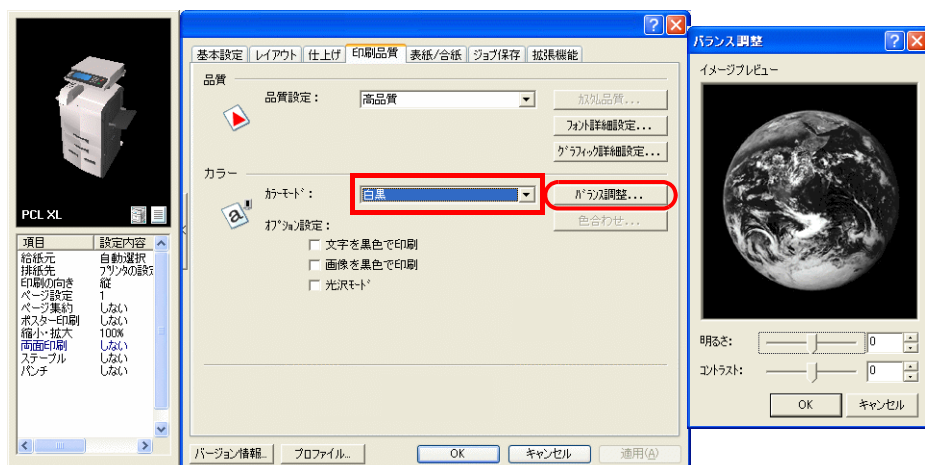
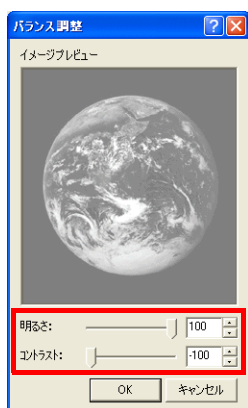
オプション設定

グレイスケールの各効果を設定できます。次の表を参照して設定を行います。

オプション	内容
文字を黒色で印刷	色文字やグレー文字などを印刷する場合、通常カラーやグレーで印刷される文字が、階調（グレイスケール）を使わずに、黒色（スミベタ）で印刷されます。 白色のテキストや色付きのイメージ、グラフィックへの影響はありません。
画像を黒色で印刷	有色のグラフィックスやテキストが、階調（グレイスケール）を使わずに、黒色（スミベタ）で印刷されます。イメージや写真（bmp/jpg/psd/tif）は影響を受けません。 この機能は、CAD アプリケーションのみ有効です。

4 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

バランス調整

白黒プリントシステムにおいて、グレイスケールの**明るさ**と**コントラスト**を調整できます。カラープリントシステムにおいても、白黒印刷設定時はグレイスケールの調整が可能です。

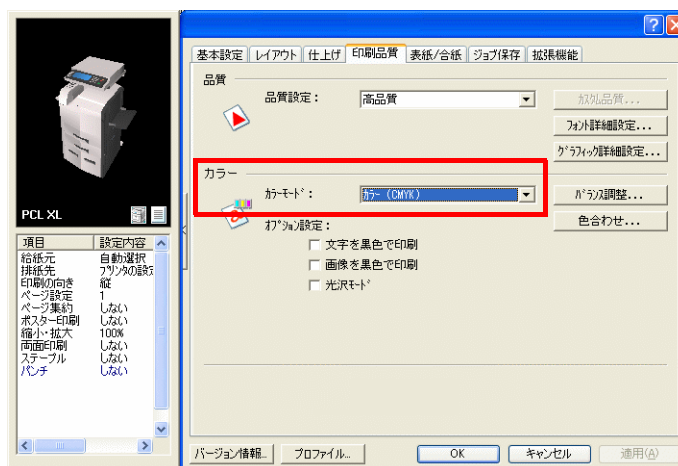
1 **バランス調整**ボタンをクリックします。**バランス調整**ダイアログボックスが表示されます。

カラープリントシステムの場合は、**カラーモード**を**白黒**に設定して、**バランス調整**ボタンをクリックします。**バランス調整**ダイアログボックスが表示されます。

グレイスケール調整の項目の、**明るさ**と**コントラスト**のスライダを水平にドラッグしてください。もしくは、右のスピンボックスに数値を指定することでも調節できます。左方向が、より明るく、コントラストが強くなります。変更すると値にしたがってプレビュー画面が変化し、設定内容を確認できます。

グレイスケール調整	説明
明るさ	グラフィックイメージの明るさを調整します。-100 で最も暗くなり、+100 で最も明るくなります。0 で通常の明るさです。
コントラスト	グラフィックイメージのコントラスト（明暗の対比）を調整します。-100 で最もコントラストが弱くなり、+100 で最も強くなります。0 で通常のコントラストです。

カラー

カラー印刷の各種設定を行います。

カラーモード

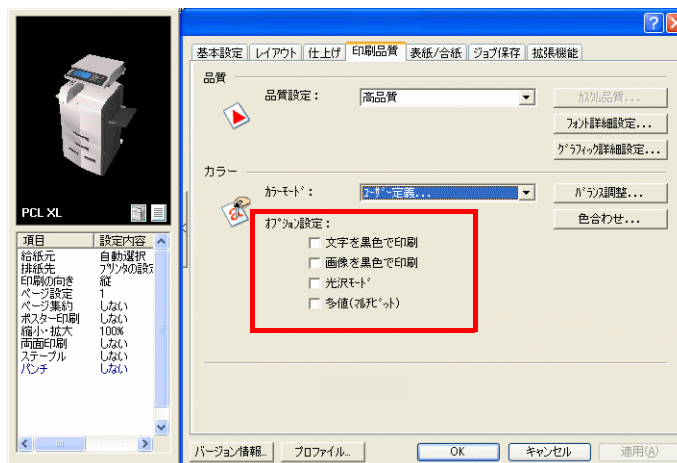
カラー印刷と**白黒**印刷を切替えることができます。**ユーザー定義**を使用すると、**多値**、**光沢モード**などのオプションを選択できます。

1 **カラーモード**を設定します。**カラーモード**ドロップダウンリストから、次の項目を選択します。

カラーモード	内容
カラー（CMYK）	4 色のトナーを使用して、テキストやグラフィックをカラー印刷します。
白黒	黒トナーのみを使用して、白黒印刷をします。
ユーザー定義	**オプション設定**からオプションを指定します。

オプション設定

カラーモードドロップダウンリストで**ユーザー定義**を選択すると、次の表の各効果を設定できます。

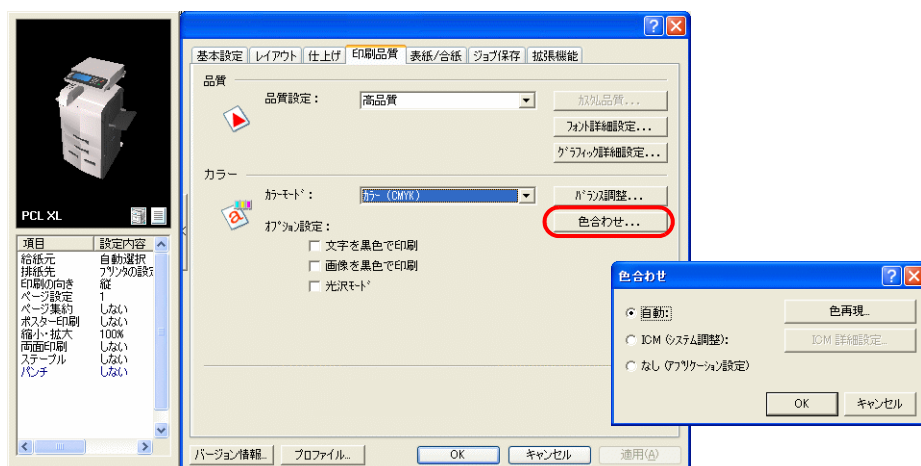
1 **カラーモード**ドロップダウンリストから、**ユーザー定義**を選択します。

2 **多値（マルチビット）**オプションが表示され、選択可能になります。次の表を参照して、設定したい項目にチェックを入れます。

カラーモードの設定項目	内容
文字を黒色で印刷	色文字やグレー文字などを印刷する場合、通常カラーやグレーで印刷される文字が、階調（グレイスケール）を使わずに、黒色（スミベタ）で印刷されます。 白色のテキストや色付きのイメージ、グラフィックへの影響はありません。
画像を黒色で印刷	有色のグラフィックスやテキストが、階調（グレイスケール）を使わずに、黒色（スミベタ）で印刷されます。イメージや写真（bmp/jpg/psd/tif）は影響を受けません。 この機能は、CAD アプリケーションのみ有効です。
光沢モード	印刷仕上がりの光沢が増します。機種によっては、両面印刷時に光沢モードを選択できません。
多値（マルチビット）	ピクセルを幅広い階調で表現して印刷します。写真イメージの印刷に適します。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

色合わせ

色合わせとは、デバイス間の色の再現に整合性を持たせるために、カラープリントシステムごとに持つ色空間の差を吸収するものです。印刷時の色調の処理方法を設定できます。

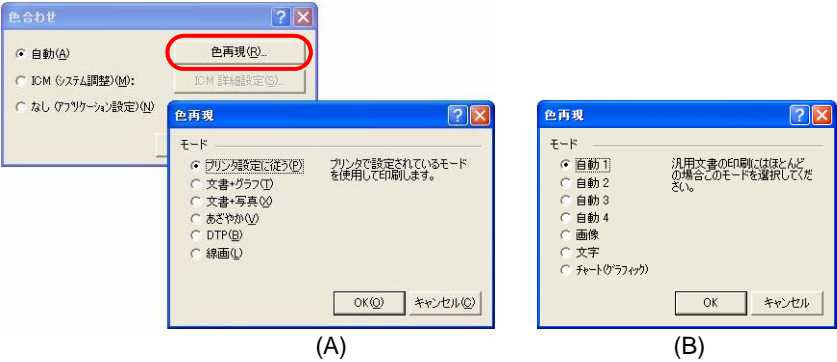
4 **色合わせ**ボタンをクリックします。**色合わせ**ダイアログボックスが表示されます。次の項目から選択できます。

色合わせ項目	内容
自動	デフォルトのカラー設定に基づく色調を自動的に選択します。**自動**に設定すると**色再現**の設定が行えます。詳細は、次の**色再現**を参照してください。
ICM（**システム調整**）	ICM プロファイルを使用して、色合わせを行います。印刷データの内容に応じて、適切な色再現方法を選択できます。詳しい設定方法は、次頁の ICM **詳細設定**を参照してください。
なし（アプリケーション設定）	プリンタドライバでの色合わせは行わず、アプリケーション上での色合わせを再現します。
モニターシミュレーション（RGB）	RGB モードで、モニターに近い色合いを再現します。HDTV 標準に基づいた RGB の色合わせである sRGB（HDTV）が使用できます。
インクシミュレーション（CMYK）	このシミュレーションは、KPDL のみで選択可能です。詳細は、PDL **設定**を参照してください。CMYK インクによる色合わせを選択します。ヨーロッパのオフセット印刷の標準規格に基づく Euroscale Press シミュレーション、またはアメリカのオフセット印刷の標準規格に基づく SWOP Press シミュレーションが選択できます。
色再現	**色合わせ**を**自動**に設定すると、**色再現**設定が可能になります。印刷するドキュメント内のオブジェクトを画像、テキスト、グラフの 3 種に分けて、**色再現**モードを合わせます。モニターに表示される色により近く、より鮮やかに再現することができます。詳しい設定方法は、**色再現**を参照してください。

色再現

印刷するドキュメント内のオブジェクトを画像、テキスト、グラフの 3 種に分けて、**色再現**のモードを合わせます。

色再現のモードについて、次に説明します。

1 **色合わせ**ダイアログボックスの**自動**をクリックして、**色再現**ボタンをクリックします。**色再現**ダイアログボックスが表示されます。**色再現**ダイアログボックスの内容は機種によって異なります。

(A) (B)

2 **モード**の中から 1 つをクリックして選択します。次の項目より選択できます。

(A) のダイアログの場合

モード	内容
プリンタ設定モードに従う	現在プリントシステムで設定されているモードで印刷します。
文書＋グラフ	グラフなどのグラフィックを多く含む文書を印刷する場合に選択します。
文書＋写真	写真を多く含む文書を印刷する場合に選択します。
あざやか	写真やグラフィックの彩度を上げて、あざやかに印刷したい場合に選択します。
DTP	写真やグラフィックが混在する文書を、画面に近い色合いで印刷したい場合に選択します。
線画	線画などの図形を多く含む文書を印刷する場合に選択します。

(B) のダイアログの場合

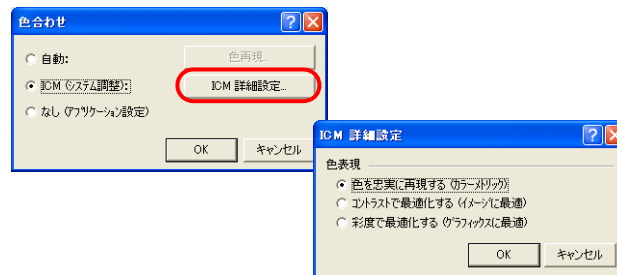
モード	内容
自動 1	標準のモードです。通常はこのモードを使用します。
自動 2	黒で書かれたテキストとグラフを黒トナーのみで印刷します。画像はモニターに表示される色に近い色で印刷され、テキストとグラフは鮮やかな色で印刷されます。
自動 3	黒で書かれたテキストとグラフを 4 色カラートナー（CMYK で印刷します。画像はモニターに表示される色に近い色で印刷され、テキストとグラフは鮮やかな色で印刷されます。
自動 4	画像とグラフはモニターに表示される色に近い色で印刷され、テキストは鮮やかな色で印刷されます。
画像	モニターに表示される色に近い色で画像、テキストおよびグラフを印刷します。写真を印刷するのに最適なモードです。
文字	黒で書かれたオブジェクトはすべて黒トナーで印刷します。すべてのオブジェクトが鮮やかな色で印刷されます。
チャート（グラフィック）	黒で書かれたオブジェクトもすべて 4 色カラートナー（CMYK）で印刷します。すべてのオブジェクトが鮮やかな色で印刷されます。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

ICM 詳細設定

印刷データの内容に応じて、適切な色再現方法を選択できます。

色再現方法の設定について、次に説明します。

1 **色合わせ**ダイアログボックスの ICM（**システム調整**）をクリックして、**ICM 詳細設定**ボタンをクリックします。**ICM 詳細設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 **色表現**の中から 1 つをクリックして選択します。次の項目より選択できます。

色合わせ項目	内容
色を忠実に再現する（カラーメトリック）	全てのプリントジョブに、ロゴのような同じ色が必要な場合などに選択します。
コントラストで最適化する（イメージに最適）	さまざまな色や影が多く含まれているイメージデータやスキャンした写真データなどを印刷する場合に選択します。
彩度で最適化する（グラフィックスに最適）	原色が多く含まれるグラフや図表などを印刷する場合に選択します。

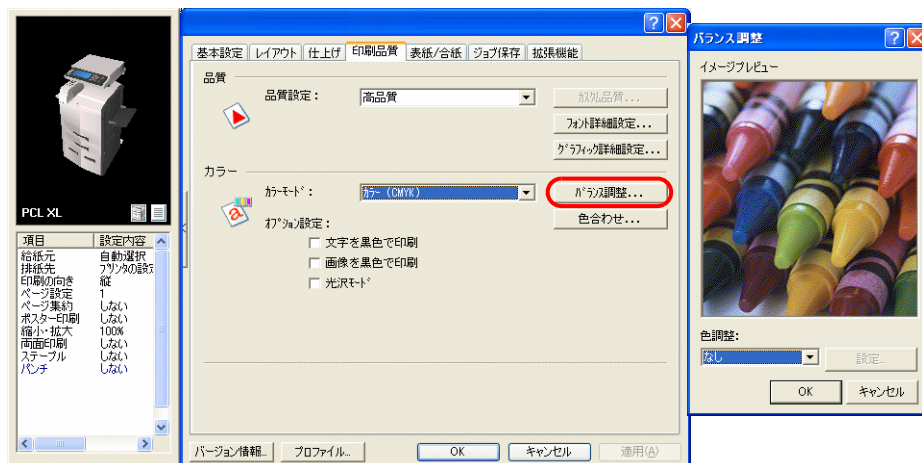
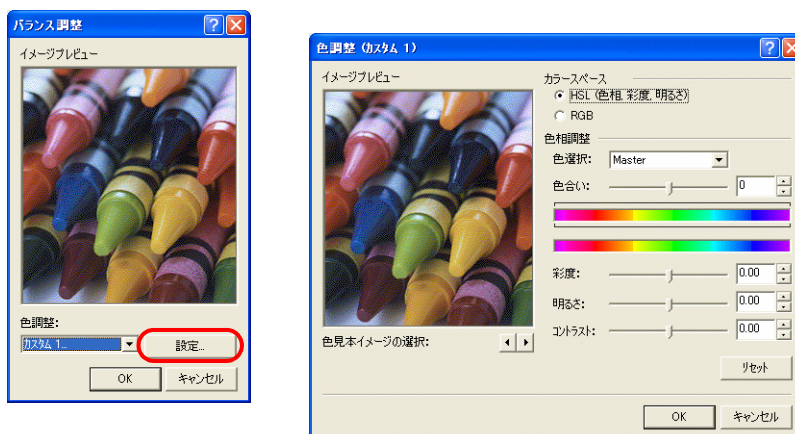
3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

バランス調整

カラーモードでカラー（CMYK）を選択した場合、色調を調整できます。

カラーモードで白黒を選択した場合、グレイスケールの**明るさ**と**コントラスト**を調整できます。白黒印刷の調整方法については、**グレイスケール**の**バランス調整**を参照してください。

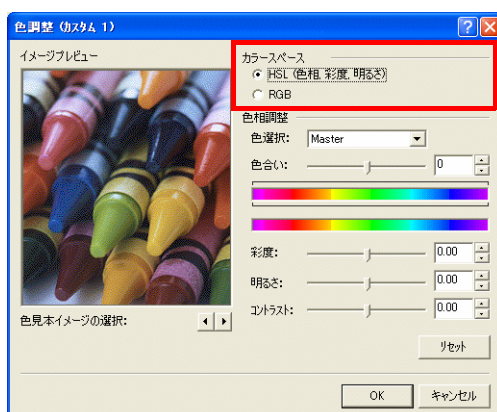
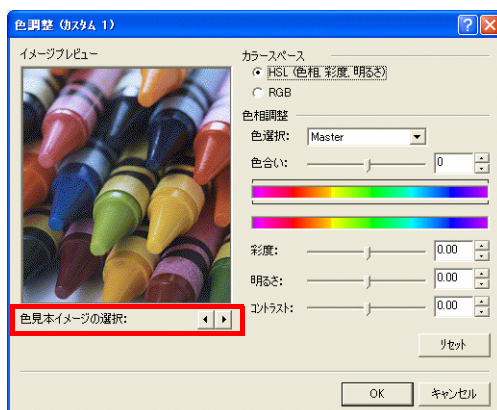
色調整ドロップダウンリストから**カスタム** 1、2、3 のいずれかを選択すると、色調の設定と保存が可能になります。

1 カラーモードでカラー（CMYK）を選択し、**バランス調整**ボタンをクリックします。バランス調整ダイアログが表示されます。

2 **色調整**ドロップダウンリストから**カスタム 1**、**カスタム 2**、**カスタム 3** のいずれかを選択し、**設定**ボタンをクリックします。**色調整**ダイアログボックスが表示されます。

3 カラースペースで、次の項目が選択できます。

カラースペース	内容
HSL（色相、彩度、明るさ）	色相調整（色味）、彩度（あざやかさ）、明るさ（明度）、コントラスト（メリハリ）の調整が可能です。
RGB	赤、緑、青のバランスを調整します。

色調整 - HSL

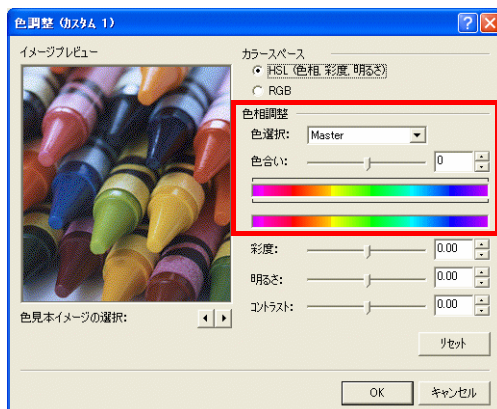
色調整のカラースペースで、HSL（色相、彩度、明るさ）を選択した場合の設定と保存の方法について説明します。

1 **カラースペース**で、**HSL（色相、彩度、明るさ）**を選択します。

2 **色見本イメージの選択**で左右矢印ボタンをクリックして、3 枚あるイメージ写真からいずれかを選択します。

それぞれイメージ写真の強調している色の特徴が異なっていますので、色調整の度合いがわかりやすくなっています。

3 **色相調整**のスライダを操作して、色相のバランスを調整します。

特定の色相を調整する場合は、ドロップダウンリストから**レッド・イエロー・グリーン・シアン・ブルー・マゼンタ**のいずれかを選択します。

ドロップダウンリストから Master を選ぶと、すべての色相を一括で調整できます。-180 から +180 までの値を入力して調整することもできます。

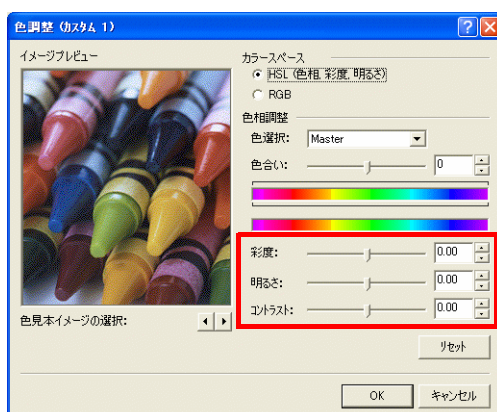
スライダを右へドラッグすると、右隣の色の色相に近くなります。また、左へドラッグすると、左隣の色の色相に近くなります。-10.00 から +10.00 までの値を入力して、調節することもできます。

通常の設定へ戻したい場合は、**リセット**ボタンをクリックします。

4 **彩度、明るさ、コントラスト**のスライダを操作して、色の鮮やかさや明暗、メリハリの調整をします。

彩度、明るさ、コントラストのスライダをドラッグするか、-10.00 から +10.00 までの値を入力して、それぞれバランスを調整します。

彩度は、右へドラッグすると鮮やかになり、左へドラッグすると濁った感じになります。

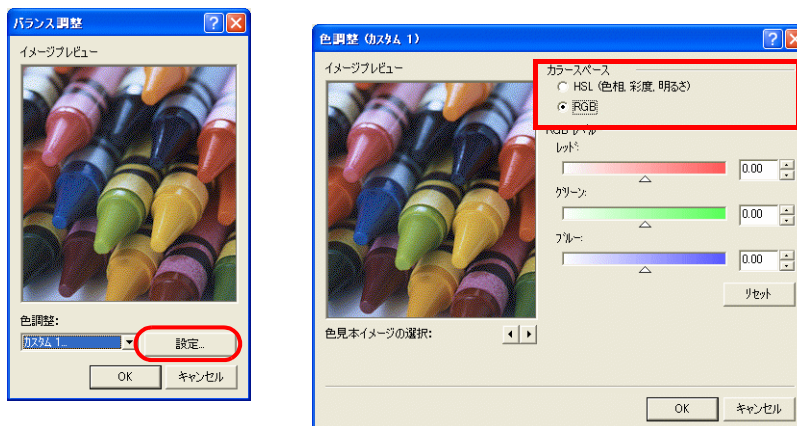
明るさは、右へドラッグすると明るくなり、左へドラッグすると暗くなります。

コントラストは、右へドラッグするとシャープになり、左へドラッグすると、ぼやけた感じになります。

通常設定へ戻したい場合は、**リセット**ボタンをクリックます。

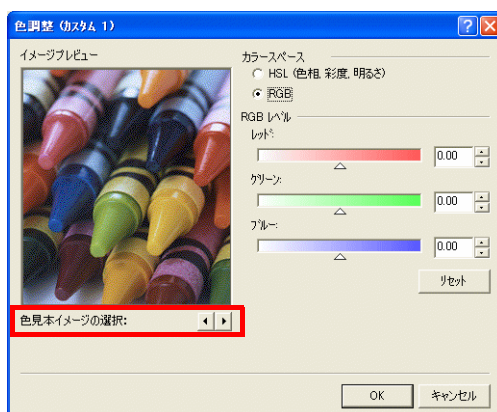
5 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

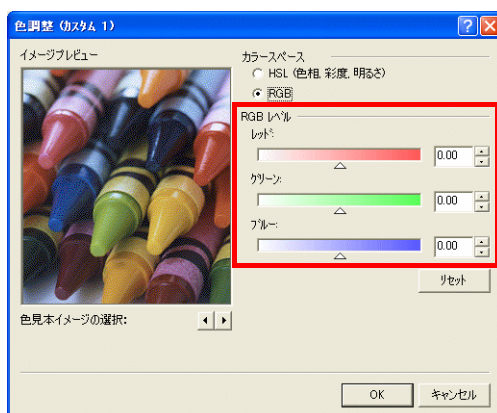
色調整 - RGB

色調整のカラースペースで、RGB を選択した場合の設定と保存の方法について説明します。

1 **カラースペース**で、RGB を選択します。

2 **色見本イメージの選択**で左右矢印ボタンをクリックして、3 枚あるイメージ写真からいずれかを選択します。

それぞれイメージ写真の強調している色の特徴が異なっていますので、色調整の度合いがわかりやすくなっています。

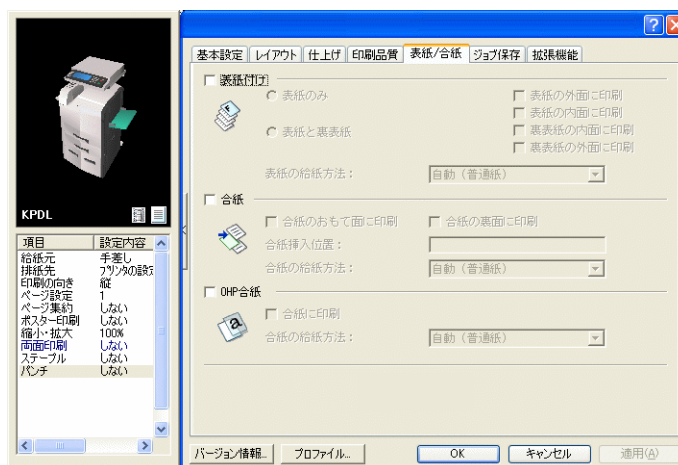
クレヨン	子供	果物
彩度または RGB の調整	肌の色や中間色の調整	色相の調整

3 RGB **レベル**のスライダを操作して、モニターに準じた赤・緑・青のバランスを調整します。

各 RGB のスライダを左右にドラッグするか、値を -10.00 から +10.00 までの値を増減して調節します。

通常の設定へ戻したい場合は、**リセット**ボタンをクリックしてください。

4 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

表紙 / 合紙

この節では、**表紙 / 合紙**タブについて、次の項目を説明します。

- 表紙付け
- 合紙
- OHP 合紙

参考：表紙 / 合紙機能で手差しトレイを使用する場合は、カセットモード（初期設定）で使用してください。詳細は、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

表紙付け

本文ページとは別の厚手の用紙やカラー紙などを使い、表紙、または表紙と裏表紙の両方を印刷することができます。追加した表紙に印刷することも可能です。

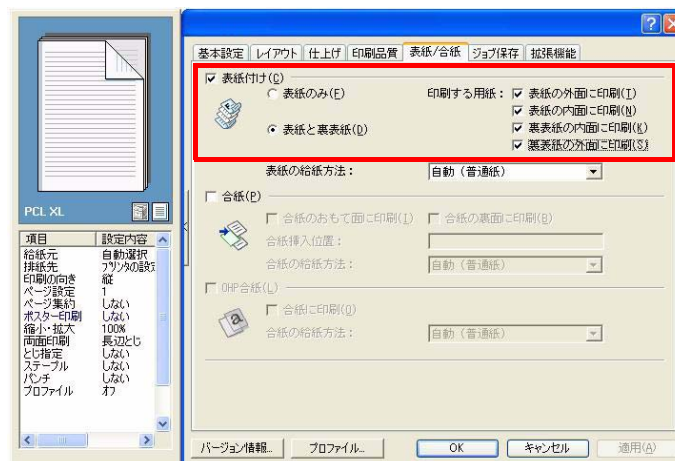
両面印刷ユニットを装着すると、表紙の内側および裏表紙の外側に印刷することができます。両面印刷については、**両面印刷**を参照してください。

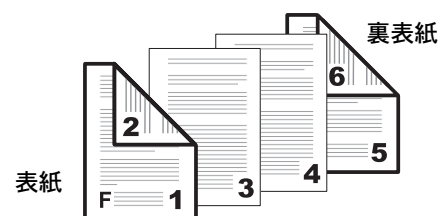
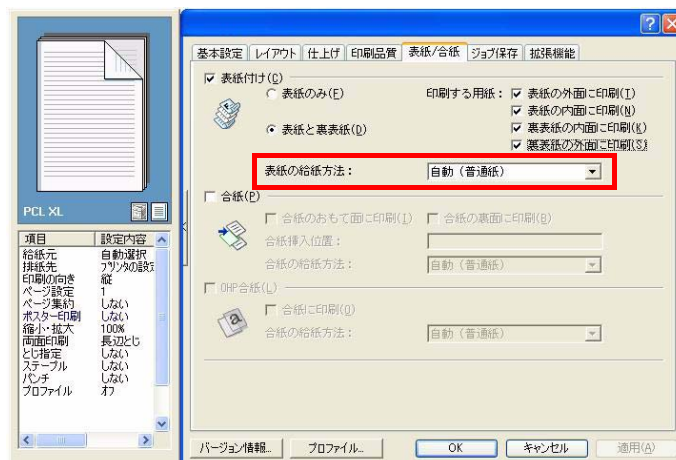
ブックレット印刷での表紙付け印刷も可能です。ブックレット印刷については、**ブックレット印刷**を参照してください。

参考：表紙付け印刷機能は、合紙印刷機能と同時に使用できますが、OHP 合紙印刷機能とは同時に使用することはできません。

表紙付け印刷の使いかた

表紙付け印刷の使いかたについて、次に説明します。

1. **表紙付け**チェックボックスにチェックを入れます。

2. **印刷する用紙**のチェックボックスをチェックすることによって、表紙と裏表紙への印刷を指定できます。次の例は、表紙と裏表紙の両面に印刷を指定した場合の例です。

⦿ 表紙と裏表紙
☑ 表紙の外面に印刷
☑ 表紙の内面に印刷
☑ 裏表紙の内面に印刷
☑ 裏表紙の外面に印刷

3 **表紙の給紙方法**ドロップダウンリストから、表紙と裏表紙の用紙種類または給紙元を選択します。用紙種類を選ぶと、その用紙種類に合った給紙元が自動的に選択されます。

参考：厚紙などの特殊用紙は、必ず手差しトレイから給紙してください。機種によっては、用紙種類選択機能をサポートしていません。

4 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

5 表紙または裏表紙に使用する用紙を、手順 2 で選んだ給紙元へセットしてください。

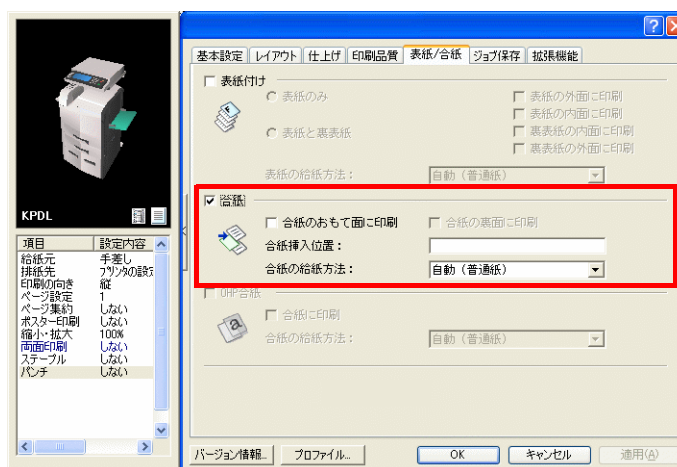
合紙

合紙とは、印刷するページの間に挿入する、異なった種類の用紙のことです。この合紙を指定したページの前に、本文と異なる種類の用紙を差し込んで排紙することができます。また、その用紙に印刷することも可能です。両面印刷ユニットを装着すると、合紙裏面に印刷することもできます。

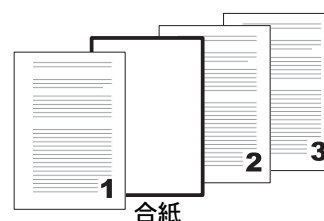
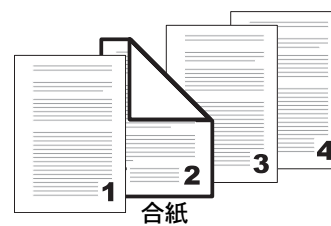
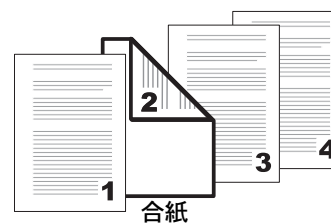
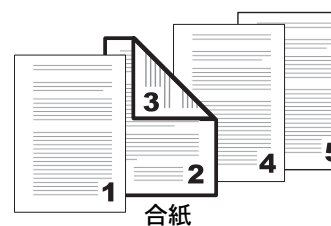
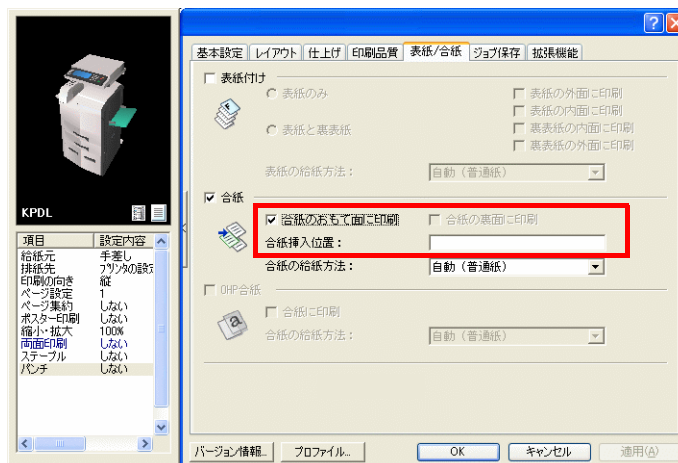
参考：合紙印刷機能は、表紙付け印刷機能と組み合わせて使用できますが、OHP合紙との組み合わせはできません。

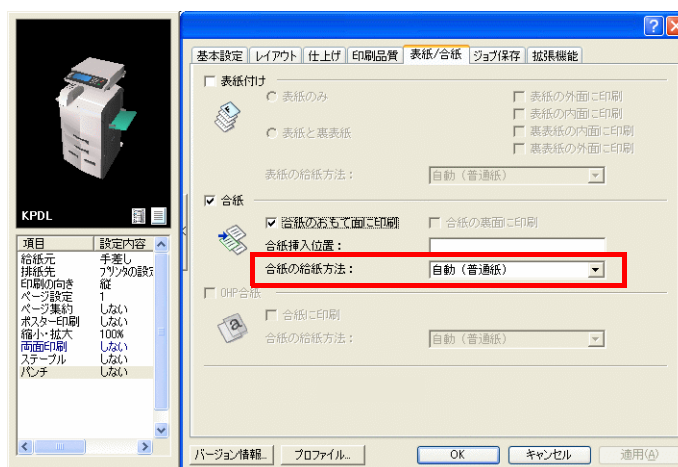
合紙印刷の使いかた

合紙印刷機能の設定について、次に説明します。

1 **合紙**チェックボックスにチェックを入れます。合紙印刷の組み合わせを次の表から選択します。

合紙印刷の組み合わせ

チェックボックス操作	合紙への印刷
☑ 合紙	白紙を合紙する

1 2 3
合紙

チェックボックス操作	合紙への印刷
☑ 合紙 ☑ 合紙のおもて面に印刷	**合紙の外側（表）に印刷する場合**
☑ 合紙 ☑ 合紙の裏面に印刷 両面印刷設定が必要です。	**合紙の内側（裏）に印刷する場合**
☑ 合紙 ☑ 合紙のおもて面に印刷 ☑ 合紙の裏面に印刷 両面印刷設定が必要です。	**合紙の両側に印刷する場合**

2 合紙の表面または裏面に印刷を行う場合は、**合紙のおもて面に印刷**チェックボックスまたは**合紙の裏面に印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

3 合紙を挿入するページ番号を入力します。指定できるページは 2 から 511 ページです。そのページ番号のページとその前のページの間に合紙が挿入されます。
複数のページをカンマ（,）で区切って入力できます。また、ページ番号間にハイフン（-）を入れて、連続したページの間に合紙を挿入することも可能です。たとえば、5、11、12、13 および 18 ページの各ページの前に用紙を挿入するには、「5,11-13,18」と入力します。

4 **合紙の給紙方法**ドロップダウンリストから、合紙の用紙種類または給紙元を選択します。用紙種類を選ぶと、その用紙種類に合った給紙元が自動的に選択されます。

参考：厚紙などの特殊用紙は、必ず手差しトレイから給紙してください。

5 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

6 合紙に使用する用紙を、手順 2 で選んだ給紙元へセットしてください。

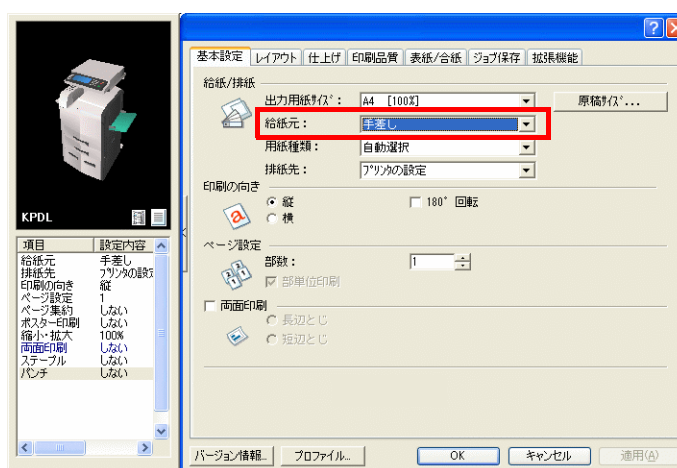
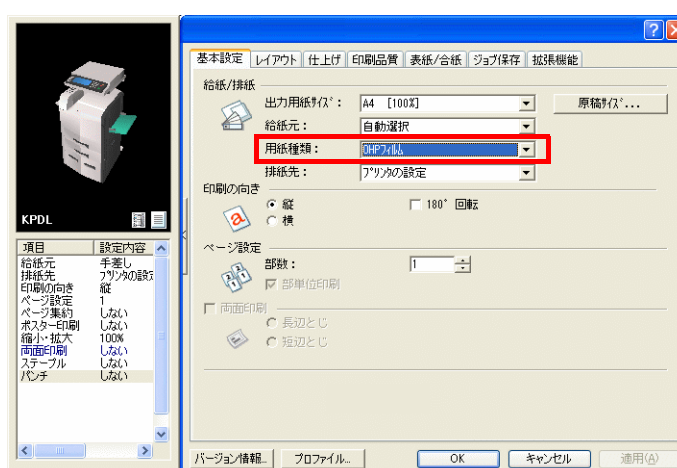
OHP 合紙

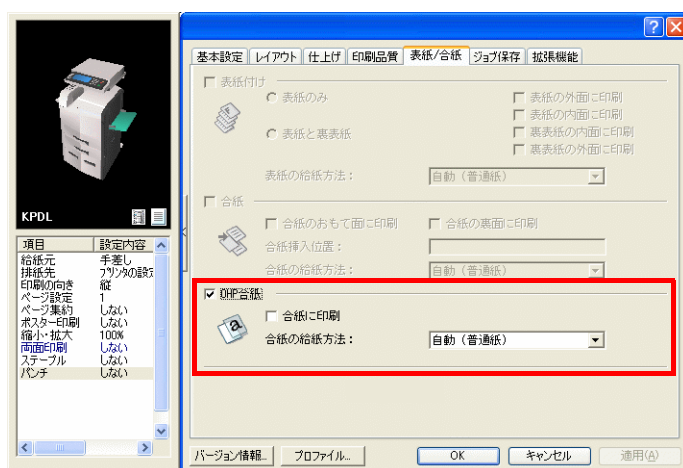
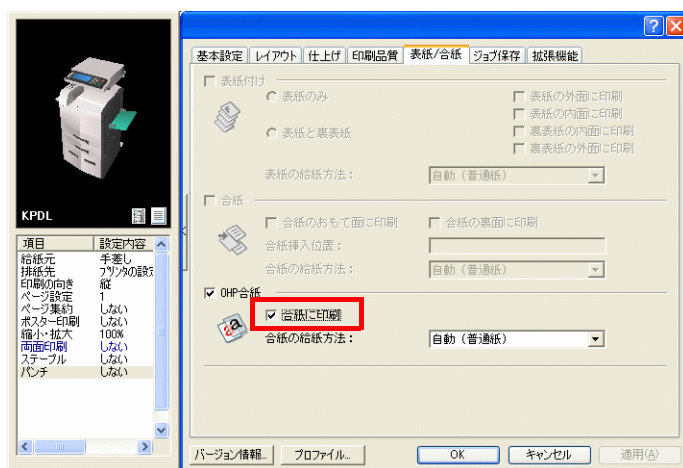
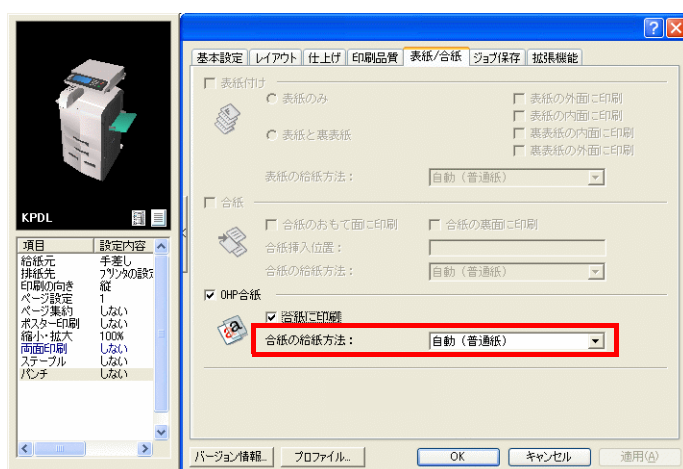
OHP 合紙とは、OHP フィルムの間に挿入され、OHP フィルムに傷がつくことを防ぐ役割をする用紙です。**OHP 合紙印刷**機能は、OHP フィルムに印刷するときに、OHP 合紙を自動で挿入します。OHP フィルム間に挿入する合紙に、OHP フィルムと同じ文書を印刷することもできます。OHP フィルムは、手差しトレイからのみ給紙可能です。

参考：OHP 合紙印刷の機能は、表紙付け機能および合紙印刷機能との組み合わせはできません。

OHP 合紙印刷の使いかた

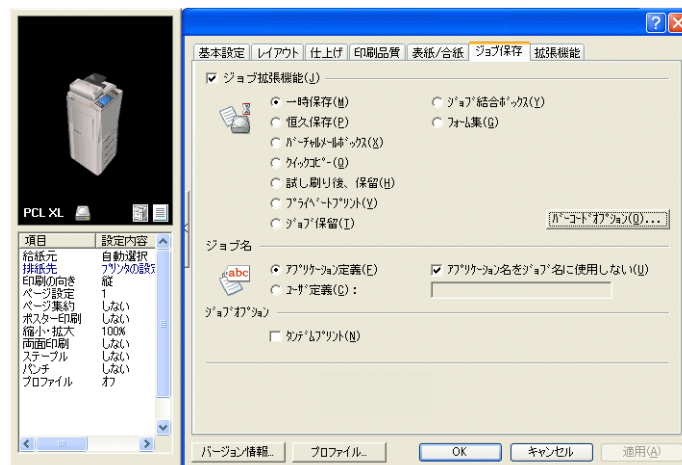
OHP 合紙印刷機能の使いかたについて、次に説明します。

1. **基本設定**タブの**給紙方法**ドロップダウンリストから、**手差しトレイ**を選択します。

2. **用紙種類**ドロップダウンリストから、**OHP フィルム**を選択します。

3. **表紙 / 合紙**タブをクリックします。

4 OHP **合紙**チェックボックスにチェックを入れます。

5 OHP フィルムと同じ文書を合紙にも印刷する場合は、**合紙に印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

6 **合紙の給紙方法**ドロップダウンリストから、合紙の用紙種類または給紙元を選択します。用紙種類を選ぶと、その用紙種類に合った給紙元が自動的に選択されます。

7 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

8 OHP フィルムを手差しトレイへセットしてください。

ジョブ保存

この節では、**ジョブ保存**タブについて説明します。

ジョブ拡張機能

ジョブ拡張機能は、印刷データを保存することにより、次の表に示す各種機能を実現します。プリントシステムには、オプションのハードディスクを装着することが必要です。ハードディスクの装着と設定の方法については、**オプション機器の追加**を参照してください。試し刷り後、保留機能およびプライベートプリント機能は、RAM ディスクでも使用可能です。

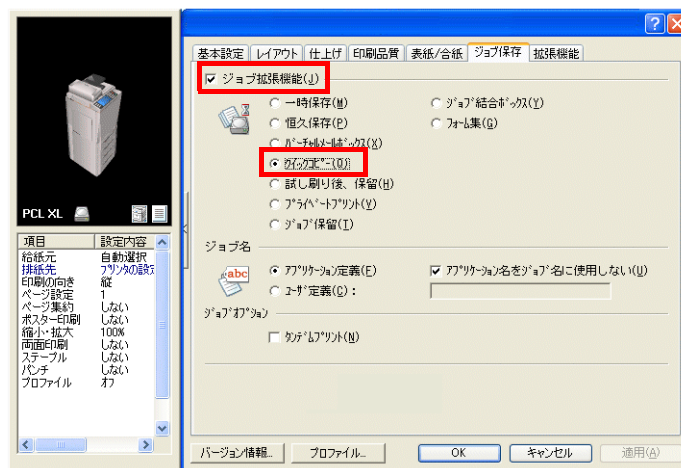
機能	動作	印刷後の文書保持	PIN コードによる保護	標準印刷部数
クイックコピー	最初に印刷を行った後、操作パネルで再印刷を行うことができます。	電源オフ時まで保存	なし	最初の印刷時の設定（変更可能）
試し刷り後、保留	印刷部数が複数の場合、試し刷りとして 1 部のみを印刷して待機します。残りの部数の印刷は、操作パネルから続行できます。	電源オフ時まで保持	なし	最初の設定時－ 1 部（変更可能）
プライベートプリント	印刷操作を行った後で印刷出力はせずに、操作パネルから出力操作を行うまで、印刷を保留します。印刷出力を行うには、アクセスコードの入力が必要です。	印刷後削除	あり	最初の印刷時の設定（変更可能）
ジョブ保留	文書の印刷操作を行った後、明示的に削除するまでその文書を保持します。頻繁に使用する定型フォームなどを、いつでも印刷出力できる機能です。必要部数は、操作パネルから設定できます。	削除するまで保存	選択可能	1

機能	動作	印刷後の文書保持	PIN コードによる保護	標準印刷部数
バーチャルメールボックス（VMB）	印刷操作で保存した後、操作パネルから印刷出力します。	印刷後削除	なし	最初の印刷時の設定
一時保存	印刷操作で保存した後、Network Tool for Clients から印刷出力します。	146 ページからの説明を参照してください。	なし	最初の印刷時の設定
恒久保存	印刷操作で保存した後、操作パネルから印刷出力します。	146 ページからの説明を参照してください。	なし	最初の印刷時の設定
ジョブ結合ボックス	複数の文書を 1 つのジョブとして保存し結合します。スキャンした文書も保存できます。	削除されるまで保存	なし	最初の印刷時の設定
フォーム集	保存された文書を別の文書に重ね合わせます。	削除されるまで保存	なし	最初の印刷時の設定

参考：アプリケーションによっては、アプリケーションの動作が優先される場合があります。

クイックコピー

クイックコピー機能は印刷を行った後から、再度その文書を操作パネルより印刷できる機能です。クイックコピーの使いかたは、次のとおりです。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**クイックコピー**を選択します。

2 保存される文書に文書名をつけます。**ジョブ名**で**アプリケーション定義**を選ぶと、アプリケーションによって自動的に文書名がつけられます。任意の文書名をつけるには、**ジョブ名**で**ユーザ定義**を選択します。入力できる文書名は、半角で最大 79 文字、全角で最大 40 文字です。

Microsoft Word または Power Point の文書についてのみ**アプリケーション定義**（アプリケーション名およびジョブ名を表示）を選ぶと、ジョブリストおよび操作パネルの画面にジョブ名（最大半角 79 文字）のみ表示するように選択できます。

ジョブ名は文書名と同じです。アプリケーション名を削除するには、**ユーザ定義**を選択します。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。

4 アプリケーションから印刷を行います。文書が指定部数だけ印刷され、印刷データがハードディスクに保存されます。

クイックコピー機能で印刷された文書を追加印刷するには、次の項へ進みます。

クイックコピー機能で印刷された文書を追加印刷するには

クイックコピー機能で保存された文書を印刷するには、次の手順で行います。

参考：次の説明内容は、プリンタの操作例です。実際のキー操作方法は、機種によって異なる場合があります。

1 プリントシステム操作部の**メニュー**キーを押します。

2 ▲ または ▼ キーを押して、ディスプレイに「e-MPS >」を表示させます。

3 ▶ キーを押して、サブメニューに入ります。

4 ▲ または ▼ キーを押して、「**> クイックコピージョブ**」を表示させます。

5 **実行**キーを押します。ユーザ名に「?」が点滅をはじめます。

6 ユーザ名が正しければ、**実行**キーを押します。異なる場合は、▼ または ▲ キーを押して、正しいユーザ名を表示させ、**実行**キーを押します。

参考：ここで表示されるユーザ名は、ユーザ情報の登録で設定します。

7 今度はジョブ名が「?」の点滅とともに表示されます。

8 印刷したいジョブ名であれば、**実行**キーを押してください。

異なる場合は、▼ または ▲ キーを押して、正しいジョブ名を表示させ、**実行**キーを押します。

9 ▼ または ▲ キーを押して、印刷部数を決定します。

10 **実行**キーを押すと、クイックコピー印刷の際保存されたジョブが、指定部数だけ印刷されます。

クイックコピー印刷したジョブの消去

クイックコピー印刷の際に保存されたジョブは、プリントシステムの電源が切られるまでハードディスクに保存されています。ジョブを強制的に消去するには次の説明を参照してください。

1 **クイックコピー機能で印刷された文書を追加印刷するには**の、手順 1 ～ 7 までを参照してください。

2 削除したいジョブ名であれば、**実行**キーを押してください。

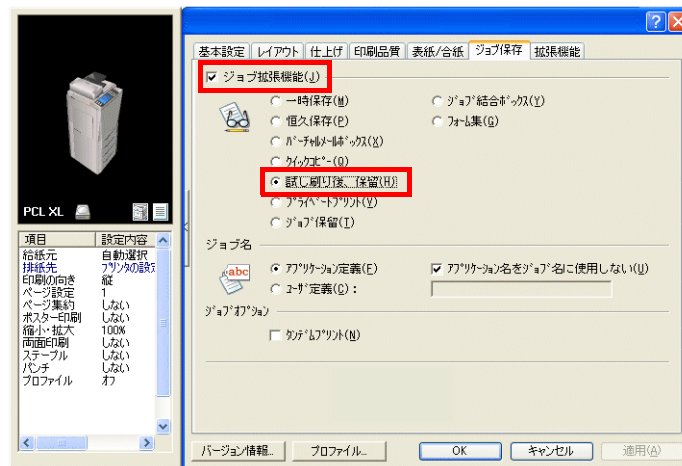
異なる場合は、▲ または ▼ キーを押して、正しいジョブ名を表示させてください。

3 印刷部数メニューが表示されますので、▼ キーを 1 度押して、部数表示が「**サクジョ**」となるようにしてください。

実行キーを押すと、ジョブが削除されます。

試し刷り後、保留

試し刷り後、保留の機能で印刷を行うには、次の手順で行ってください。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**試し刷り後、保留**を選択します。

2 後でプリントシステム操作パネルより、印刷出力を行うときに使用するジョブ名を付けます。

ジョブ名の**アプリケーション定義**を選ぶと、アプリケーションにより自動的にジョブ名が付けられます。

ジョブ名の**ユーザ定義**を選んで、任意のジョブ名を付けることも可能です。ジョブ名は英数半角で、最大 79 文字の文字列を入力できます。

OK ボタンをクリックします。複数部数を指定して印刷を行うと、1 部のみ印刷した後、残りはハードディスクに保存されます。1 部目を確認後、残りの部数を印刷出力するには次項の説明を参照してください。

試し刷り後の残り部数を印刷するには

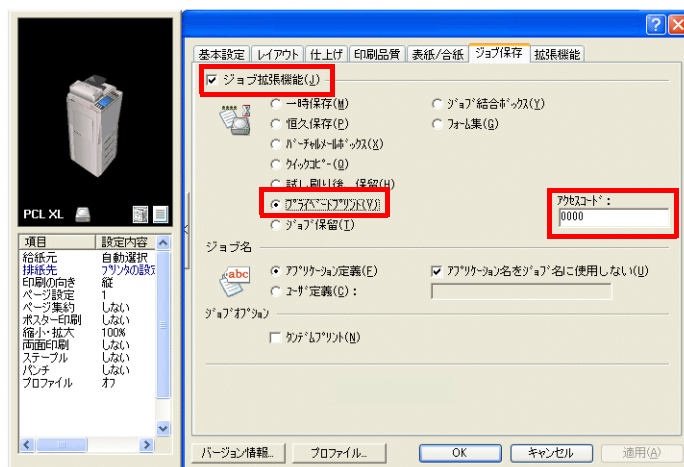
試し刷り後、保留されている残りの部数を印刷する手順は、**クイックコピー機能で印刷された文書を追加印刷するには**、と同様です。**試し刷り後、保留**機能の保留分印刷の場合は、試し刷り分を差し引いた印刷部数が操作パネル上に表示されます。

試し刷り後に印刷されたジョブは、プリントシステムの電源が切られるまでハードディスクに保存されます。ジョブを強制的に消去するには、**クイックコピー印刷したジョブの消去**と、同じ方法で操作部のキー操作を行ってください。

プライベートプリント

プライベートプリントは、ジョブをハードディスクに保存しておき、後で 4 桁のアクセスコードを入力することで印刷出力させる機能です。

保存されたジョブは、印刷出力が終わるとただちにハードディスクから消去されます。本機能で印刷を行うには、次の手順で行ってください。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**プライベートプリント**を選択します。

2 **アクセスコード**に、0 から 9 の任意の 4 けたの数字を入力します。アクセスコードは、保存されているジョブを印刷出力するときに、プリントシステムの操作パネルに入力します。

3 後でプリントシステム操作パネルより、印刷出力を行うときに使用するジョブ名を付けます。

ジョブ名の**アプリケーション定義**を選ぶと、アプリケーションにより自動的にジョブ名が付けられます。

ジョブ名の**ユーザ定義**を選んで、任意のジョブ名を付けることも可能です。ジョブ名は英数半角で、最大 31 文字の文字列を入力できます。

OK ボタンをクリックしてアプリケーション画面まで戻り、印刷操作をしても、ジョブはハードディスクに保存されるのみで、印刷出力は行われません。

プライベートプリントされたジョブを印刷出力するには、次項の手順で行ってください。

プライベートプリントされたジョブの印刷出力

プライベートプリントで保存されているジョブの印刷出力の方法について、説明します。

参考：次のキー操作の説明内容は、機種によって異なる場合があります。

---

1 プリントシステム操作部の**メニュー**キーを押します。

2 ▲ または ▼ キーを押して、ディスプレイに「e-MPS >」を表示させます。

3 ▶ キーを押して、サブメニューに入ります。

4 ▲ または ▼ キーを押して、「**> コジン / ホゾンジョブ**」を表示させます。

5 **実行**キーを押すと、ユーザ名に「?」が点滅をはじめます。

6 ユーザ名が正しければ、**実行**キーを押します。異なる場合は、▼ または ▲ キーを押して、正しいユーザ名を表示させ、**実行**キーを押します。

参考：表示されたユーザ名を確認してください。ここで表示されるユーザ名は、ユーザ情報の登録での説明で設定されるものです。

7 今度はジョブ名が「?」の点滅とともに表示されます。

8 印刷したいジョブ名であれば、**実行**キーを押してください。

異なる場合は、▼ または ▲ キーを押して、正しいジョブ名を表示させ、**実行**キーを押します。

9 **プライベートプリント**の説明で入力した、4 けたのアクセスコードを入力します。▼ キーを押すと数字が増え、▲ キーを押すと数字が減ります。また、◀ および ▶ キーで、けたを左右に移動します。

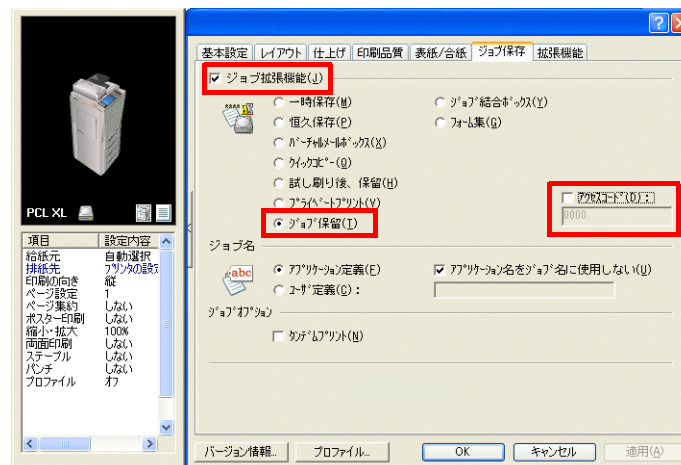
10 **実行**キーを押します。印刷部数を ▼ および ▲ キーで設定します。

実行キーを押すと印刷が開始されます。

印刷後、ジョブはハードディスクから自動的に消去されます。印刷を行う前にジョブを消去したい場合は、**クイックコピー印刷したジョブの消去**を参照して消去してください。

ジョブ保留

ジョブ保留機能は、プライベートプリント同様にジョブをすぐに印刷せずにハードディスクに保存しておき、必要なときに印刷出力する機能です。印刷後やプリントシステムの電源を切った後でも、ジョブは保存されます。また、アクセスコードによって、帳票などの印刷を制限することも可能です。設定方法を次に説明します。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**ジョブ保留**を選択します。

2 **アクセスコード**に、0 から 9 の任意の 4 けたの数字を入力します。この値は、保存されているジョブを印刷出力するときに、プリントシステムの操作パネルに入力します。

3 後で、プリントシステム操作パネルより印刷出力を行うときに使用するジョブ名を付けます。帳票などを保存する場合は、その帳票名を付けておくと便利です。

- **ジョブ名のアプリケーション定義を選ぶと、アプリケーションにより自動的にジョブ名が付けられます。**
- **ジョブ名のユーザ定義を選んで、任意のジョブ名を付けることも可能です。ジョブ名は英数半角で、最大 31 文字の文字列を入力できます。**

4 OK ボタンをクリックします。印刷を行うと、ジョブはハードディスクに保存されるのみで、印刷出力は行われません。

ジョブ保留モードで保存したジョブの印刷を行うには

保存した帳票などを印刷出力するには、**プライベートプリントされたジョブの印刷出力**の説明と同様の方法で行います。

保存されたジョブは、プリントシステムの電源が切られた後も保存されています。強制的に消去したい場合は、**クイックコピー印刷したジョブの消去**を参照してください。**ジョブ保留**の手順で、保存の際にアクセスコードを入力した場合は、消去の際にもアクセスコードの入力が必要です。

バーチャルメールボックス

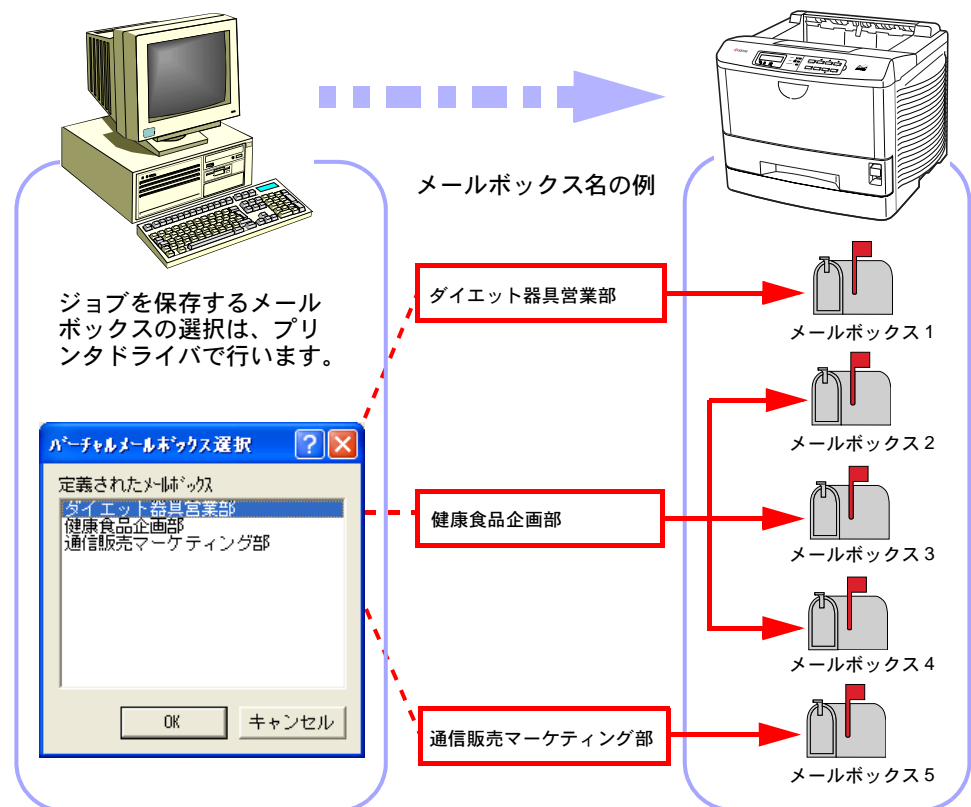
バーチャル（仮想）メールボックスとは、ハードディスク内に仮想的に作成されるメールボックスで、複数ユーザに割り当てて使用します。

バーチャルメールボックスにジョブを保存しておき、後でプリントシステム操作パネルからのキー操作によって、印刷出力を行います。

バーチャルメールボックスに保存されたジョブは、印刷出力が行われると自動的に消去されます。印刷出力されていないジョブは、プリントシステムの電源が切られても、保存されています。

参考：バーチャルメールボックスは、HP PCL 5e または PCL XL、PCL 5c エミュレーションで使用可能です。エミュレーションの設定については、PDL 設定を参照してください。

バーチャルメールボックスを利用する前に、準備としてバーチャルメールボックスを作成します。

バーチャルメールボックスの作成は、メールボックス名とメールボックス番号を指定して行います。詳細は、**バーチャルメールボックスの作成**を参照してください。

複数のメールボックスをグループ化し、単一の名前を付けることも可能です。

複数のメールボックスあるいは、同時にすべてのメールボックスにジョブを保存することもできます。

参考：利用可能なメールボックス数は最大 255 です。メールボックスの総容量は、機種および装着するハードディスクの容量に依存します。機種ごとのバーチャルメールボックス容量は、製品に付属の使用説明書を参照してください。

バーチャルメールボックスの説明を、次のセクションに分けて説明します。

- バーチャルメールボックスの作成
- バーチャルメールボックスリストのエクスポートとインポート
- バーチャルメールボックスへのジョブの保存
- バーチャルメールボックスジョブリストの印刷
- バーチャルメールボックス内のジョブの印刷出力

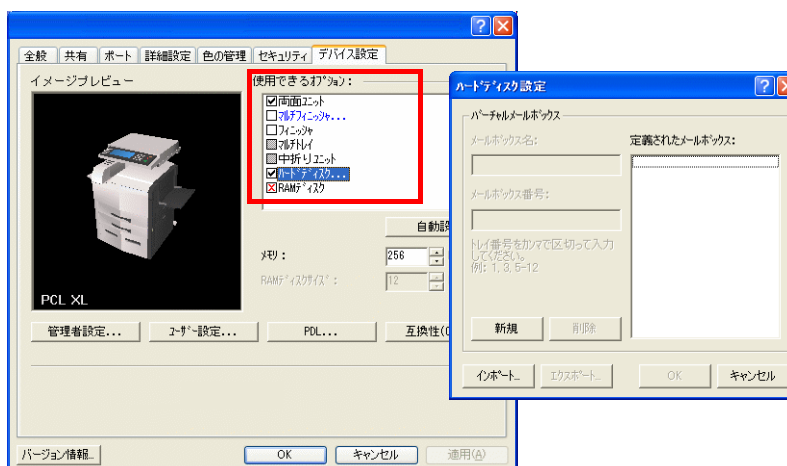
バーチャルメールボックスの作成

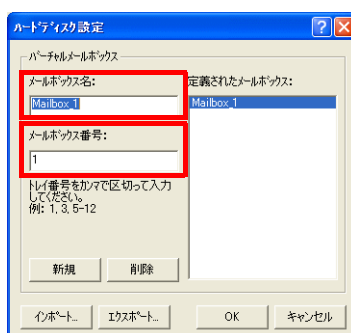
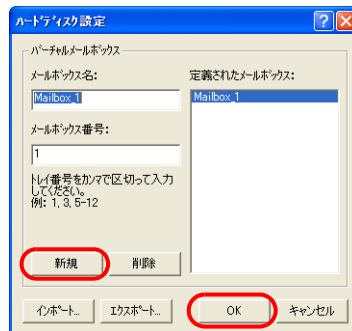
バーチャルメールボックスを作成する方法について説明します。最大 255 まで作成できます。

1 Windows の**スタート**ボタンをクリックし、**プリンタと** FAX をクリックします。**プリンタと** FAX ウィンドウが表示されます。

2 設定を行うプリントシステムのアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから**プロパティ**をクリックします。プリントシステムの**プロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

3 **デバイス設定**タブをクリックします。

4 **ハードディスク**にチェックを入れます。**ハードディスクの設定**ダイアログボックスが表示されます。

5 **新規**ボタンを押して、**メールボックス名**に任意のメールボックス名を入れます。たとえば、そのメールボックスを使用するユーザや部門の名前などを入力します。入力できる名前は、半角で最大 31 文字、全角で最大 15 文字です。

6 **メールボックス番号**に、1 から 255 までの数字を入れます。カンマおよびハイフンで区切って、複数のメールボックスをまとめて入力することもできます。次の例のように、1, 3, 6, 8-12 と入力すると、**メールボックス名**に指定された名前に対して、1, 3, 6, 8, 9, 10, 11, 12 のメールボックスが割り当てられ、同時に印刷ジョブが保存されます。

7 続いて、他のメールボックスを追加する場合は、**新規**ボタンを押して、上記の手順を繰り返します。

8 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

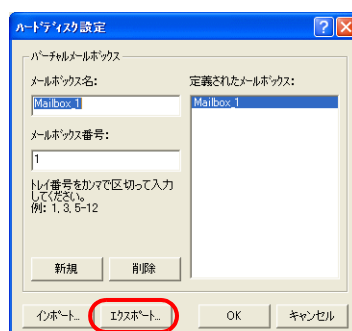
参考：同一のメールボックス番号を使用して、名前の異なるメールボックスを作成することも可能です。この場合、メールボックスが重複することになりますのでご注意ください。

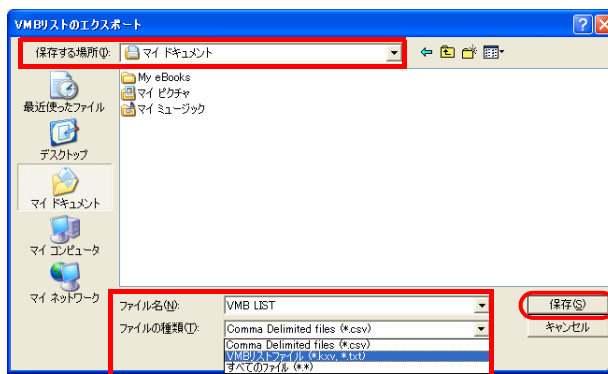
参考：作成されたメールボックスを削除するには、定義されたメールボックスのリストからそのメールボックスを選び、削除ボタンをクリックします。

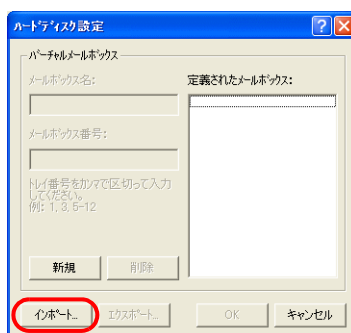
バーチャルメールボックスリストのエクスポートとインポート

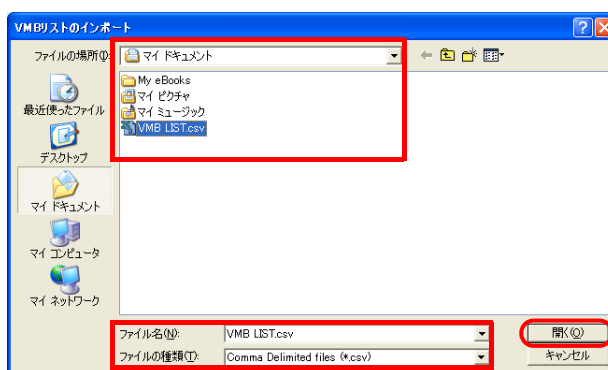
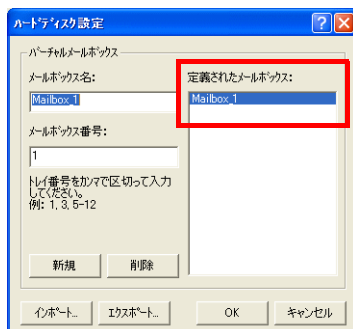
前項にて作成したバーチャルメールボックスのリストをファイルとしてエクスポートすることにより、他の PC で同じバーチャルメールボックスのリストを設定することができます。

リストのエクスポート

1 取り込み元のプリンタドライバから、**ハードディスク設定**ダイアログボックスを表示させ、**エクスポート**ボタンをクリックします。

2 VMB **リストのエクスポート**ダイアログボックスが表示されますので、保存する場所をドロップダウンリストから指定します。

3 **ファイル名**にファイル名を入力し、**ファイルの種類**からファイル形式を選択して**保存**ボタンをクリックして保存します。そのまま**プロパティ**ダイアログボックスを閉じてください。

リストのインポート

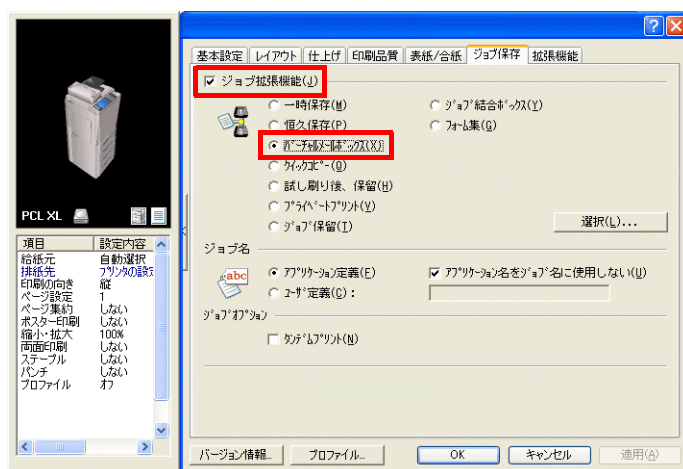
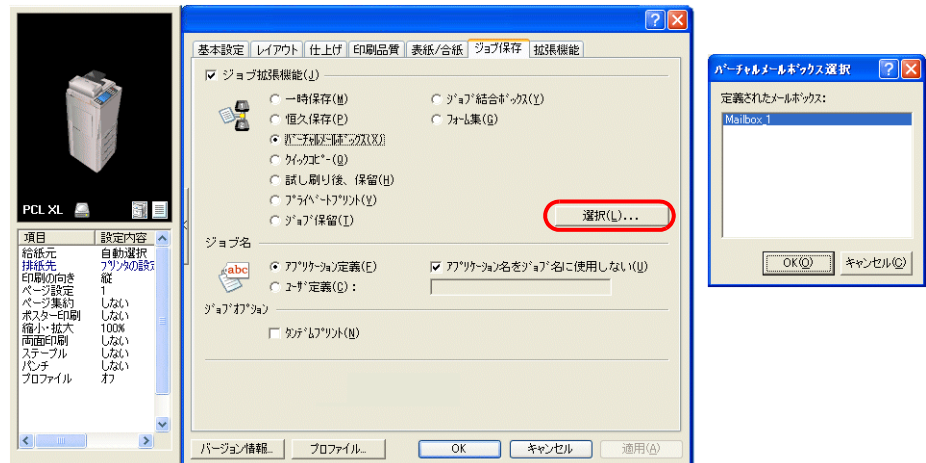
1 取り込み先のプリンタドライバから、**ハードディスク設定**ダイアログボックスを表示させます。
インポートボタンをクリックします。

2 VMB **リストのインポート**ダイアログボックスが表示されますので、取り込みたいバーチャルメールボックスのリストデータを**ファイルの場所**から選択します。

3 **ファイル名**にバーチャルメールボックスのリスト名をクリックして表示させ、**開く**ボタンをクリックします。

4 **定義されたメールボックス**へ、バーチャルメールボックスのリストが取り込まれます。

5 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

バーチャルメールボックスへのジョブの保存

バーチャルメールボックスへジョブを保存する方法について説明します。

バーチャルメールボックスに保存したジョブは、リスト（VIRTUAL MAILBOX LIST）としてプリントシステムより印刷することができます。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**バーチャルメールボックス**を選択します。

2 **選択**ボタンをクリックします。**バーチャルメールボックス選択**ダイアログボックスが表示されます。

3 ジョブを保存するバーチャルメールボックスを選択して、OK ボタンをクリックします。

プロパティダイアログボックスを閉じ、印刷を行ってください。ジョブがハードディスク内のバーチャルメールボックスに保存されます。この時点では、印刷出力は行われません。

- リストを印刷する
  ⇒**バーチャルメールボックスジョブリストの印刷**を参照してください。
- 保存したジョブを印刷出力する
  ⇒**バーチャルメールボックス内のジョブの印刷出力**を参照してください。

バーチャルメールボックスジョブリストの印刷

バーチャルメールボックスに保存された、ジョブのリストを印刷する方法について説明します。リストの印刷は、少なくとも 1 つのバーチャルメールボックス内にすでにジョブが保存されている場合に有効です。

リストの印刷は、プリントシステムの操作パネルから行います。

1 プリントシステム操作部の**メニュー**キーを押します。

2 ▲ または ▼ キーを押して、ディスプレイに「e-MPS >」を表示させます。

3 ▶ キーを押して、サブメニューに入ります。

4 ▲ または ▼ キーを押して、「>VMB **リストノインサツ**」を表示させます。ただし、

すべてのバーチャルメールボックスが空の場合、このメニューは表示されません。

5 **実行**キーを押します。「?」の点滅が表示されます。

6 再度**実行**キーを押します。リストが印刷されます。

ジョブのリストには、バーチャルメールボックスごとに保存されているジョブの数やそのページ数、サイズなどが表示されています。バーチャルメールボックス

番号の左側の「📭」記号は、そのバーチャルメールボックス内にジョブがあることを示します。

バーチャルメールボックス内のジョブリスト

バーチャルメールボックス内のジョブの印刷出力

バーチャルメールボックスに保存された、ジョブの印刷方法について説明します。

ジョブの印刷は、プリントシステムの操作パネルから行います。

1. プリントシステム操作部の**メニュー**キーを押します。
2. ▲ または ▼ キーを押して、ディスプレイに「e-MPS >」を表示させます。
3. ▶ キーを押して、サブメニューに入ります。
4. ▲ または ▼ キーを押して、ディスプレイに次の例のように表示させます。ただし、すべてのバーチャルメールボックスが空の場合、このメニューは表示できません。

   >VMB データノインサツ
   Tray 001:

   Tray 001: は**バーチャルメールボックス** 1 を表します。

5. **実行**キーを押します。「?」の点滅が表示されます。

参考：この時点で ▲ または ▼ キーを押して、他のバーチャルメールボックス（Tray...）を選ぶことができます（他のバーチャルメールボックス内に保存されているジョブがある場合）。

6. そのバーチャルメールボックス内のジョブを印刷するには、**実行**キーを押します。

バーチャルメールボックス内のジョブが、すべて印刷出力されます。一度印刷されたジョブは、バーチャルメールボックス内から自動的に消去されます。

一時保存ジョブと恒久保存ジョブ

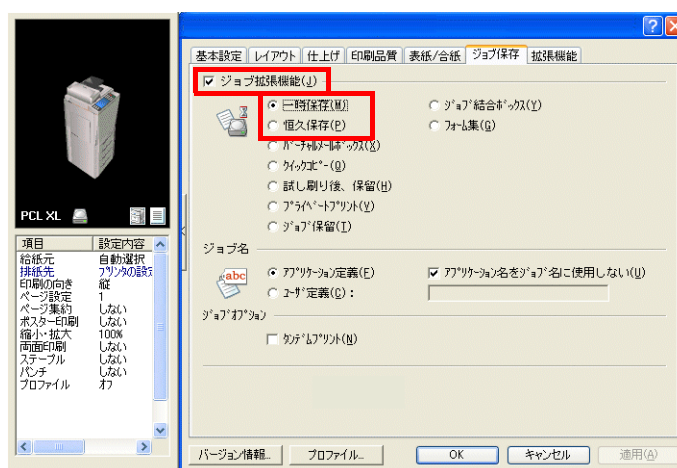
一時保存ジョブと恒久保存ジョブは、ジョブ拡張機能同様に複数部数の印刷時の電子ソートによる高速化を図ることが可能で、次の特長があります。

- ジョブをジョブ ID で内部管理し、保存後にアプリケーション（Network Tool for Clients）で印刷することができます。
- 別売のバーコードリーダを使用して、後で印刷出力できる「**バーコード印刷出力**」に対応しています。
- 両方とも、ハードディスク上の指定容量限界まで保存が可能です。ただし、一時保存ジョブはその容量を超えると自動的に消去されますが、恒久保存ジョブはユーザが消去するまで保存され続けます。

一時保存ジョブまたは恒久保存ジョブの印刷と保存

一時保存ジョブまたは恒久保存ジョブの印刷と、保存の方法について説明します。

参考：プリントシステムにオプションのハードディスクが装着されていることを確認してください。ハードディスクの設定については、オプション機器の追加を参照してください。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**一時保存**または、**恒久保存**を選択します。

参考：ジョブの印刷時に、ジョブ ID のバーコードを付けて印刷する場合は、バーコードオプションダイアログボックスから設定を行います。詳細は、ジョブ ID のバーコードを付けたジョブの印刷を参照してください。

2 OK ボタンをクリックして、印刷メニューまで戻ります。印刷を行うと、ジョブが印刷出力され、同時にハードディスクにそれぞれ一時保存ジョブまたは恒久保存ジョブが保存されます。

参考：一時保存ジョブあるいは恒久保存ジョブを再印刷出力するには、Network Tool for Clients が必要です。詳細は、Network Tool for Clients 操作手順書を参照してください。

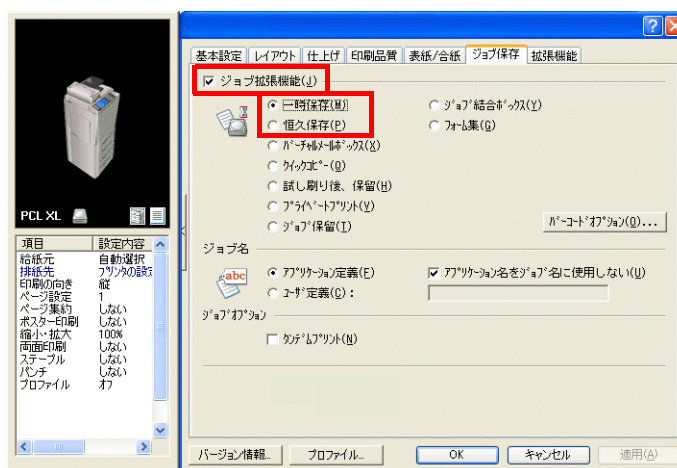
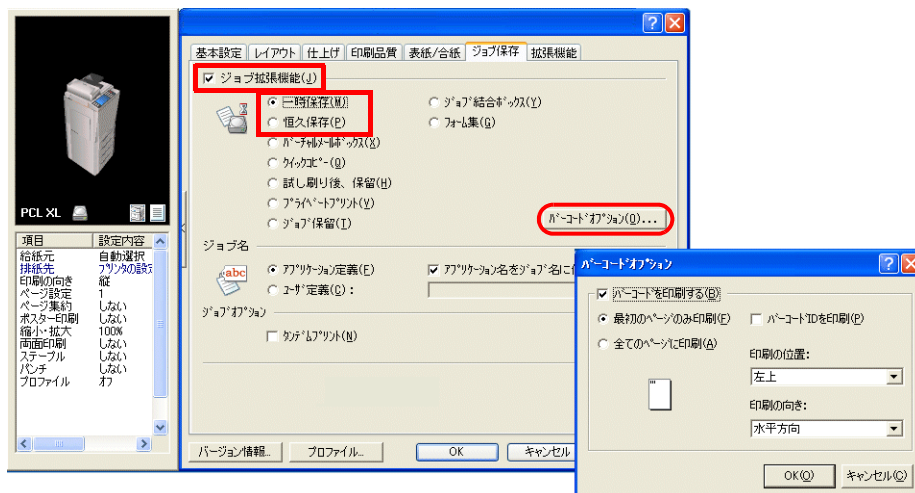
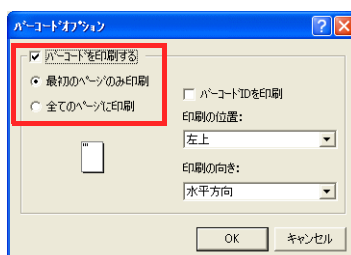
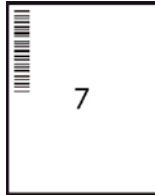
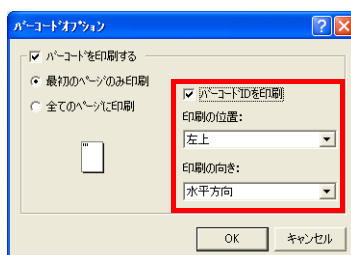
ジョブ ID のバーコードを付けたジョブの印刷

別売のバーコードリーダを使用して、保存ジョブの再印刷を行うことが可能です。

ジョブを最初に印刷する時に本操作を行うことで、各ページあるいは、表紙のみにジョブ ID を示すバーコードが印刷されます。

上記のバーコードを、バーコードリーダで読み取るだけで、そのページあるいはジョブ全体が再印刷されます。

バーコードリーダで読み取るジョブ ID を、ページ上に印刷する手順を説明します。

1 **ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**一時保存**または、**恒久保存**を選択します。

2 **バーコードオプション**ボタンをクリックして、**バーコードオプション**ダイアログボックスを表示させます。

3 **バーコードを印刷する**チェックボックスに、チェックを入れます。そして、**最初のページのみに印刷**、**全てのページに印刷**のどちらにするか選択します。

4 次の図のように、バーコードとともにジョブ ID を文字として印刷したい場合は、**バーコード ID を印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

5 **印刷の位置**ドロップダウンリストから、文書ページ上のバーコード印刷位置を選択します。さらに、**印刷の向き**ドロップダウンリストから、バーコードの方向を選択します。

6 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

バーコードの印刷位置及び印刷方向の組み合わせは、次の図のようになります。

印刷を行うと、指定した位置にバーコードが印刷されます。

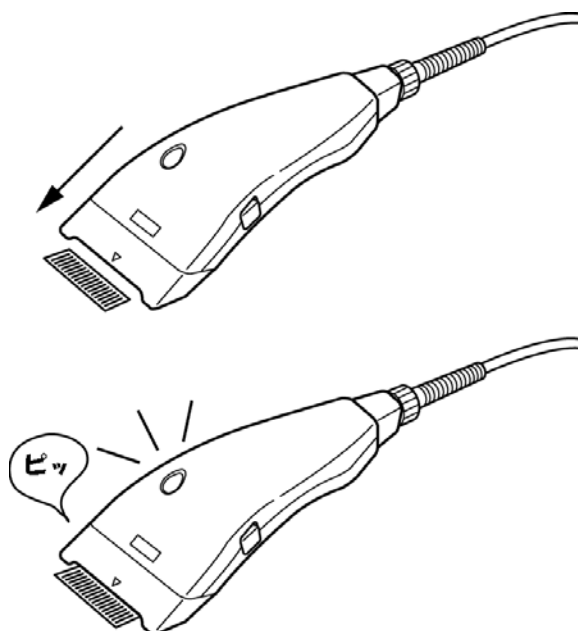
バーコードリーダでジョブ ID を読み取る方法については、次項を参照してください。

バーコードリーダによる保存ジョブの再印刷

バーコードとして印刷したジョブ ID をバーコードリーダで読み取ると、そのページがプリントシステムより印刷出力されます。

- **表紙ページのバーコードを読み取ると、全ページが印刷されます。**
- **ページごとにバーコードを読み取ると、そのページのみが出力されます。**

バーコードリーダをプリントシステムに接続するには、プリントシステムのシリアルインタフェースに接続します。

参考：シリアルインタフェースのモードをバーコードリーダ用に切り替える必要がありますので、詳細はバーコードリーダ付属の説明書を参照してください。

バーコードリーダによるジョブコードの読み取り

ジョブ結合ボックス

コピーしたデータと、アプリケーションソフトから印刷する電子データを 1 つの文書に結合して、選択したジョブ結合ボックスに保存できます。

この機能は、一部のプリントシステムで使用できます。機能の詳細は、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

ジョブ結合ボックスを使用するには、**印刷品質**タブの品質設定を**高品質**、**標準**、**エコプリント**のいずれかに設定するか、または**カスタム品質の設定**ダイアログボックスで Fast 1200 または 600 dpi を選択します。ジョブ結合ボックスに保存されるデータは、プリントシステムのメモリを使用するため、オプションのハードディスクの装着や RAM ディスクの設定は不要です。

ジョブ結合ボックスは、最大 100 個まで設定でき、各々 99 ページまでのデータが保存できます。複数のジョブを結合するには、これらのジョブを 1 つのボックスに送信し、操作パネルから出力します。ジョブは PC からボックスに送信したり、プリントシステムでスキャンしたデータを保存できます。

例：3 つの個別文書とスキャン操作で読み込む 1 ページを 1 つのジョブに結合するには、3 つの文書を同じボックスに一括送信してから、プリントシステムで 1 ページをスキャンし、ボックスに登録します。その後、操作パネルを使って文書の順番を並べ替え、1 つのジョブに結合します。

文書をボックスに送信する

1 文書を開き、**ファイル**メニューから**印刷**を選択します。

2 **印刷**ダイアログボックスから**プロパティ**ダイアログボックスを開き**ジョブ保存**タブを選択します。

3 **ジョブ保存**タブで、**ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れ、**ジョブ結合ボックス**を選択します。

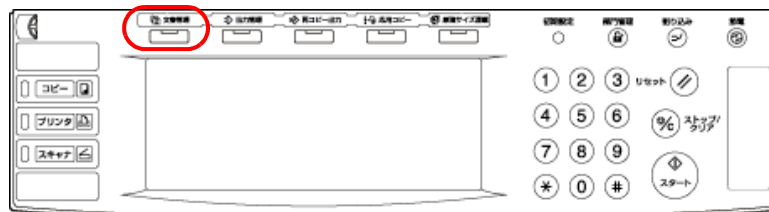
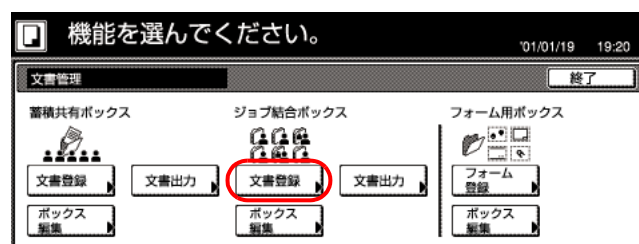
4 SPD ID ボックスに、ボックス番号を入力します。ジョブ結合ボックスは 100 個（ボックス番号 1 ～ 100）あります。ボックスが空かどうかは、プリントシステムの操作パネルから確認できます。

5 この時点で、ジョブ名をつけるか、またはプリントシステムで生成されるデフォルトの名称を確定するかのどちらかを選択できます。カスタム名をつける場合は、**ジョブ名**の下にある**ユーザ定義**を選択し、テキストボックスにジョブ名を入力します。

6 アプリケーションに基づいて、OK をクリックしてから**印刷**または OK をクリックすると、ジョブがボックスに送信されます。

これにより、プリントシステムのメモリ内のボックスにジョブが保存されます。

文書をスキャンしボックスに保存する

1 プリントシステムの操作パネルの**文書管理**キーを押します。

2 文書管理メニューが表示されます。**ジョブ結合ボックス**の下にある**文書登録**を選択します。

3 リストからボックスを選択します。

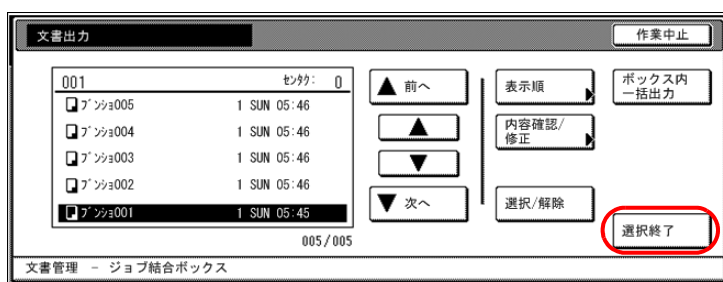
4 任意の文書名をつけるには、**名称変更**キーを押します。キーボードが表示されたら、文書名を入力します。**入力終了**をクリックして文書名を確認し、**文書登録**メニューに戻ります。

5 原稿を原稿送り装置にセットするか、コンタクトガラスの上にセットします。

6 **スタート**キーを押します。

これにより、ボックスに保存されます。この方法で保存された文書は、片面原稿として処理されます。

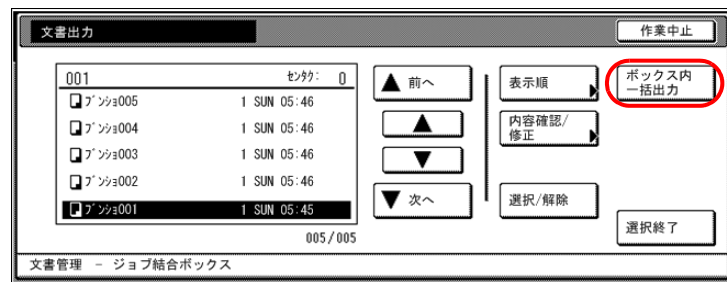
ボックス内の文書を出力する

1. **文書管理**キーを押してください。
2. **ジョブ結合ボックス**の**文書出力**キーを押してください。
3. 出力する文書が保管されているボックスを選択してください。直接ボックスキーを押すか、テンキーでボックス番号を入力して**設定**キーを押してください。ボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。テンキーでパスワードを入力し、**設定**キーを押してください。
4. 出力する順番に文書を選択して、**選択終了**キーを押してください。文書は最大 10 件まで選択できます。

参考：文書の表示順を変更することができます。表示順キーを押して、日付による並べ替え（新しい→古いと古い→新しい）と名称による並べ替え（A → Z と Z → A）から選択してください。
内容確認 / 修正キーを押すと、選択した文書の内容が確認できます。
文書を複数選択する場合はすべて同じサイズの文書を選択してください。違うサイズの文書を選択するとエラーになります。

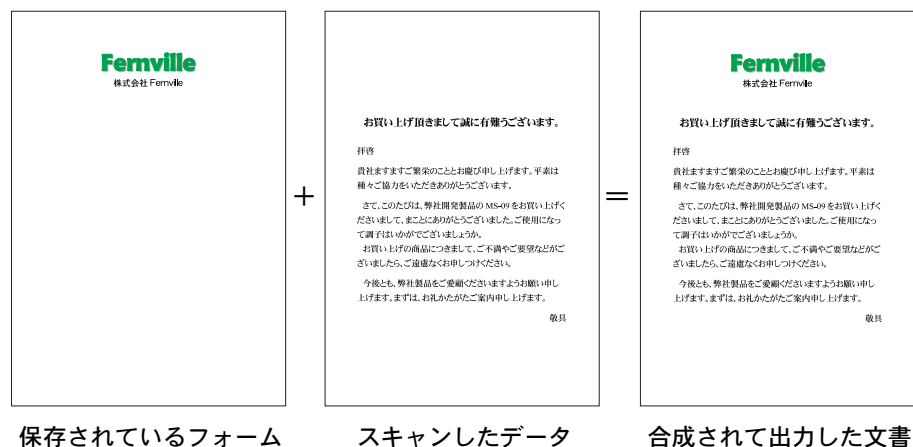
5. 用紙の選択、片面／両面印刷の設定、排出先の選択など、必要に応じて機能を設定してください。設定できる機能については、各プリントシステムに付属の使用説明書をお読みください。
6. テンキーを使って、出力部数を設定してください。
7. **スタート**キーを押してください。出力を開始します。

ボックス内の文書を一括出力する

1. **文書管理**キーを押してください。
2. **ジョブ結合ボックス**の**文書出力**キーを押してください。
3. 出力するボックスを選択してください。直接ボックスを押すか、テンキーでボックス番号を入力して**設定**キーを押してください。ボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。テンキーでパスワードを入力し、**設定**キーを押してください。

4 **ボックス内一括出力**キーを押してください。出力を開始します。

フォーム集

フォーム集機能を使用すると、定型フォームやイメージを最大 100 枚までプリントシステムのメモリに保存し、操作パネルから簡単に呼び出すことができます（ハードディスクの追加や RAM ディスクの設定は不要）。イメージを保存するには、PC からイメージを送信するか、またはプリントシステムでスキャンします。また、保存されているイメージのリストを出力し、イメージ情報の確認・変更、イメージの削除も可能です。保存したフォームを、プリントシステムでスキャンしたイメージと結合することもできます。

保存されているフォーム　　スキャンしたデータ　　合成されて出力した文書

この機能は、一部のプリントシステムで使用できます。機能の詳細は、プリントシステムに付属の使用説明書を参照してください。

フォーム集を使用するには、**印刷品質**タブで**高品質**を選択するか、または**ユーザ定義**を選択し、**カスタム品質の設定**ダイアログボックスを開き Fast 1200 を選択します。フォーム集は、**デバイス設定**タブの PDL **設定**ダイアログボックスで PCL 5e を選択した場合は、使用できません。

文書をフォームボックスに送信する

1 文書を開き、**ファイル**メニューから**印刷**を選択します。

2 **印刷**ダイアログボックスから**プロパティ**ダイアログボックスを開き**ジョブ保存**タブを選択します。

3 **ジョブ保存**タブで、**ジョブ拡張機能**チェックボックスにチェックを入れます。

4 **フォーム集**を選択します。

5 この時点で、ジョブ名をつけるか、またはプリントシステムで生成されるデフォルトの名称を確定するかのどちらかを選択できます。カスタム名をつける場合は、**ジョブ名**の下にある**ユーザ定義**を選択し、テキストボックスにジョブ名を入力します。

6 アプリケーションに応じて、OK をクリックしてから**印刷**または OK をクリックすると、ジョブがフォームボックスに送信されます。

これにより、プリントシステムのメモリ内のフォームボックスにジョブが保存されます。

保存されているフォームを文書と結合する

1 プリントシステムの操作パネルの**コピー**キーを押します。

2 **ユーザ機能**を選択し**イメージ合成**を選択します。

3 **設定する**を選択します。

4 **フォーム選択**キーを押し、**フォーム呼び出し**キーを押します。

5 フォームボックス内のフォームのリストが表示されます。オーバーレイするフォームを選択します。

6 **閉じる**を選択します。

7 オーバーレイ画面が表示されます。選択したフォームの濃度は、+ キーおよび - キーを押すと調整できます。

8 原稿を原稿送り装置にセットするか、コンタクトガラスの上にセットし、**スタート**キーを押します。

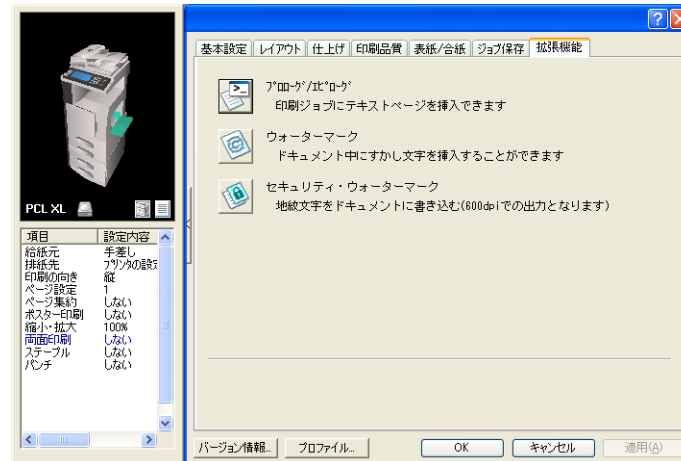
合成された文書が出力されます。

ジョブオプション (タンデムプリント)

プリントシステムを 2 台連結して大量の部数を自動的に分割して振り分け出力します。タンデムプリントを使用するためには、タンデムユニットを 2 台のプリントシステムに装着し、**プリンタのプロパティ**ダイアログの**デバイス設定**タブでタンデムユニットを選択しておく必要があります。

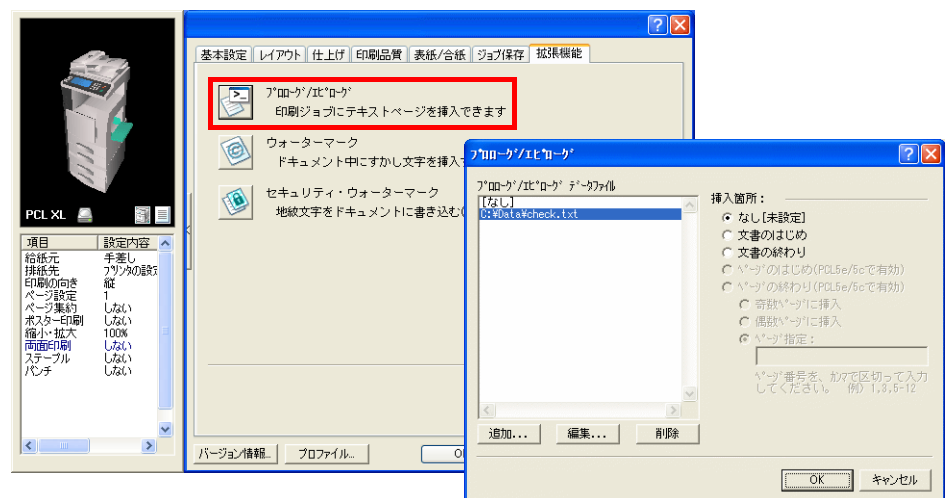
拡張機能

この節では、**拡張機能**タブについて、次の項目を説明します。

- プロローグ / エピローグ
- ウォーターマーク
- セキュリティ・ウォーターマーク

プロローグ / エピローグ

この機能は、プリスクライブコマンドを文書中に埋め込みます。マクロ、プリンタエミュレーションなどの設定を行ったり、外字やオーバーレイなどの機能を実現できます。

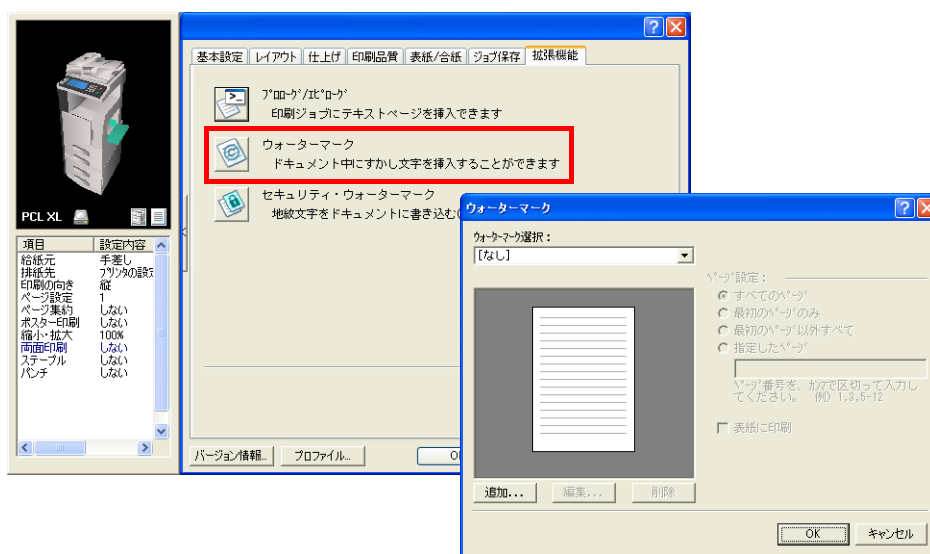
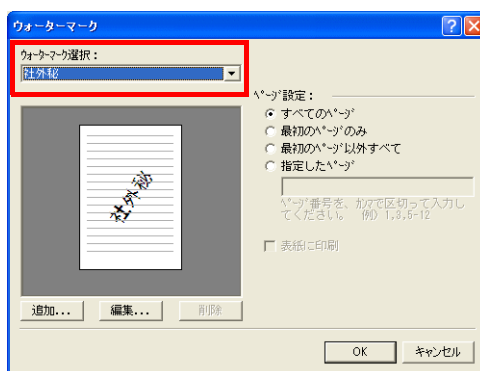
挿入箇所は、文書の始め、文書の終わり、文書の始めやプリスクライブコマンドが埋め込まれる場所、例えば、文書の始めや文書の終わりを指定できます。

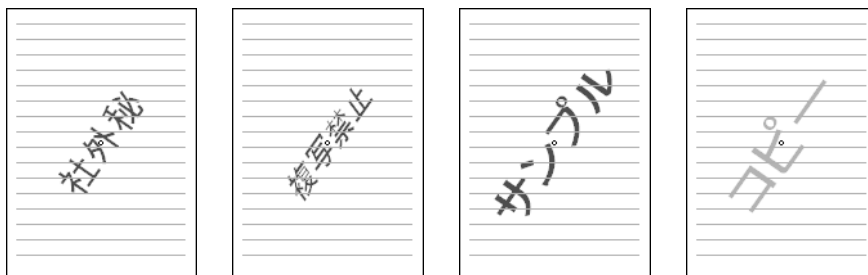
PDL **設定**ダイアログボックスの PDL で PCL 5e、PCL 5c を選択した場合のみ、**ページの始め**と**ページの終わり**のオプションが使用できます。また、ファイルボックスの項目を追加、編集あるいは削除もできます。

ウォーターマーク

ウォーターマーク（すかし）印刷は、文書の背景に任意の文字列を印刷します。文字列は、標準の文章（4 種類）から選択できるほか、任意の文字列を入力することもできます。

ウォーターマークの選択

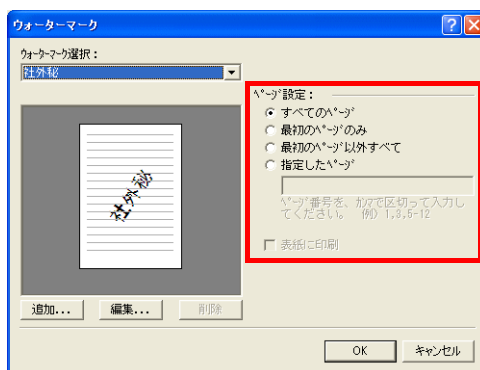
ウォーターマークの設定方法について説明します。

1 **ウォーターマーク**ボタンをクリックします。**ウォーターマーク**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ウォーターマーク選択**ドロップダウンリストから、使用したいマークの文字列を選択します。

このドロップダウンリストには、標準のウォーターマークが 4 種類設定されており、追加したウォーターマークも表示されます。

ウォーターマークの追加設定については、**ウォーターマークの追加**を参照してください。

標準のウォーターマーク

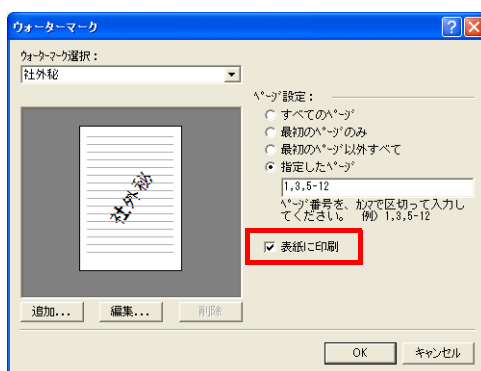
ウォーターマークのページ設定

ウォーターマークを印刷するページを設定します。

1 **ページ設定**で、ウォーターマークを印刷したいページを指定します。

次の項目から選択します。

- **すべてのページ**
- **最初のページのみ**
- **最初のページ以外すべて**
- **指定したページ**

指定したページを選択した場合は、すぐ下のテキストボックスの中に、印刷したいページを入力してください。たとえば、ウォーターマークを1,3,5,6,7,8,9,10,11,12 ページに印刷したい場合は、「1,3,5-12」と入力します。

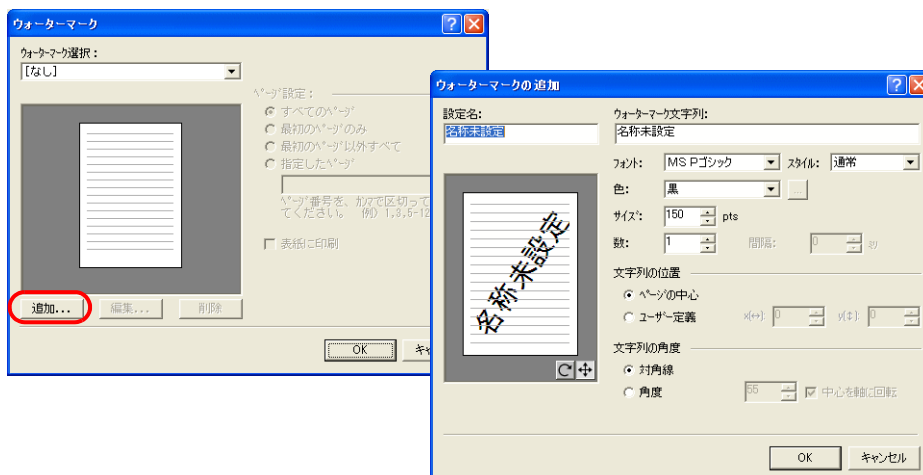
2 表紙へ印刷したい場合は、**表紙に印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

参考：表紙への印刷は、表紙 / 合紙タブでの表紙付け設定をする必要があります。また、表紙付け設定では、表紙のみ、表紙と裏表紙のどちらかを指定してください。詳細は、表紙付けを参照してください。

3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

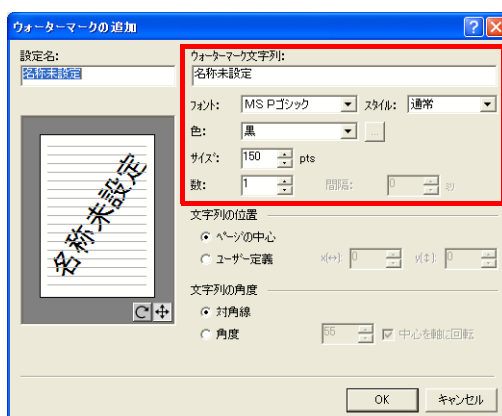
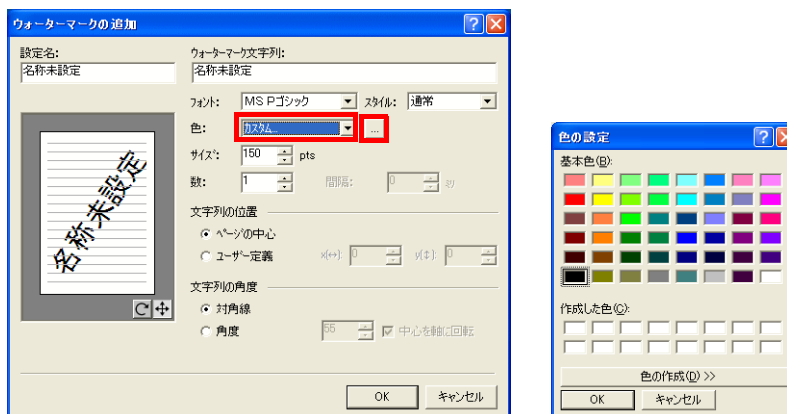
ウォーターマークの追加

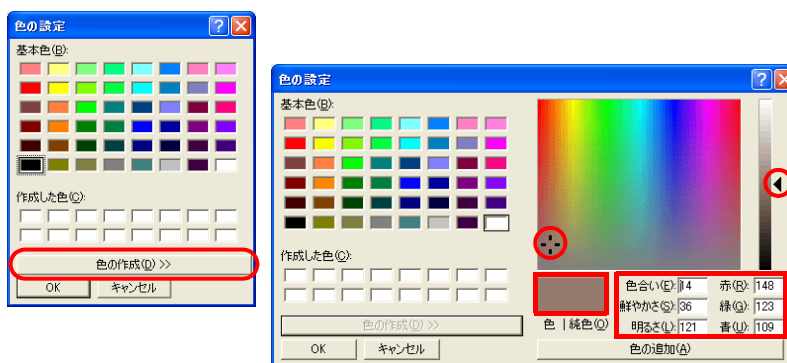
ウォーターマークとして、任意の文字列を追加できます。さらに、その文字列のフォントや色、位置角度などの編集もできます。

ウォーターマーク追加方法について、説明します。

1 **ウォーターマーク**ダイアログボックスで**追加**ボタンをクリックします。**ウォーターマークの追加**ダイアログボックスが表示されます。

2 **設定名**に、作成するウォーターマークの名前を入力します。

3 **ウォーターマーク文字列**に、ウォーターマークとして印刷する文字列を入力します。入力できる名前は、半角、全角ともに最大 39 文字です。

4 文字列の**フォント**や**スタイル**、**色**、**サイズ**、**数**とその**間隔**を設定します。

5 **色**を設定するには、**色**ドロップダウンリストで設定できます。カラーの場合は、**カスタム**を選択すると、ドロップダウンリストの右側のボタンが操作可能になります。ボタンをクリックすると、**色の設定**ダイアログボックスが表示されます。

基本色から**色**を選ぶ場合は、**基本色**の中から色を選んでクリックします。
色を任意で作成する場合は、**色の作成**ボタンをクリックして、カラーマトリックスを表示させます。

6 カラーマトリックスの表示画面において、**色合い**、**鮮やかさ**、**明るさ**を設定します。作成した色は**色｜純色**へ表示されます。

色合いと**鮮やかさ**を調整する場合は、カラーマトリックス上のポインタをドラッグして調節します。左右にドラッグすると**色合い**を選べ、上下にドラッグすると

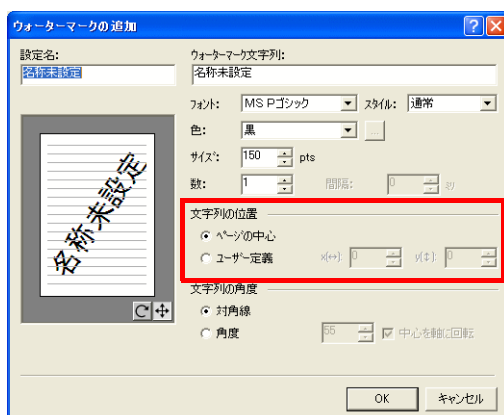
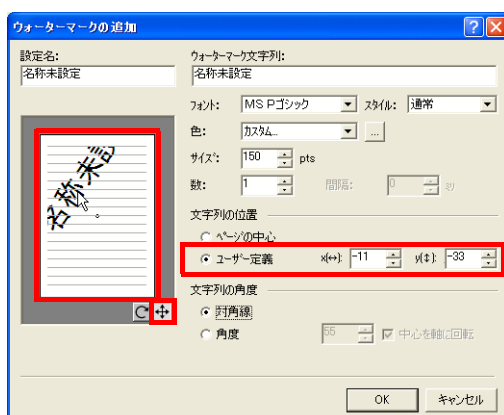
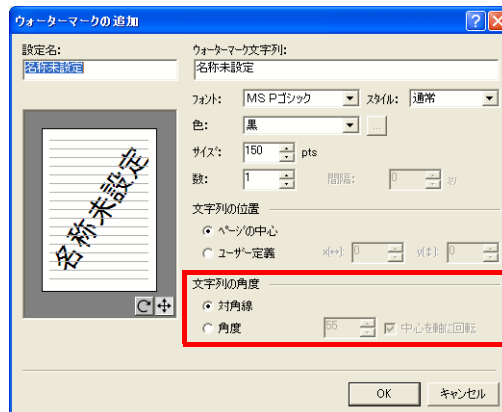
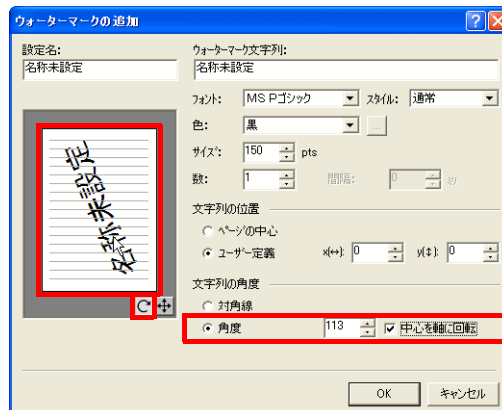
鮮やかさを調節できます。また、数値を直接入力して色合いなどを決定することもできます。

明るさを調整する場合は、カラーマトリックスの右側にあるスライダをドラッグして調節します。また、直接数値を入力しても可能です。

7 **色の追加**ボタンをクリックします。作成した色が**作成した色**の一覧に追加されます。

8 **色の設定**ダイアログボックスの**作成した色**の一覧から、使用したい色を選択します。

9 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

10 **文字列の位置**で、ウォーターマークを印刷する位置を設定します。**ページの中心**、**ユーザー定義**のどちらかを選択します。

ユーザー定義を選択した場合は、ウォーターマークページ中心からの相対的な位置座標を、x 軸（横幅）と y 軸（縦幅）の値を増減することで決定します。または、イメージ左下の十字矢印ボタンをクリックすると、イメージ上の文字列をマウスのドラッグ操作で調整できます。

11 **文字列の角度**で、ウォーターマークの角度を設定します。右上がり斜めに表示する**対角線**と、任意の角度を指定できる**角度**のどちらかを選択します。

角度を選択した場合は、スピンボックスに角度（左回りに 0°～ 360°）を入力します。または、イメージ左下の曲線矢印ボタンをクリックすると、イメージ上の文字列をマウスのドラッグ操作で調整できます。

文字列の位置の**ユーザー定義**を選択し、**文字列の角度**の**角度**をクリックすると、**中心を軸に回転**チェックボックスが操作可能になります。チェックを入れると、テキストの中央を支点にして角度を調整でき、チェックをはずすと、テキストの先頭を支点にして角度を調整できます。

12 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。**ウォーターマーク**ダイアログボックスの**ウォーターマーク選択**ドロップダウンリストから登録したウォーターマークが選択可能になります。

ウォーターマークの編集と削除

ウォーターマークの設定内容を編集できます。**ウォーターマーク**ダイアログボックスの**編集**ボタンをクリックすると、**ウォーターマークの編集**ダイアログボックスが表示されます。編集方法は追加設定と同じです。

また、追加設定で作成したウォーターマークは、削除することもできます。**ウォーターマーク**ダイアログボックスの**ウォーターマーク選択**ドロップダウンリストで、削除したいウォーターマークを選択し、**削除**ボタンをクリックします。

セキュリティ・ウォーターマーク

セキュリティ・ウォーターマーク（地紋文字）印刷は、文書の背景に任意の背景パターンと文字列を印刷します。セキュリティ・ウォーターマークを印刷した原稿をコピーすると、指定したセキュリティ・ウォーターマークが浮き出します。

文字列は、標準の文章（4 種類）から選択できるほか、任意の文字列を入力することもできます。

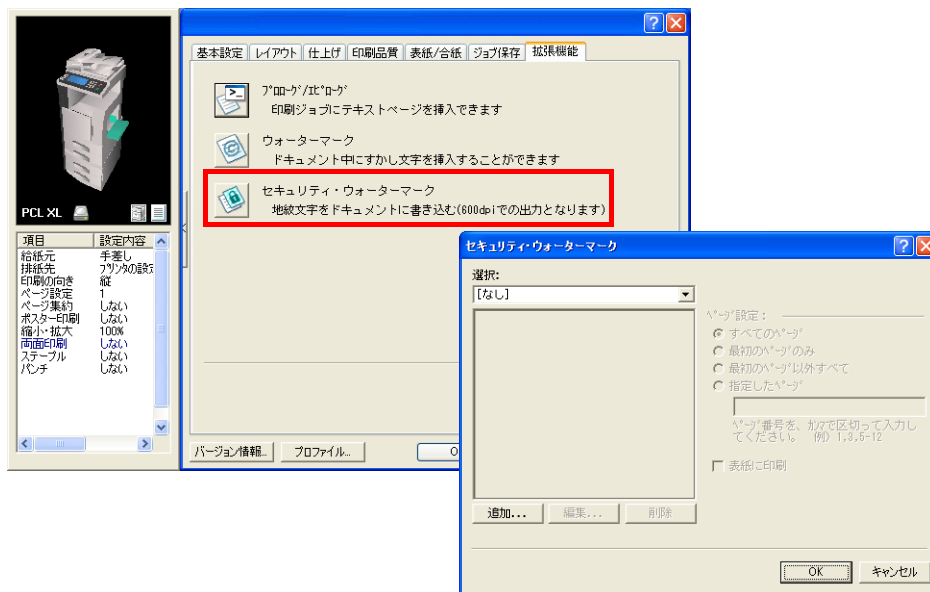
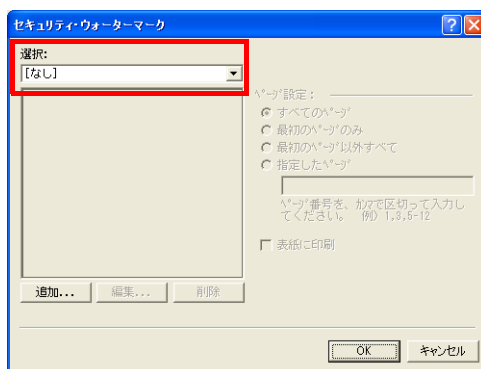
参考：セキュリティ・ウォーターマークは、PCL XL の場合に使用可能です。PDL の変更については、PDL 設定を参照してください。また、Windows Vista には対応していません。

また、セキュリティ・ウォーターマークを使用する際、印刷設定は次のとおりに制限されます。

設定項目	設定値
変倍	100%
出力用紙サイズ	100%
とじしろ設定－ ページに合わせて縮小する	オフ
ページ集約	オフ
ブックレット印刷	オフ
ウォーターマーク	オフ
ポスター印刷	オフ
KIR	オフ
解像度	600 dpi
エコプリント	オフ
白黒の明るさとコントラスト	0
カスタム色調整	[なし]
色合わせ	自動

セキュリティ・ウォーターマークの選択

セキュリティ・ウォーターマークの設定方法について説明します。

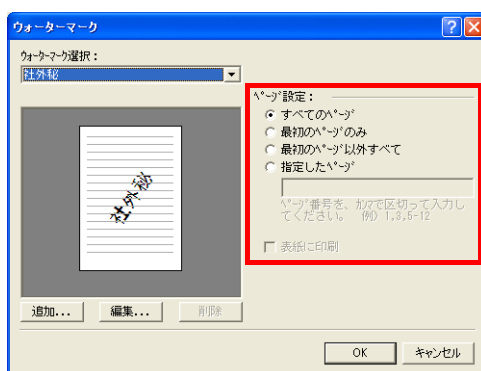
1 **セキュリティ・ウォーターマーク**ボタンをクリックします。**セキュリティ・ウォーターマーク**ダイアログボックスが表示されます。

2 **選択**ドロップダウンリストから、使用したいマークの文字列を選択します。

このドロップダウンリストには、標準の**セキュリティ・ウォーターマーク**が 4 種類設定されており、追加した**セキュリティ・ウォーターマーク**も表示されます。

セキュリティ・ウォーターマークの追加設定については、**セキュリティ・ウォーターマークの追加**を参照してください。

標準のセキュリティ･ウォーターマーク

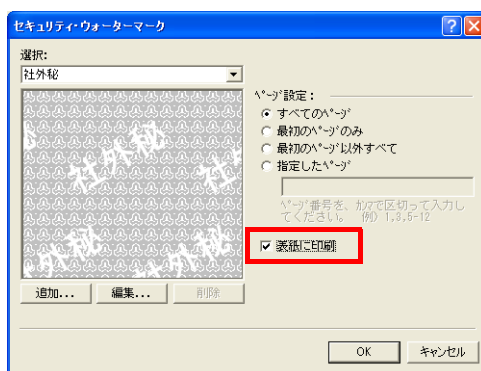
セキュリティ・ウォーターマークのページ設定

セキュリティ・ウォーターマークを印刷するページを設定します。

1 **ページ設定**で、**セキュリティ・ウォーターマーク**を印刷したいページを指定します。

次の項目から選択します。

- **すべてのページ**
- **最初のページのみ**
- **最初のページ以外すべて**
- **指定したページ**

指定したページを選択した場合は、すぐ下のテキストボックスの中に、印刷したいページを入力してください。たとえば、**セキュリティ・ウォーターマーク**を 1,3,5,6,7,8,9,10,11,12 ページに印刷したい場合は、「1,3,5-12」と入力します。

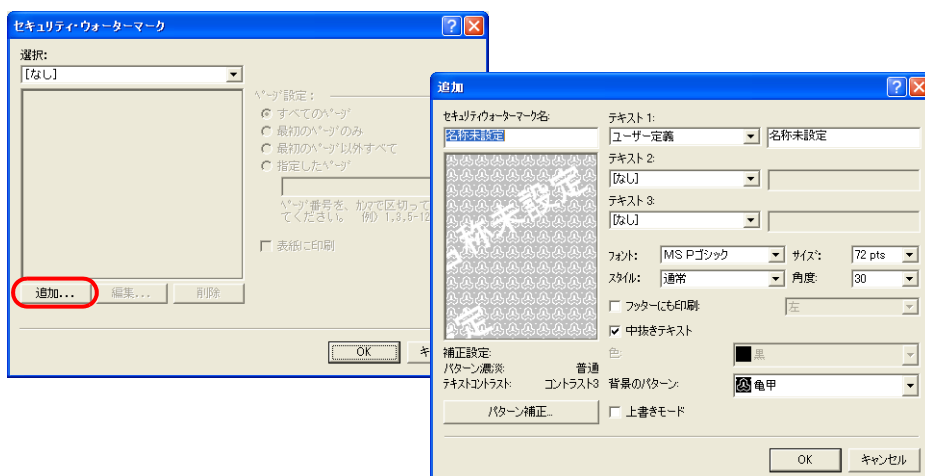
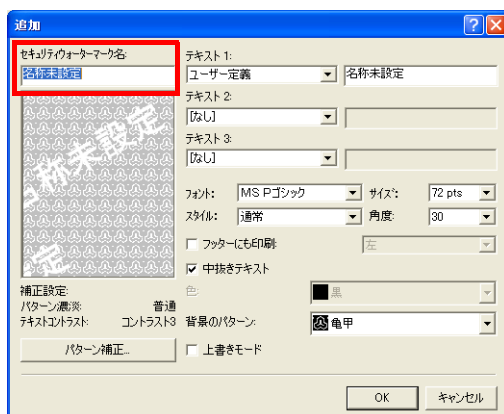
2 表紙へ印刷したい場合は、**表紙に印刷**チェックボックスにチェックを入れます。

参考：表紙への印刷は、表紙 / 合紙タブでの表紙付け設定をする必要があります。また、表紙付け設定では、表紙のみ、表紙と裏表紙のどちらかを指定してください。詳細は、表紙付けを参照してください。

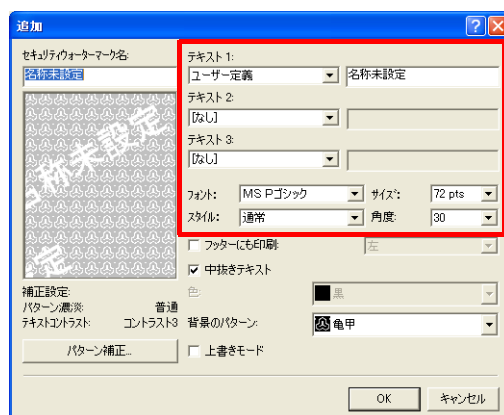
3 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。

セキュリティ・ウォーターマークの追加

セキュリティ・ウォーターマークとして、任意の文字列を追加できます。さらに、その文字列のフォントや色、位置角度などの編集もできます。

セキュリティ・ウォーターマーク追加方法について、説明します。

1 **セキュリティ・ウォーターマーク**ダイアログボックスで**追加**ボタンをクリックします。**追加**ダイアログボックスが表示されます。

2 **セキュリティ・ウォーターマーク名**に、作成する**セキュリティ・ウォーターマーク**の名前を入力します。

3 **テキスト 1**、**テキスト 2**、**テキスト 3** のドロップダウンリストから [**なし**]、**ユーザー定義**、**ホスト名**、**MAC アドレス**、**日付と時間**、**ユーザー名**、**ジョブ名**、**日付**、**IP アドレス**、**ジョブ ID**、**時間**のいずれかを選択します。**ユーザー定義**を選択した場合は、任意の文字列を入力することができます。入力できる文字列は、半角、全角、ともに最大 39 文字です。

4 文字列のフォントやスタイル、サイズ、角度を設定します。

5 フッターへ文字列を印刷する場合は、**フッターにも印刷**チェックボックスに入れると、**テキスト 1** に入力した文字列を印刷することができます。**テキスト 1** でなしを選択した場合は、**テキスト 2** に入力した文字列がフッターに印刷されます。印刷位置はドロップダウンリストから左、中央、右のいずれかを選択します。

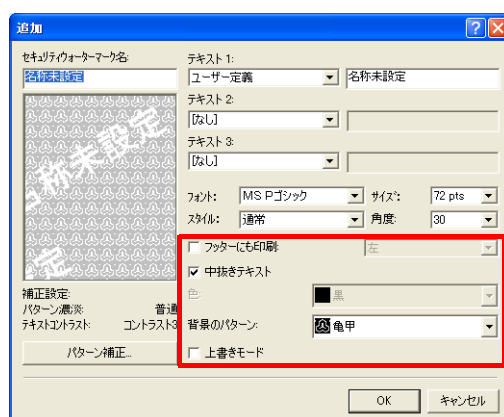
6 印刷する文字列を中抜き文字にする場合は、中抜きテキストチェックボックスにチェックを入れます。

7 文字列の色を選択する場合は、色ドロップダウンリストから黒、**シアン**、**マゼンダ**のいずれかを選択します。

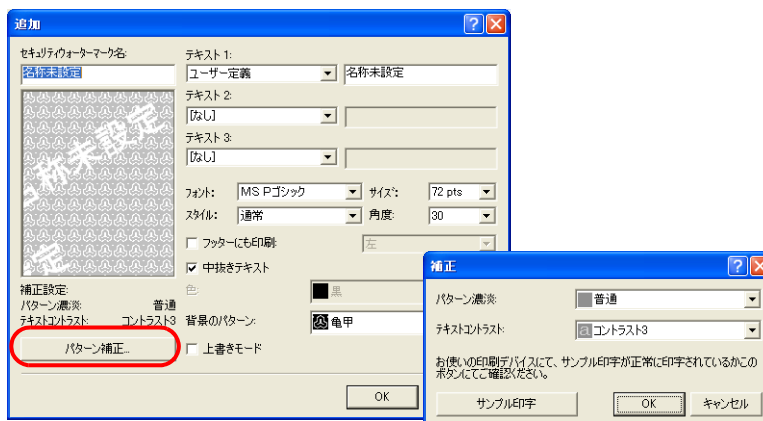
参考：モノクロプリントシステムの場合、色ドロップダウンリストはグレーアウトされて、選択することはできません。

---

8 **セキュリティ・ウォーターマーク**の**背景パターン**を変更する場合は、**背景のパターン**ドロップダウンリストから**亀甲**、**ウェーブ**、**エッジ**、**ブロック**、**格子**、**クロス**、**パネル**、**チェック**のいずれかを選択します。

9 印刷する文書に**セキュリティ・ウォーターマーク**を上書きする場合は、**上書きモード**チェックボックスにチェックを入れます。

参考：デバイス設定タブで GDI 互換モードを設定している場合は、自動的に上書きモードに設定されます。詳しくは、PDL 設定を参照してください。

---

10 背景パターンの濃淡および文字列のコントラストを補正する場合は、**パターン補正**ボタンをクリックし、パターン濃度およびテキストコントラストを調整します。

パターン濃度は薄め、普通、濃いから、テキストコントラストは**コントラスト 1**～**コントラスト 9** から選択できます。
補正結果を印刷する場合は、**サンプル印字**ボタンをクリックし、サンプルプリントを印刷します。

11 設定が終わったら、OK ボタンをクリックして、設定内容を保存します。**セキュリティ・ウォーターマーク**ダイアログボックスの**セキュリティ・ウォーターマーク選択**ドロップダウンリストから登録した**セキュリティ・ウォーターマーク**が選択可能になります。

セキュリティ・ウォーターマークの編集と削除

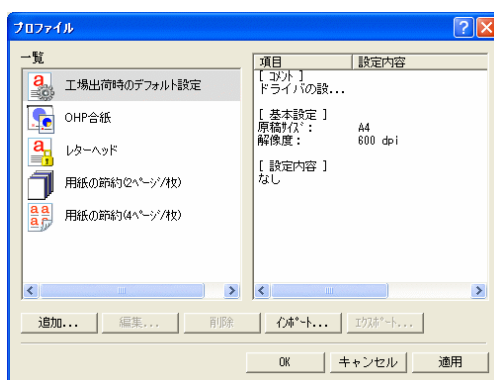
セキュリティ・ウォーターマークの設定内容を編集できます。**セキュリティ・ウォーターマークダイ**アログボックスの**編集**ボタンをクリックすると、**編集**ダイアログボックスが表示されます。編集方法は追加設定と同じです。

また、追加設定で作成した**セキュリティ・ウォーターマーク**は、削除することもできます。**セキュリティ・ウォーターマーク**ダイアログボックスの**選択**ドロップダウンリストで、削除したい**セキュリティ・ウォーターマーク**を選択し、**削除**ボタンをクリックします。

プロファイル

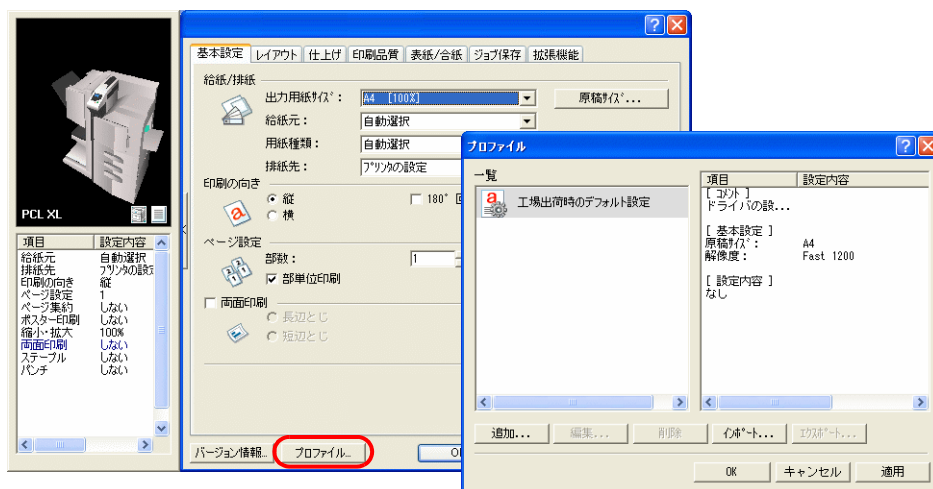
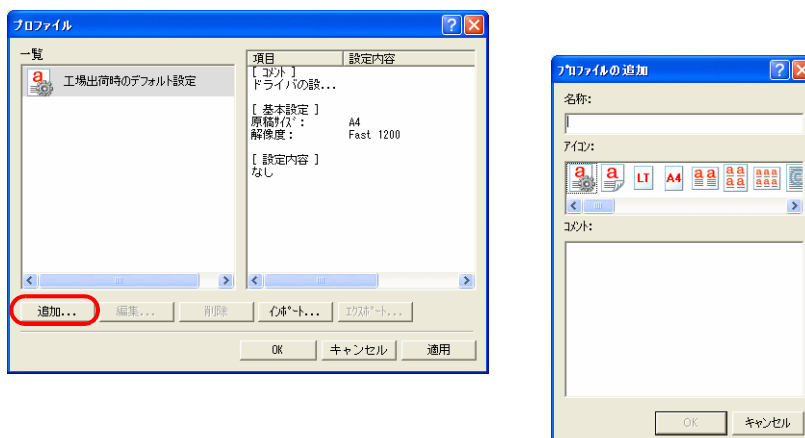
この節では、プロファイル機能について説明します。

プロファイルとは、これまで行ってきた印刷設定をひとつのパターンとして、名前をつけて保存し、必要なときに簡単に保存内容を呼び出すことができる機能です。再度タブごとに設定する必要がなく、用途に応じて印刷設定を保存しておくことができます。プロファイルは簡単に追加、編集、削除ができます。また、他のプリントシステムのプロファイルを読み込むこともできます。

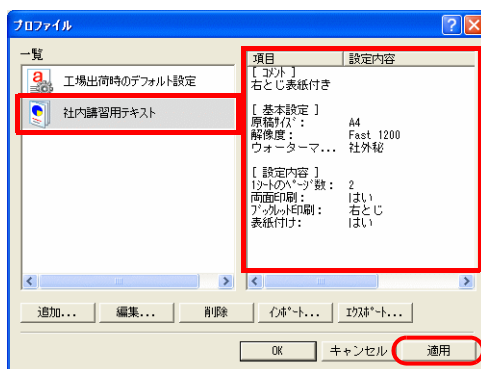
参考：プリンタドライバのオプション設定時に共通プロファイルをインストールしておくと、プロファイルタブの一覧にアイコン表示され、各プリントシステム共通で使用できます。詳細はコンポーネントの選択およびインストールを参照してください。

プロファイルの作成

新規プロファイルの作成方法について説明します。

1 **印刷設定**ダイアログボックスの各設定タブにて、必要な印刷設定を行います。

2 **プロファイル**ボタンをクリックします。**プロファイル**ダイアログボックスが表示されます。

3 **追加**ボタンをクリックして、**プロファイルの追加**ダイアログボックスを表示させます。

4 追加するプロファイル情報の**名前**を入力し、**アイコン**を選択します。**名前**に入力できる文字列は、半角、全角ともに最大 15 文字までです。必要に応じて**コメント**を入力します。入力できる文字列は半角、全角ともに最大 127 文字までです。

5 OK ボタンをクリックし、プロファイルを保存します。**プロファイル**ダイアログボックスに戻ります。

6 **一覧**にアイコンと名前、**情報**に設定内容とコメントが表示されます。**適用**ボタンをクリックすると、その印刷設定を使用できます。

プロファイルの編集と削除

プロファイルの設定内容を編集できます。**プロファイル**ダイアログボックスの**編集**ボタンをクリックすると、**プロファイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。編集方法は追加設定と同じです。

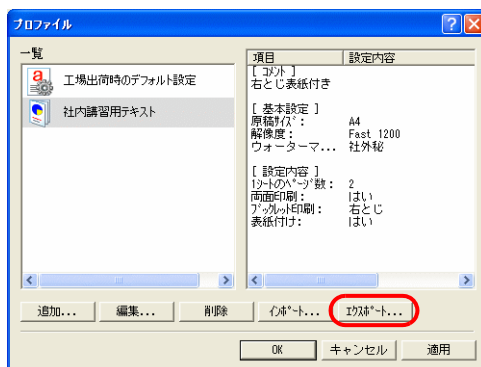
また、プロファイルは削除することもできます。**プロファイル**ダイアログボックスの一覧で、削除したいプロファイルを選択し、**削除**ボタンをクリックします。

プロファイルのエクスポートとインポート

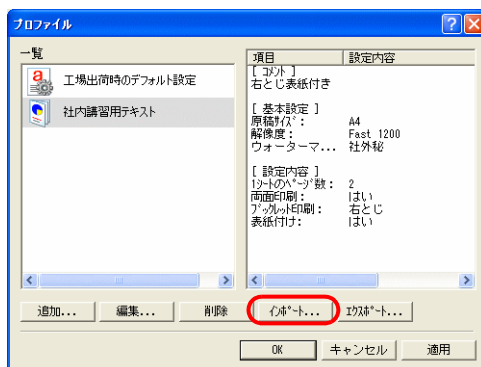
プロファイルをファイルで PC に保存すると、他のプリンタドライバへ取り込むことができます。数台のプリントシステムでのプロファイルの共有が可能です。

参考：同じプロファイルでもモデルにより、プロファイルどおりに印刷できないことがあります。

プロファイルをファイルに保存（エクスポート）する方法について、説明します。

1 **プロファイル**ダイアログボックスの**一覧**から取り込みたいプロファイルを選び、**エクスポート**ボタンをクリックします。

2 ファイルを保存するダイアログボックスが表示されますので、パスとファイル名を指定して、保存します。

プロファイルをファイルから読み込む（インポート）方法について、説明します。

1 **プロファイル**ダイアログボックスから**インポート**ボタンをクリックします。

2 ファイルを開くダイアログボックスが表示されますので、パスとファイル名を指定して、読み込みます。

参考：「プロファイルの設定によっては、適用しないモデルがございます。継続しますか？」のウィンドウが表示された場合は、保存されたプロファイル中に使用できない機能があります。OK ボタンをクリックして、プロファイルダイアログボックスに戻ります。

3 **一覧**に取り込んだプロファイルが表示され、プロファイルが読み込まれたことを確認します。

付録　対応オプション一覧表

機種名	デバイスオプション A ペーパーフィーダ B 封筒フィーダ C バルクフィーダ D 大容量フィーダ	両面ユニット	A ドキュメントフィニッシャ B 中とじフィニッシャ	A パンチユニット B 反転ユニット	A フェイスダウンスタッカ B バルクスタッカ / オフセットスタッカ C ソータースタッカ	オプションハードディスク
LP1800	A PF-60 × 3 C PF-8E	DU-61			B HS-8E C SO-60	Micro Drive
LP1820	A PF-60 × 3	DU-61			C SO-60	Micro Drive
LP6800	A PF-26 × 2	DU-25				HD-2
LP6820N	A PF-26 × 2	DU-25				Micro Drive
LP9500DN	A PF-70 D PF-75	標準	A DF-71J (3000 枚パンチつき) B DF-75（中とじ）	A PH-2B (DF-75) B RA-1 (DF-75)		HD-4
Color LP8026N	A PF-640 A PF-645 A PF-647	DU-640	A DF-600 B DF-610	A PH-3		HD-10
LP2000D	A PF-310 × 2	標準				Micro Drive
LP6950DN	A PF-430 × 4	標準				Micro Drive